

2021年度

看護学部シラバス

佐久大学看護学部

看護学部 1 年次配当科目

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
人間関係とコミュニケーション	(A) 100 (B) 101	1前	必	2単位 30時間	講義	(A) 木2 (B) 木3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮内克代 MIYAUCHI, Katsuyo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
ケアを受ける人にとっては、ケアを提供する人に「安心・安全・信頼」などを求めることは当然のことで、だからこそ、ヒューマンケアを目指す人にはケアを受ける人との良好な人間関係の構築が必要となる。そのためには適確で穏やかなコミュニケーションの実践が重要なキーワードになるが、本講座では、ヒューマンケアを目指す人に必要なコミュニケーションの様々な形、ケアの対象に応じた多様なコミュニケーション（言語・非言語的）のあり方と活用方法について学ぶ。このような学習を通して、自己と他者との関係、他者相互間の関係等について理解を深める。						
到達目標						
1. コミュニケーションの意味と仕組みが理解できるようになる。 2. 社会人として、また医療・福祉の専門職としての対人コミュニケーションスキルを磨くことを目標にする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	コミュニケーションとは何か			講義と演習を 有機的に組み 合わせる	宮内	
2	被援助者の権利と責務、ホスピタリティとケア・コミュニケーション					
3	医療・福祉のコミュニケーションの役割					
4	目的とプロセス、QOL向上とコミュニケーションの関係					
5	信頼感を高めるコミュニケーション①					
6	メッセージ伝達、言語的・非言語的コミュニケーション					
7	信頼感を高めるコミュニケーション②					
8	場面による声かけの表現、肯定的な表現					
9	敬意を伝えるコミュニケーション					
10	敬語の種類と使い方、クッション言葉を学ぶ					
11	被援助者への受容と共感					
12	ペーシング、アイスブレイク、交流分析					
13	苦情やクレームに対応する					
14	ニーズとクレーム、クレームの背景と解決法					
15	説明と同意のコミュニケーション					
16	自己決定のサポート、わかりやすい説明とは					
17	被援助者の主体的な行動を引き出すコミュニケーション					
18	コーチングの基本と表現、方法					
19	チームワークとコミュニケーション					
20	ハウレンソウ、医療・介護のチームワーク					
21	建設的で前向きな人間関係とは					
22	アサーティブなコミュニケーション、ケーススタディ					
23	障害を持つ方とのコミュニケーション					
24	「障害」とは何か、視覚・聴覚・言語障害者とのコミュニケーション					
25	認知症の方とのコミュニケーション					
26	認知症ケアにおけるコミュニケーション					
27	終末期の方とのコミュニケーション					
28	その人らしい人生を最期まで支えるケア					
29	今期のまとめと復習					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
コミュニケーション演習の一環として、インタビューやレポートなどの課題がある。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：松田美幸他『ケア・コミュニケーション』ウイネット 参考文献：プリント配布
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（25%） 授業参加状況（25%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポートに対し、個別に講評を行う。詳細は授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
「自分の意見を相手に伝わる形にして、述べる」という体験と「さまざまな事例にどのように対処するか、考える」という考察をしていく。理論や事例などのすべてを「自分自身の問題」と考えて、積極的に授業に取り組むこと。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間心理と人間行動	102	1前	選	2単位 30時間	講義	金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○倉田郁也 KURATA, Ikuya						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の13時から14時30分まで、授業終了後から18時までの間 カウンセリングルームへお越しください。						
授業の概要						
人の心の発達と心の働き（自己や自我、人格形成等）について学ぶ。人々が見せる様々な行動の意味、行動化の原因としての心の働きやメカニズムについて理解を深め、人の行動と心の働きの関連を理解する。これらの学修を通して、多様な人間の多様な心や行動の理解を深めていく。						
到達目標						
1．“こころ”を科学的に理解しようとする態度を身につける。 2．“無意識”の存在と働きを知り、行動に及ぼす影響を知る。 3．“こころ”についての幾つかのとらえ方・理解の仕方を学び、イメージできるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ガイダンス	講義	倉田			
2	人を見る（見る・観る・覧る・視る・診る・看る）とは、人を理解するとは	講義				
3	科学的視座・科学の要件、人間学とは、心理学の立場・研究方法・分野	講義				
4	類型論（C.G.ユング、クレッチマー、シェルドンの類型論）	講義				
5	特性論（オルポート、ギルフォード等の特性論）	講義				
6	精神分析学（S.フロイト等）と分析的心理学（C.G.ユング等）	講義				
7	アドラー心理学〔個人心理学〕（A.アドラーによる人間理解とその方法）	講義				
8	人間性心理学〔成長モデル心理学〕（C.ロジャースによる人間理解とその方法）	講義				
9	行動科学としての心理学、臨床心理学、健康心理学、社会心理学	講義				
10	ストレスと認知構造（ストレッサー、認知構造、ストレス反応）、ストレスと付き合う	講義				
11	行動変容と心理療法（心理療法の考え方・立場、いくつかの心理療法紹介）	講義				
12	医療・保健・福祉分野における心理学的支援（心理相談業務と福祉相談業務の類似点と差異）	講義				
13	認知療法、論理療法、行動療法、認知行動療法 概説	講義				
14	発達と発達課題（ピアジェ、フロイト、エリクソン、ハヴィガースト等の発達段階区分と発達課題）	講義				
15	高齢者を理解し、支援するということについて 認知症、介護ストレス等について 総括	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業の復習を30分確保して下さい。小テストを行います。 図書館等を利用し、広く心理学に関する読書をして、30分予習をしください。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：適宜資料を配布する。</p> <p>参考文献：榎本博明著『はじめてふれる人間関係の心理学』サイエンス社 2018年</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（50%）</p> <p>小テスト（50%）</p> <p>授業参加状況（0%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>採点とコメントを付して返却する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>積極的な授業参加を求めます。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
信仰と文化	103	1後	選	2単位 30時間	講義	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮入宗乗 MIYAIRI, Shujo 風早康恵 KAZAHAYA, Yasue						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎回、授業終了後に教室にて質問を受ける。さらに質問に応える必要があれば学生と相談のうえ指示を行う。適宜、授業の最後に感想カードを提出して貰い、学びに活用する（学籍番号・氏名明記）。						
授業の概要						
人間社会がつくり出した文化を、その価値を共有するためには、何よりも一人ひとりの精神的価値（宗教、理念など）を束ねることが重要な課題であった。この現象は、古代から現代まで、中東からアジアの国に至るまで時代と国境を越えた人間歴史が共通する痕跡で、人間社会の本質を知る上で必須不可欠な学びである。特に信仰には、文化圏で育まれた世界観や倫理感を反映した枠組みを必ず持つが、本講座では、信仰対象の多様性と文化の成り立ちから日本の伝統精神を理解し、日本人らしさとは何かを学ぶ。さらに、日本人の生活様式、価値観、倫理観、死生観等の形成に大きく影響してきた神道、仏教の考えについて理解する。「人の生命の現場」に向きあいながら、人生の中で「ケア」の道を目指す学生と「生命観・死生観」に視点を置きながら学びを深める。						
到達目標						
1. 日本社会の形成と日本人の個々の精神生活・精神文化に深く影響を与えてきた仏教についてあらためて参究し、その視座を通して「すべての生命の尊厳」「自己存在の意味」や他者とのよりよきかんけいせいのあり方を学ぶ。 2. 自然・風土・生活のうちに醸成される信仰（神道）の根幹にあるものは、「命をはぐくみ、守り、再生させる」ことへの希求であり、一般的に「神事」と呼ばれる儀式、共同体において行われる祭礼は、そうした祈りが形を得たものであることを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる力」を身につけ、他社への様々な気づきにより、「社会貢献への喜び」を感じる事の出来る人格の形成を目指す授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	学習テーマについてのオリエンテーション：（授業の方向付けと、この講座で学ぶことを示す） ・ 仏教についての基本的な知識とその成り立ち（概論）。 ①『釈尊』の生涯 ②仏教の伝播とその形態 ②日本人の宗教観における仏教の果たした功罪。（「先祖崇拜」との関連を含めて）	講義	宮入			
2	『諸行無常』と云うこと（仏教の世界観・死生観の根底にあるもの） ・ もうひとつの「諸行無常」	講義	宮入			
3	「四苦」と云うこと…この世に生まれた限りは背負うもの ・ 「苦」が「くるしみ」を超えて「人生課題」となるとき。	講義	宮入			
4	『道元』に見る「いのちの視点」【1】 ①道元禅師の生涯と足跡 ②「典座教訓」「赴粥飯法」のこころ	講義	宮入			
5	『道元』に見る「いのちの視点」【2】 「いのち」を行ずる「四摂法」について(1) ①四摂法とは②布施③愛語	講義	宮入			
6	『道元』に見る「いのちの視点」【3】 「いのち」を行ずる「四摂法」について(2) ①利行 ②同事 ③まとめ	講義	宮入			
7	まとめ ・ 看護を目指す上で、あらためて『何故生命は大切か？』を考察する。 ・ すべての「生命」への気づきについて ・ 「贈る言葉」…心を押す「ことば」たち	講義	宮入			

8	学生の何人かを指名、自己紹介・この授業に期待する事を自由に話して貰う。 「信仰」「神道」「宗教」等のキー・ワードに対する印象を学生から聞き取り、簡単な定義づけと解説とを行うとともに、本授業の概要・学びの流れを説明する。	講義	風早
9	「神道」の源流を学ぶ ・自然・風土・生活のうちに育まれた共同体の信仰として ・遺跡にみる原始信仰 ・「神」はどのように理解できるか	講義	風早
10	風土の諸相と、生み出される信仰・祭祀とを学ぶ ・山宮ー里宮ー田宮の構造 ・「町」「国」「日本一国」の祭祀の構造 ・「子守り・命を守る」祭祀	講義	風早
11	神社ー「社」の源流を学ぶ ・神社の起源 ・「モリ」と「森」と「杜（モリ）」 ・様々な祈り、様々な神社	講義	風早
12	四季の神事・祭礼を学ぶ ・祭りの春夏秋冬 ・共同体の春夏秋冬 ・人生の春夏秋冬 ・命を守り・はぐくみ・再生させる祭り	講義 映像鑑賞	風早
13	古典に学ぶ神 ・『備後国風土記逸文』にみる疫神 ・おとずれ神と、神の祭り ・逍遙する神	講義	風早
14	おとずれ神ー災禍と予祝と ・『常陸国風土記』の富士と筑波 ・大和の三輪山と二神山 ・国府総社と国分寺	講義	風早
15	ディスカッション（グループ→全員）	講義	風早
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
≪宮入≫ 毎回授業時に授業内容に応じた重点項目・箇所などを提示し、添付の補促資料の読み直しなどによる理解の向上について指示する。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。 ≪風早≫ 学びのポイントについては授業時に説明し、さらなる学びが可能となるような資料紹介を行う。1回の授業について、1時間程度予習・復習（資料の熟読）を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
≪宮入≫ 指定しない。講師作成の教材・資料集を配布する。 ≪風早≫ 授業ごとに、講師作成の資料を配布する。学びに有用と考える書籍等は、授業のさいに紹介してゆく（購入を義務づけけない）。			
成績評価の方法・基準			
レポート（70％）授業参加状況（30％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
≪宮入≫ 授業時に説明する。 ≪風早≫ 授業時に説明する。感想カードは、提出ごとに2点を加算する。			
担当教員からのメッセージ			
≪宮入≫ いのちの不思議に目覚め、人として生きる意味を確かめ、他のために役立つ、誰かに必要とされる「自分」と出会おう！ ≪風早≫ 皆さんと一緒に、いきいきと学んでゆきたいと思います。皆さんからも、様々な、多くを教えて貰えることと、楽しみにしています。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
元住職である教員が、その実務経験を生かした授業を行います。（宮入宗乗）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間環境と生物科学	104	1後	選 (保) 必	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員） ○片野 修 KATANO, Osamu						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、授業以外の時には電子メールで受け付ける（メールアドレスは別に知らせる）。						
授業の概要 我々人類を取り巻く環境について、地球規模で理解し、環境問題や地球環境保全に関する理解を深める。環境汚染や環境破壊が人間を含め生物や自然に与える影響について理解する。						
到達目標 1. 環境とは何かをグローバルな視点で理解し、説明ができる。 2. 様々な地球環境の問題について説明ができ、その関連性についても理解ができています。 3. 水と生命、水環境と保全などについて、現状を理解し、その問題点についても言及できる。 4. 生物多様性を理解し、その保全対策について説明ができる。 5. 化学物質が私達の健康に与える影響について説明ができ、関連内容についても理解ができています。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連 「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	人間と環境との関係を、地球の歴史や公害問題と関連付けて学ぶ。 (第1章 人間と環境、第2章 公害防止と環境保全)			講義	片野	
2	水の利用と下水処理について、有害物質の除去に着目しながら学ぶ。 (第3章 水資源と人間活動、第4章 都市の環境問題と自然)					
3	日本の水環境、森林破壊、生物多様性について学ぶ。 (第4章 都市の環境問題と自然、第10章 森林破壊と生物多様性)					
4	生態系の仕組みと自然および生物多様性の保全について学ぶ。 (第10章 森林破壊と生物多様性)					
5	日本の水環境と酸性雨、大気汚染について学ぶ。 (第4章 都市の環境問題と自然、第5章 人間活動による大気汚染)					
6	化学物質と環境について、有害物質と健康被害に注目して学ぶ。 (第6章 化学物質と環境、第7章 地球環境問題)					
7	地球温暖化の影響と対策について、生態系の変化や農林水産業に着目しながら学ぶ。 (第8章 地球温暖化とCO2、第9章 低炭素社会の構築)					
8	これまでの授業を復習しながら、環境に配慮した循環型社会について学ぶ。 (第11章 循環型社会の構築)					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>次回の授業範囲を予習し（指定したテキストは事前に読んでおく）、用語の意味を理解しておくこと。</p> <p>授業内容を毎回復習しておくこと。</p> <p>1回の授業について2時間程度予習復習を行うこと。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：鈴木孝弘著『新版 新しい環境科学』—環境問題の基礎知識をマスターする。 駿河台出版社</p> <p>参考文献：必要に応じて授業内で紹介する。</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（70%）</p> <p>レポート提出（30%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>授業時に説明する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>板書をするので、ノートをしっかりと、とってください。目で見て、耳で聞いて、頭で理解し、手を動かし、要領よくポイントをまとめる訓練です。講義では重要視しています。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ケアと人権	105	1前	選	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○上西一貴 JONISHI, Kazuki						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。 k-jonishi●saku.ac.jp						
授業の概要						
ソーシャルケアの対象となる人々は、その生成過程での社会的孤立や排除、無権利や無救済などに加え、生活、社会的地位と権利などの面でいわゆる「弱者」の位置に置かれることが多い。従って、制度、サービスの運用面で最大の「配慮」を必要とするだけでなく、ケアの実践の場面においても人間の尊厳を踏まえた倫理的・道義的配慮と、人権の尊重が求められる。ハンセン病、被爆者、子どものいじめ・虐待、精神疾患患者・認知症者等の身体拘束と隔離などの、歴史的、現代的課題を学ぶことで、ケアの基本目標のひとつである基本的人権の確保と尊重についての理解を深める。						
到達目標						
①差別されたり社会的に排除されたケアの対象者に共感できる。 ②ケアと人権の結びつきを自分の言葉で表現できる。 ③自分の身近なところにある差別や社会的排除の事例を説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ケアと人権の視点―排除と差別の歴史から学ぶこと	講義	上西			
2	現代のケアと人権：ハンセン病	講義	上西・ゲスト			
3	現代のケアと人権：被爆者1（原爆被災者）	講義	上西			
4	現代のケアと人権：被爆者2（福島原発）	講義	上西・ゲスト			
5	現代のケアと人権：児童虐待	講義	上西			
6	現代のケアと人権：身体拘束	講義	上西			
7	現代のケアと人権：優性思想	講義	上西			
8	存在原理と機能原理からみるケア	講義	上西			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前学習：新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通してください。（15時間） 授業内で配布した資料をよく復習しておく。 事後学習：授業内で指示する参考資料などを読んでください（15時間）						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキストは定めません。 参考書は授業内で提示します。						

成績評価の方法・基準	
振り返りシート	50%
レポート課題	50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
振り返りシートについては授業時にコメントします。とくに要望があれば個別にコメントします。	
担当教員からのメッセージ	
この科目ではとくに、きくこと、考えること、表現すること、が求められます。	
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）	

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
人間存在と世界観	106	1～4 前	選	2単位 30時間	講義	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○江口 建 EGUCHI, Takeru						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問・相談を受け付ける。 メールでの質問・相談は、随時、応対可能（連絡先メールアドレスは、初回授業にて指示）。						
授業の概要						
人間は、長い進化の歴史の中で常に存在の意味や価値を問いかけ、その答えを宗教や理念、文化などのあらゆる面から見つけ出そうとしてきた。その中で個人と世界との関連性に意味を与え、客観的かつ社会的存在としての意識も高まっているが、本講座では、その社会的存在としての人間の義務や責任、共存のための規範や意義について考えることにより、社会的行為の意味を理解する。また、人間観や世界観について、さまざまな考えがあることについて学ぶ。とりわけ、現代社会における「いのちの尊厳」への軽視傾向に向きあい、個々を尊重し合う社会環境の創成と自らの関わり方について視野の拡大を考える。						
到達目標						
1. 雑多な情報が氾濫し、善悪の基準が多様化している現代において、倫理観と責任感の意味を理解し、自分のふるまいを批判的に吟味しながら、善悪とは何かを見極める判断力を培うことができる。 2. 仮想空間やデジタルツールが浸透している現代社会において、自己と世界との関係、社会的存在の意義、生命の価値、また、共存、自由、義務、権利といった概念について理解を深めることができる。 3. 多様な視点を獲得することによって、自分の中にある固定化した判断基準を相対化し、偏見に囚われない物の見方を醸成することができる。 4. 表面的な価値観を透かして、物事の根底にある「本質」を洞察する力を身につけることができる。 5. 自分とは異なるものについての理解を深め、他者に対して寛容の精神をもって応答する資質を養うことができる。 6. みずからの動機に基づいて「問いかけ」、その疑問について粘り強く「考え」、その考えを自分の言葉で他者に「伝え」、さらに他者の考えに真摯に「耳を傾け」ようとする対話的姿勢を涵養することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
	価値観が多様化し、命の価値が無条件に信じられない時代において、「 道徳的ジレンマ 」と呼ばれる幾つかの究極的な思考実験を通じて、哲学的思考力と倫理的判断力を培いながら、 <u>他者の命をいかに扱うべきか、また、いかなる条件のもとで倫理が成立するのかを徹底的に見極める</u> 。それを通じて、「 <u>命</u> 」について自問し、自己と社会との関係を見つめながら、倫理的な行動の可能性を探る。 ■「一人の大切な命」vs.「見知らぬ千人の命」、どちらが大事？ 私たちが何らかの行動を起こすとき、大別して二つの考え方がある。一つは、「他人のために自分が損をするのは不合理だ」と考える立場であり、もう一つは、「たとえ自分が犠牲になっても、全体の幸福を考えるべきだ」とする立場である。これを、社会心理学や数理経済学では、 個人的合理性 と 集団的合理性 という立場で表現する。例えば、満員のエレベーターの中で、「他の人が降りてくれないかな・・・」と無意識のうちに願ったことはないだろうか。友達と旅行の計画を立て、行き先や日程の希望が分かれたとき、自分の都合を優先したいと思うのは自然な欲求である。 だが、これが「命」に関わる場合、その行動次第で、あなたの倫理性が鋭く問われる。「大勢」の命を救うためなら、「誰か」が犠牲になってもよいのか。その場合の「誰か」とは、誰なのか。あなたが総理大臣だったら、「自分の家族」の命と「国民全員」の命、どちらを優先するのか。全員が幸せになる道はないのか。命の現場と向き合う仕事に就く前に、一度は本気で考えておきたい。			講義		

1	ガイダンス	授業の目的 / 哲学的・倫理的に思考するとは？		
2	思考実験①	自分の生存のためなら、他人の命を犠牲にすることも許されるか ——「カルネアデスの舟板」、「登山ロープの緊急避難」		
3		議論と論点整理		
4	思考実験②	犠牲になる命を選べるか——「密室の爆弾」とトリアージ		
5		議論と論点整理		
6	思考実験③	少数の命 vs. 多数の命——「トロッコ問題」、「冷たい方程式」		
7		議論と論点整理		
8		問題の深化——「高架橋問題」		
9	思考実験④	社会的に公平な殺人は存在しうるか——「臓器くじ」		
10		議論と論点整理		
11		社会的正義のための殺人は許されるか（『イキガミ』、『ギフト±』）		
12		崇高な目的のためなら道徳を踏み越えてもよいのか （『罪と罰』、『デスノート』）		
13	思考実験⑤	犬の命より授業が大事か——「教授と犬」		
14		見知らぬ赤子 vs. 患者——「呼び出された外科医」		
15	まとめ	講義全体を通したテーマのまとめと振り返り		
※ 進行状況や受講者の反応に応じて、各回の講義トピックの変更、順序の入れ替え等があります。				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
1. 事前・事後に配布したプリントに十分に目を通して、テーマや問題について正確に理解したうえで、分からない概念や用語があれば、下調べをして授業に臨むこと（1回の授業につき、1.5時間程度の予習が必要）。 2. その日の授業で扱ったテーマ、議論の内容、学んだこと、気づき、疑問点などについて、丁寧にノートにまとめ、次週の議論にスムーズに参加できるように頭の中を整理したうえで、さらに自分の問題意識を深めること（1回の授業につき、1.5時間程度の復習が必要）。 ※ 自分なりに問題意識を所有して授業に臨んでください。時間のあるときに（自宅で、あるいは登下校の途中などに）絶えず考える習慣を身につけることをお勧めします。普段からアンテナを張り巡らせて、時事的・社会的な問題に敏感になっておくと、レポートを執筆するときに必ず役に立ちます。				
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等				
使用しない。必要に応じてプリント等の資料を配布する。参考文献は、適宜、授業中に紹介する。				
成績評価の方法・基準				
・レポート（70%） ・毎回のリフレクションシート（15%） ・授業参加状況（15%） （積極的な発言、意欲的に取り組む姿勢、他者の発言に耳を傾ける姿勢、授業への貢献度など）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法				
フィードバックとして、定期的のリフレクションシートを返却（または全体共有）する。レポートについては、ルーブリック評価指標に即して、後日、全体的な傾向や特徴、出来具合、改善点などについて全体講評を配布（または掲載）する。質問へのフィードバックは、随時、授業中に行う。				
担当教員からのメッセージ				
※ 授業中は、必要に応じて歴史上の優れた哲学者や倫理学者の考え方を紹介しますが、いわゆる「哲学史」の授業はやりません。哲学の学派や学説、用語を「お勉強」しても、実社会ではあまり役に立たないからです。したがって、この授業では「暗記」を重視しません。「知識」の授受よりも、各自がみずからの動機に応じて自分なりの「問い」を発見し、それについて粘り強く「考える」ことを第一目的としますので、そのつもりで参加してください。「答えが決まっている」問題よりも、「簡単に答えが出ない」問題を一緒に考えてみましょう。 ※ 受講者数の多少にかかわらず、対話しながら授業を進めます。人数が多い場合は、形のうえでは講義形式で授業を進めますが、少人数の場合は、最初から対話型・討論形式にする可能性があります。いずれの場合も積極的な発言を高く評価します。				
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）				

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
宇宙と生命の起源	107	1～4 前	自	1単位 15時間	講義	水3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坪根 徹 TSUBONE, Toru						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
生命はどのように誕生し、地球環境にどのような形で応答しながら進化してきたのか？本講座では、地球46億年の歴史と生命の発生と進化の連続性について、分子生物学的な視点から生命現象を理解する。また、近年の天文観測では、生命の起源となる地球の生命の構成要素がすべて宇宙に存在することが確認されている。宇宙における生命の起源、進化、伝播、および未来を探索するアストロバイオロジー（宇宙生物学）という新たな知見からも学びを深める。						
到達目標						
宇宙史、地球史の概要をつかみ、その中での現代科学における生物、生命の位置づけを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	「宇宙のすがた」 天体観測施設「うすだスタードーム」の紹介と、そこで撮影・作成した豊富な天体写真、資料を使いながら、現代天文学が描き出す宇宙の姿と歴史について概観する。			講義	坪根	
2	「天文と地球環境」 天文観測は地球の大気環境等に大きな影響を受けるため、宇宙の観測と同時に地球環境の観測をしているという側面がある。また天文学の知見は、地球環境を「外から」見るという視点を与えてくれる。天文学と環境学との意外な関わりを紹介する。					
3	「地球史・生命史と宇宙（1）」 現代までに明らかとなった地球史を概観し、その中で起こった生命の大量絶滅などのイベントが、実は宇宙と深い関わりがあったことを概説する。					
4	「地球史・生命史と宇宙（2）」 白亜紀末の大量絶滅など、宇宙起源と考えられているいくつかの地球史イベントと、それによってもたらされた生命史への大きな影響を概説する。					
5	「分子生物学と宇宙」 分子生物学の歴史と内容を概観し、生命の構成要素となる化合物や元素について概説する。また、そうした物質が宇宙で生まれ、宇宙の進化とともに作られてきたものであることを概説する。					

6	「宇宙と生命起源物質」 地球生命の構成要素となる物質が、地球外でも多く発見されている。現代天文学の観測研究によって明らかになってきている、宇宙空間に存在する生命起源物質とその生成過程について概説する。		
7	「アストロバイオロジーとは」 近年、学際的な研究分野として注目を集めているアストロバイオロジー（宇宙生物学）について、その歴史と概要、展望について紹介する。		
8	「生命・人間と宇宙」 これまでの内容を振り返り、生命と地球宇宙が宇宙との関わりの中で生まれ、進化してきたことを総括する。また、地球外生命発見の可能性も含め、人間の生命への理解について、天文学も大きな役割を担っていることを概説する。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習については講義のたびにその内容を指示する。 1回の授業につき2時間程度の復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
特になし。			
成績評価の方法・基準			
レポート 80%、授業参加状況 20%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
授業への積極的参加を望みます。疑問点、知りたい点等あれば、どんどん質問・発言してください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
国際事情と社会貢献	110	1前	必	1単位 15時間	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○駒村 哲 KOMAMURA, Satoshi 東田吉子 TSUKADA, Yoshiko y-tsukada●saku.ac.jp 1号館地域連携国際交流センター						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
駒村：授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
二国間、あるいは多国間における分断・対立と協調の狭間で変動する国際社会の今日的課題を理解する。OECD・WHO・ILOなど様々な分野の活動組織について学び、同時に国際経済情勢などがどのように国際的な活動へ影響を与えるか、また、国際的な社会貢献のあり方について学ぶ。さらに個人、佐久大学・佐久市、JICA等が行っている国際的な社会貢献の実践について学び、国際交流に参加し、国際理解を図る。						
到達目標						
(駒村) 1. 戦争と平和について基本的な事実を再確認し、論証することができる。 2. 現代国際社会の諸問題を多角的・総合的に捉える視野をもつことができる。 3. 他国に生きる人々への理解を深め、コミュニケーション能力を高めることができる。 (東田) 1. 日本と世界とのつながりを日々の暮らしを通して具体的に理解できる。 2. 多様な文化について理解を深める。 3. 日本の看護の国際協力について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。(DP5)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	国際関係論とは何か	講義	駒村			
2	国民国家とは何か	〃	〃			
3	国際社会とは何か	〃	〃			
4	第1次世界大戦と第2次世界大戦について学ぶ	〃	〃			
5	冷戦とは何か	〃	〃			
6	持続可能な開発目標（SDGs）を基本に海外とのつながりを考える	講義	東田			
7	国内外における宗教と文化についてジェンダーや看護へ与える課題を考える	講義	〃			
8	日本の看護、および地域保健における国際協力と国際貢献について知る（サウジアラビア、ナイジェリア、タイ等）	講義/GW	〃			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>指定したテキストを事前に読んでおくこと。教員が提示する課題について調べておくこと。 テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習すること。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>駒村 テキスト：国際紛争－理論と歴史 原書第10版、有斐閣</p> <p>東田 テキストは使用せず、講師が資料を配布する 参考文献：国際看護学（看護の実践と統合3）、メヂカルフレンド社 国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護をめざして、メディカ出版、他</p>
成績評価の方法・基準
<p>教員2名による総合評価とする。 駒村：筆記試験（60%）、レポート（30%）、授業参加状況（10%） 東田：筆記試験（70%）、授業参加状況（30%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>駒村：授業時に説明する。 東田：次回の講義時に説明する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>主体的かつ積極的に取り組むこと。他国の事情を知ることは、同時に自国についても学習することであり、視野を広げることができます。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
家族社会学	111	1～4 後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
家族社会学における基本的な概念やものの見方・考え方を習得するとともに、現代社会における家族の変化が、社会変動や制度とどう関わってきたかを知ることが本講義の第1の目的である。家族とは、受講生の皆さんにとって、身近な存在・対象であるかもしれない。だからこそ自分たちのもつ家族やそのイメージを自明なものとして考えてしまうことも多いのではないだろうか。こうした「家族の当たり前」を検討・分析する思考を養うことが本講義の第2の目的である。						
到達目標						
・家族社会学の基礎的知識と考え方を習得し、説明できる。 ・近代以降の日本の人口変動、家族変動の流れを理解できる。 ・自分の身の回りの物事・現象と家族社会学の知識を結び付けて考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	家族の基本概念			講義	阿部	
2	人口構造の変動			講義	阿部	
3	近代家族論（1）			講義	阿部	
4	近代家族論（2）			講義	阿部	
5	労働と家族（1）			講義	阿部	
6	労働と家族（2）			講義	阿部	
7	高齢者ケアと家族（1）			講義	阿部	
8	高齢者ケアと家族（2）			講義	阿部	
9	結婚・親子関係（1）			講義	阿部	
10	結婚・親子関係（2）			講義	阿部	
11	社会的養護（1）			講義	阿部	
12	社会的養護（2）			講義	阿部	
13	「伝統的」な家族（1）			講義	阿部	
14	「伝統的」な家族（2）			講義	阿部	
15	家族の多様性			講義	阿部	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく（事前学習、目安として1時間）。 授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる（事後学習、目安として1時間）。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：特になし。</p> <p>参考書については授業中に指示する。</p>
成績評価の方法・基準
<p>リアクションペーパーやワークシートの提出 60%、最終レポート 40%</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>講義のなかで取り扱うトピックの数は限られたものではありませんが、受講生のみなさんにとって身近な存在／対象である「家族」について考える際の新たな視点を提供できればと思います。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
多文化理解	112	1～4前	選択	1単位 15時間	講義	水3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○芝山 豊 SHIBAYAMA Yutaka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室（遠隔上）で質問を受け付ける。（リアクションペーパー上の質問には翌週の講義で回答する）						
授業の概要						
国家とは異なる文脈で世界の歴史を形づくってきた民族と文化の意味を学ぶ。また、国際的な異文化の理解にとどまらず、あらゆる文化背景を持った人を尊重し、共存していくためにどうしたらよいかを考える。本講義を通して、多文化共生社会の中で異なる文化背景を持った人との円滑なコミュニケーションの方法を実施し、互いを理解・尊重し、共存する体験の機会となることを期待する。						
到達目標						
ホモ・クーランスたる人間の多様な文化を理解するため、文化学の基本的な学知を習得するとともに、現代社会における文化間の諸問題に関する論理的思考と課題発見力を養成し、他者尊重の態度を身につけることを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	序論： ケアの文化とホモ・クーランスを考える				講義	
2	文化と文明：「もののけ姫」の世界から考える				講義	
3	言語と思考と文字：ホモ・サピエンスの歴史から考える				講義	
4	人種・民族・国民：幸恵とNAOMIから考える				講義	
5	ステレオタイプとオリエンタリズム：アラジンとムーランから考える				講義	
6	ジェンダー：ハリウッド映画の中の女性とLGBTQ+から考える				講義	
7	歴史認識問題：原爆と少女像とヘイト・スピーチを考える				講義	
8	難民：UNHCRの活動と日本の現実を考える				講義	
9	生業とSDGs：モンゴルと日本の関係から考える				講義	
10	中心と周縁：琉球と日本の関係から考える				講義	
11	発明される伝統と文化盗用：恵方巻とカルフォルニアロールから考える				講義	
12	宗教と国家：フランスと日本の政教分離を考える				講義	
13	震災とパンデミック：自助・共助・公助を考える				講義	
14	文化戦争：ビッグデータとフェイクニュースを考える				講義	
15	まとめ：真の共生社会実現のためにできることを考える				講義	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習として、指示された資料等を読み、疑問や意見をまとめ発表を準備する（2時間）。復習として、講義で言及された書籍や映像作品等にあたり、考察を深める（2時間）。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
講義の際に電子ファイルで資料、文献表等を配布する。						

成績評価の方法・基準
各回のリアクション記録 30% プレゼンテーション 20% 期末最終課題 50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各講義の中で、前回のリアクション記録、プレゼンテーションに対しフィードバックを行い、期末最終課題については、最終回に総評を行う。
担当教員からのメッセージ
ICT活用、感染症対策等の観点から遠隔講義として実施する予定です。講義の中で適宜プレゼンテーションを求めます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
ジェンダー論	113	1～4前	選	1 単位 15時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
「ジェンダー」は、現在、社会学のみならず多くの学術分野で重要な概念として使用されている。また、「性／性別」に関わるさまざまな社会現象・社会問題について言及する際にも用いられ、マスメディアでも目にする機会が増えてきている。日本は公的・社会的な役割分業、家族などの私人間関係における性役割分業のジェンダー視点での見直し、再構築が、先進国の中で最も遅れている。本講義では日本の現実に触れながら、社会的・文化的・歴史的にみるジェンダーの構築と構造について、基本的概念を日常的な問いから理解する。また、社会および個人の多様な価値観・文化の違いを理解し、ジェンダーをめぐる諸課題を自分自身の生活と関連付けて考え、表現する力を養う。						
到達目標						
・生物学的性差とジェンダーの視点についての基礎的知識と考え方を習得し、説明できる。 ・自分の身の回りの物事・現象とジェンダーの知識を結び付けて考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	ジェンダーとは			講義	阿部	
2	文化と歴史の中のジェンダー			講義	阿部	
3	自然科学とジェンダー			講義	阿部	
4	スポーツとジェンダー			講義	阿部	
5	労働とジェンダー（1）			講義	阿部	
6	労働とジェンダー（2）			講義	阿部	
7	人権問題とジェンダー			講義	阿部	
8	メディアとジェンダー			講義	阿部	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
新聞、雑誌、webメディアなどの日々の報道に目を通しておく。（事前学習。目安として1時間） 授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。（事後学習。目安として1時間）						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：特になし。</p> <p>参考書については授業中に指示する。</p>
成績評価の方法・基準
<p>リアクションペーパーやワークシートの提出 40%、小テスト（2～3回） 20%、最終レポート 40%</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>みなさんは「ジェンダー」ということばからどんなイメージを連想するでしょうか。ジェンダーという観点から、日常生活や社会の出来事について読み解く視点を身につけていきましょう。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
アジア事情	114	1～4前	選	1単位 15時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○廣橋雅子 HIROHASHI, Masako m-hirohashi●saku.ac.jp 1号館2階1212 李 省翰 LEE, SungHan						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する						
授業の概要						
アジアにおいて経済発展を成し遂げている中国・台湾・韓国に着目し、それぞれの社会・文化・生活について基本的知識を学ぶ授業である。各国の成り立ちや、近代社会の発展過程、そして持続可能なアジア社会を維持するために各国の国民が目指す目標や考え方を学ぶ。異なる国の背景を理解することで、学生の自国との比較が期待され、国際的思考や視野を広げることを目的にする授業である。						
到達目標						
①グローバルな視点からアジアを理解することができる。 ②中国・韓国・台湾それぞれの国の文化・経済・生活に対する具体的な事情を把握することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につけている」（DP5）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	中国の現代事情（地域と文化）			講義	廣橋	
2	中国の現代事情（社会と福祉）			講義	廣橋	
3	韓国の現代事情（社会と経済）			講義	李	
4	韓国の現代事情（文化と福祉）			講義	李	
5	韓国と日本の新たな社会問題、そして課題			講義	李	
6	歴史から学ぶ台湾の社会構造			講義	廣橋	
7	他民族多文化共生の台湾が目指すもの			講義	廣橋	
8	まとめ：これからのアジア諸国			講義	廣橋	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
配布する資料や自ら新聞記事、雑誌、書籍から課題資料に関連する情報を収集し、授業時にディスカッションができる準備をしておくこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキストは基本的に指定しない。授業ごとにレジメを配布する。						

成績評価の方法・基準	
授業参加への積極性	20%
課題提出	30%
最終試験	50%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
試験やレポートの概況に対するコメントを、一括して、メールで配信する。 個別のコメント等を希望する受講生には、メール又は面談にてコメントを行う。	
担当教員からのメッセージ	
日本人と異なる文化の背景を形成している要因は何なのか、海外諸国へまずは興味を持つことから学修は始まります。グローバルのメリットやデメリットなども授業を通じて考えることで、学生が自国への意識を高めることに期待します。	
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）	

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
文学	115	1～4前	自	1単位 15時間	講義	金5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○松岡 幸司 MATSUOKA, Koji maulwurf●shinshu-u.ac.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後の時間。それ以外は、随時メールにて。 メールを送る場合は、必ず件名を書き、本文には佐久大学の学生であることと、氏名を必ず記入すること。						
授業の概要						
東洋と西洋の文学における世界観から、モノ・コトの見方を広げる。特に文学の原点である古典文学は、現代においても高い評価を受けるものである。具体的な作品の分析、また、つくられた時代や文化的背景を理解することで、作品の奥深さを考え知ることができる。なお、主題となる文学(作品)の種類は開講年次によって変わる。この科目を通じて、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解することが期待される。						
到達目標						
・「作品との対話」と考えれば、読書という行為は一種のコミュニケーション行為でもある。しかもそれは、作品を通しての「自己理解」にも連動している。このことを理解することが <u>第一の目標</u> である。 ・さらに、「自己理解」を通して、作品という「他者の理解」に取り組む。自己理解の後の他者理解は、コミュニケーションにおける独りよがりな理解を避ける上でも重要な過程である。このことを理解することが <u>第二の目標</u> である。 ・そして、作品（＝他者）を根気よく理解する読書というコミュニケーションの形式を知ること、自己理解と保健・医療・福祉の場における他者理解に役立てる方法を習得するのが本講義の <u>最終的な到達目標</u> である。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	「文学」というあいまいな言葉 －「文学」というあいまいな概念についての理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
2	「読書」という行為に含まれるもの －「読書」という行為の持つ意味について理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
3	文学の世界 －文学作品に関わる、あるいは含まれる要素について理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
4	文学とその土壌：例えば「西洋」と「東洋」 －文学作品と、その作品が書かれた背景との関連について理解を深める。 － <u>小レポート出題</u>	講義とグループワーク	松岡			
5	日本の文学について －日本の文学の特徴について概説し、日本人としての感覚の自己理解を進める。	講義とグループワーク	松岡			
6	宮沢賢治の世界（１） －宮沢賢治について、その背景を知り、作品を読む際の理解を深める。	講義とグループワーク	松岡			
7	宮沢賢治の世界（２） －宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡			
8	宮沢賢治の世界（３） －宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡			
9	宮沢賢治の世界（４） －宮沢賢治の童話作品を読む。自分の読み方を大切にしつつ、他の読み方を知り、自己理解と他者理解の方法について考える。 － <u>小レポート出題</u>	講義とグループワーク	松岡			

10	ヨーロッパ（特にドイツ語圏）の文学について －ヨーロッパ，特にドイツ文学の特徴について概説し，日本との差異を意識しつつ自己理解を進める。	講義とグループワーク	松岡
11	ヘルマン・ヘッセの世界（１） －ヘルマン・ヘッセについて，その背景を知り，作品を読む際の理解を深める。	講義とグループワーク	松岡
12	ヘルマン・ヘッセの世界（２） －ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
13	ヘルマン・ヘッセの世界（３） －ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
14	ヘルマン・ヘッセの世界（４） －ヘルマン・ヘッセの作品を読む．自分の感想を大切にしつつ，他の読み方を知り，自己理解と他者理解の方法について考える。	講義とグループワーク	松岡
15	「文学する」とは？ －講義全体の内容についてのまとめを行い，各自の理解度をチェックする。 － 期末レポート出題	講義とグループワーク	松岡
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業後の取り組み ・ 毎回の授業をふりかえり，自分が学んだことや指定されたテーマについて200～300字程度の文章を書く確認課題に取り組む．その際に，しっかりとメモをとって文章を書き，ちゃんと推敲して提出する． 授業に向けた取り組み ・ 指定された事柄について，自分なりの考えをまとめておく． ・ 指定された作品をよく読み，与えられたテーマに関して自分の考えをまとめておく． 上記の内容についてしっかりと取り組んでもらいたい．少なくとも毎週60～90分程度は必要と思われる．			
テキスト及び参考書・参考文献・参考URL等			
・ 宮沢賢治『注文の多い料理店』角川文庫（ISBN：9784041040010） ・ ヘルマン・ヘッセ（フォルカー・ミヒェルス編，岡田朝雄訳）『庭仕事の愉しみ』草思社文庫（ISBN：9784794207043） 毎回の授業はプリント（配布資料）を用いて進む．プリントは事前（遅くとも授業前日まで）にmanabaにアップされるので，各自でプリントアウトして授業に持参するように．			
成績評価の方法・基準			
① 毎回の確認課題 [30%] 毎回の授業で自分が学んだことを「ふりかえる」ために200～300字程度の文章を書く． ② 学期中に2回課される小レポート [合わせて40%] それまでの授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える． ③ 期末レポート [30%] 学期全体の授業内容を踏まえ，自分の理解度を確認し，それを適切な文章で伝える．			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・ 毎回の確認課題：提出された課題については，採点し，毎回コメントをつけてmanaba上で返却する．受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の確認課題に取り組む際に参考にするように． ・ 小レポート：提出されたレポートについても，採点し，コメントをつけてmanaba上で返却する．受講生は，そのコメントを必ず確認して，次の小レポートや期末レポートに取り組む際に参考にするように．			
担当教員からのメッセージ			
「読書」という行為に決まり（規則）はありません．この授業で伝えたいのは，高校までの国語の授業とは違った読み方です．みんなと同じように読んだり感じたりする必要はなく，自分のために読み，考える，ということをしてみましょう．そして，読書を通して，自分を見つめ直し，人と接する場面で活かしましょう． 文系・理系ということはありません．とにかく読んで，自由に感じるのがスタートです．			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
芸術学	116	1～4前	自	1単位 15時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○並木 功 NAMIKI, Isao						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
時代を表す芸術が示す多様な思想、価値観、表現力から豊かな感性を育む。絵画や彫刻といった視覚芸術から、音楽、演劇、映画、舞台芸術などの多様な表現法に触れることにより、多様な文化を深く理解する。なお、主題となる芸術の種類は開講年次によって変わる。本講義を通して、芸術に自らの心が動かされる機会、芸術を通して他者や文化を理解する機会となることが期待される。						
到達目標						
美術の社会に対するその役割と重要性を多くの資料を基に学ぶことで有効かつ発展性を持った利用法を構築できることを到達目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	色彩の基礎知識と表現 「美的形式」 I			講義	並木	
2	色彩の基礎知識と表現 「美的形式」 II			講義	並木	
3	「形と色の心理」 I			講義	並木	
4	「形と色の心理」 II <実習>色面構成・・・提出課題			講義	並木	
5	絵画療法の知識と実践例の学習 ① テキスト使用			講義	並木	
6	絵画療法の知識と実践例の学習 ② テキスト使用			講義	並木	
7	プレゼンテーション（家族画） ① 書画カメラ使用（プレゼン学生）			講義	並木	
8	プレゼンテーション（家族画） ② 書画カメラ使用（プレゼン学生）			講義	並木	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業内容を毎回1時間は復習しておくこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：グレッグ・M・ファース著 『絵が語る秘密』 日本評論社
成績評価の方法・基準
レポート（40%）、プレゼンテーション（30%）、授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
レポート・プレゼンは成績評価後、講義の中で授業資料として扱うことで学生に対しより講義内容の新密度や理解度を深める効果を期待する。
担当教員からのメッセージ
提出物及びレポートは重要な評価対象となります。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ボランティア・住民活動論	120	1後	選	2単位 30時間	講義 演習	金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中嶋智子 NAKAJIMA, Tomoko t-nakajima●saku.ac.jp 1号館3階1319 宮内克代 MIYAUCHI, Katsuyo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後または、下記のメールにて個別に日程調整します。						
授業の概要						
ボランティア活動や地域支援活動の原理・原則、社会的意義などの基本と実際に学ぶ。 とくに社会福祉分野（障がい者・子ども・高齢者など）に限らず、教育・環境・文化・スポーツ・災害など、身近な地域でおこなわれている住民主体の活動に焦点をあてて学修する。						
到達目標						
(1) ボランティア活動の意義と理念がわかる (2) NPO組織とは何かがわかる。またその運営方法や行政との協働のあり方について考えられる。 (3) 市民活動の事業化と実践例について理解できる (4) 企業のCSRの考え方と展開例について理解できる (5) 実際のボランティア活動に関わり、協働の必要性がわかる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。(DP5)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス	講義	中嶋			
2	ボランティア活動の理解	講義	中嶋			
3	ボランティアの歴史と法的制度	講義	中嶋			
4	NPOとは何か：NPO組織とその運営	講義	宮内			
5	市民活動の事業化と行政との連携	講義	宮内			
6	企業のCSRの考え方と展開	講義	ゲスト/ 中嶋			
7	子どもの健全育成のための市民活動	講義	宮内			
8	社会福祉の市民活動（障がい者・高齢者）	講義	宮内			
9	災害時のボランティア	講義	中嶋			
10	国際協力や国際ボランティア活動	講義	ゲスト/宮内			
11	ボランティア活動の実践：発案・企画・行動	講義/演習	宮内/中嶋			
12	ボランティア活動の実践：発案・企画・行動	講義/演習	宮内/中嶋			
13	ボランティア実践		中嶋			
14	ボランティア実践		中嶋			
15	ボランティア実践		中嶋			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業テーマに該当するテキストの章を精読し、自分の考えを準備してから授業に望むこと。 1回の授業につき、2時間の予習復習を行うこと。ボランティアへの参加は、各自の履修スケジュールを確認して臨むこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
早瀬昇, 水谷綾, 永井美佳ほか. 市民活動論 [第2版], 大阪ボランティア協会(2017)						

成績評価の方法・基準
ボランティア計画書30% ボランティア体験レポート50% 授業後のリアクションシート 20%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
筆記試験：なし ボランティア活動の体験レポート：あり ＊提出後、基本レポートは返却しませんが、ご希望があれば個別にコメントを返します。
担当教員からのメッセージ
大学生のうちに、ぜひボランティアを体験しましょう！ すでにボランティアの経験のある方は、新たなボランティア活動をはじめてみましょう。 この授業では、「誰かの役に立ちたい」「よりよい社会をつくりたい」気持ちを応援します。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
信州・佐久学	121	1前	選	1単位 15時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○市川 正夫 ICHIKAWA, Masao 桜井 達雄 SAKURAI, Tatsuo						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
市川：授業に用紙を配布して終了時に回収。次の時間に全体に共有する。 桜井：授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
佐久を中心とした信州の豊かな自然環境と風土、そして歴史や文化、産業、環境問題や社会問題、教育問題、地域の抱える課題など多角的な視点から地域特性を理解する。また、山村・農村地域の風習や特有の暮らし方について理解する。この科目を通じて、長野県、佐久地域を看護や福祉の対象としてとらえ、理解を深める体験をする。さらに、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をより良くつくり上げていく気持ちを持つ。オムニバス形式で、歴史、文化等各専門家が講義を行う。						
到達目標						
1. 私たちが生活している地域が、どのように形成されてきたか、その歴史や文化を習得するだけでなく、自らも地域の一員であることを自覚し、これからの地域社会をよりよくつくり上げていく気持ちを醸成させる。 2. 地域の自然環境について科学的に探究する手法を身につけるとともに、地域の魅力を見だし、地域の一員としてより良い地域社会をつくり上げていく気持ちの醸成を目指している。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	「県歌 信濃の国」から見た長野県と佐久地方			講義	市川	
2	長野県と東信、佐久地方の地形			講義	市川	
3	長野県と東信、佐久地方の気候			講義	市川	
4	島崎藤村の『千曲川のスケッチ』からみた佐久地方			講義	市川	
5	佐久地方南部の佐久市臼田・川上村・南牧村の地誌			講義	市川	
6	佐久地方北部の御牧・浅間山・八ヶ岳・小諸の地誌			講義	市川	
7	長野県の代表的観光リゾート軽井沢と上高地			講義	市川	
8	フォッサマグナに位置する佐久と日本の自然・文化			講義	桜井	
9	佐久の自然環境と災害・恩恵			講義	桜井	
10	佐久の縄文遺跡から ～現代人へのルーツをDNAでたどる～			講義	桜井	

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 市川：授業内で周知する 桜井：講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材について、専門書籍やネット検索などで理解を深めること。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 市川： 『令和版 やさしい長野県の教科書地理』しなのき書房 『千曲川のスケッチ』島崎藤村 新潮文庫 『ふしぎ発見 長野県の地理』しなのき書房 桜井：特になし
成績評価の方法・基準 教員2名による総合評価とする。 市川：試験により成績をつける 桜井：各講義ごとのはじめに配布するプリントに必要事項を記入して講義終了時提出するレポート（60%）、授業参加状況（40%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 市川：授業時に説明する。 桜井：各講義ごと、その始めに配布するプリントに必要事項を記入してレポートとして提出する。詳細は講義中に説明する。
担当教員からのメッセージ 市川： 1. 社会的事象は情報を有機的に関連させて考えることによって理解が深まる。 2. より確かな資料によって考えること、出典のはっきりしない不確かなものは疑ってかかることが大切です。 3. 授業中に話を聞いたり、資料を見た時に疑問を持つこと。それを聞いたり、確かめようとする気持ちを持つこと。 桜井： 1. 講義で触れる身近な自然題材を直接訪れ、肌で触れる体験を通して興味関心を深めてほしい。 2. 1回の講義ごとにその中で最も興味を抱いた題材、詳しい専門書籍やネット検索などで理解をより深めてほしい。（ネット検索には不確かな情報も含まれていることにも留意）
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
消費と経済活動	122	1～4前	自	1単位 15時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○平尾 勇 HIRAO, Isamu isamu.hirao●ace.ocn.ne.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎日9時～12時 携帯090-8346-0532						
授業の概要						
<p>人のライフスタイルの変化やグローバル化など社会経済情勢の変化に伴い、経済社会における消費活動の在り方も変わってきている。特に、消費者問題が多様化・複雑化し、新たな形態の消費者問題が発生している中で、現代社会において自立した消費者として必要な基礎的知識や生活するための知識は重要な学習テーマである。</p> <p>本講義では、経済活動の全体像を学ぶとともに、消費活動の内容、家計消費の内容、消費者問題や消費者教育、消費生活情報などを学習し、人間生活の基礎である生産と消費の現代的な仕組みと課題について学ぶ。</p>						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none">・経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。・国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。・経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。・「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。・消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。・現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。・消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。・人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1回	⇒経済活動のそれぞれの主体がどのようなもので、どのような関係性の中で活動しているかを理解する。	講義	平尾			
2回	※お金の流れを中心にそれぞれの主体の役割を明確にし、図表などで解説する。 ⇒国全体の経済活動において消費がどのような意味を持つか、また消費活動が全体の経済に与える影響を理解する。 ※国全体の消費の内容を明確にする。	講義	平尾			
3回	⇒経済活動の中で消費者の行動、生産者の行動から商品やサービスの価格がどのように決まるかを理解する。	講義	平尾			
4回	※価格の決め方が一般的にどのような仕組みになっているかについて説明する。 ⇒「デフレ」、「インフレ」などの経済現象を学び、実際の生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。 ※価格が下がるのがデフレ、上がるのがインフレだが、その仕組みについて説明する。	講義、まとめと演習	平尾			
5回	⇒消費の主体である家計がどのように消費支出を決め、どのような消費内容かを理解する。 ※「家計調査」などを用いて、支出の実態を明らかにする。	講義	平尾			
6回	⇒現在の消費者が物品・サービスを購入する際にどのような問題に直面しているかを理解する。 ※消費者問題の現状を国民生活センターの資料などから説明する。	講義	平尾			
7回	⇒消費者教育のあり方、消費生活情報の現状について学び、正しい家計や個人の消費活動を理解する。	講義	平尾			

8回	<p>※第6回の消費者問題について事前にどのような教育が必要かを国民生活センターの資料を用いて説明する。</p> <p>⇒人間生活の基礎となる生産、消費の理解を通じて、現代社会における豊かな生活のあり方、将来の生活のあり方を展望する。</p> <p>※生活にはお金がかかる。お金を豊かな生活を支えるためいかに使うか、将来の消費のためにどのように分配して豊かな将来を確保するについて検討する。</p> <p>※最終回は今までの講義内容を前提として参加者全員でディスカッションを行い、できるだけ実践活動に結び付けたい。</p>	全体のまとめと演習	平尾
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>テキスト「池上彰のやさしい経済学」、参考URL「マンガでわかる経済入門のサイト」及び「国民生活センターのサイト」の該当箇所の予習が必要です。</p> <p>事前学習では該当部分を通読し、理解ができないところをチェックします。この時点ですべてを理解する必要はありません。わからないところを明確にしておくだけで講義での理解が深まります。</p> <p>おおよそ、30分程度の事前学習を目途にしてください。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：池上彰著「しくみがわかる やさしい経済学1」、「ニュースがわかる やさしい経済学2」（日経ビジネス人文庫）</p> <p>参考URL：「マンガでわかる経済入門」 https://manabow.com/hayawakari/</p> <p>参考URL：独立行政法人 国民生活センター http://www.kokusen.go.jp/index.html</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>レポート70％、授業参加状況 30％</p> <p>レポートは今回の講義の中で、今回の講座で学んだことの要約、役立ったこと、疑問に思ったこと、自分の生活で実践していきたいことなどを、文献や資料のコピーではなく、自分の言葉で書くこと。</p> <p>おおよその文字数は3,000字以上4,000字未満、フォントはMS明朝、サイズは10.5で入力してください。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
レポートを提出した全授業参加者の学生にコメントを付して返却します。			
担当教員からのメッセージ			
個人の消費行動は国全体の経済活動に繋がっています。自分の消費行動を振り返ることで身近なところから経済を考え、豊かな消費生活の実践につなげてもらえればありがたいと思います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
契約と社会のルール	123	1～4前	自	1単位 15時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○関 良徳 SEKI, Yoshinori yosseki●shinshu-u.ac.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
現代社会における法とは何か、法が社会生活でどのような役割を果たしているのかを理解し、国民の基本的人権の保障や社会的弱者の人権保護について学ぶ。民法による家族、契約、物の交換や所有といった日常的な事柄に法が関与することを理解し、生活者に要求される法規範意識を身につける。身近な問題について法の視点からとらえることで、解決への道筋を自ら考える。						
到達目標						
私たちの身のまわりの契約やその他の法律的問題について理解を深めると同時に、法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	契約（１）：売買契約について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習	関	
2	契約（２）：賃貸借契約について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
3	家族（１）：婚姻制度について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習		
4	家族（２）：育児と介護に関する制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
5	知的財産：知的財産制度について概説し、事例問題に関する討論・演習を行う。			講義・演習		
6	医療訴訟：医療訴訟の制度と課題について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
7	企業と労働（１）：企業制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
8	企業と労働（２）労働に関する法制度について概説し、事例問題の検討を行う。			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。 参考文献：適宜紹介する。						

成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（30%） 授業への取り組み状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
個と集団	124	1～4前	自	1単位 15時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○阿部友香 ABE, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
社会学の研究対象の範囲は非常に広く、日常生活のなかの人と人との出会いの分析から、世界規模の社会的プロセスの研究にまでおよぶ。本講義はその入門編として、あらゆる社会現象の背後への理解や社会の成り立ち、また、社会の安定性や変化、解体・崩壊などについて学習し、私たちの日常生活の土台となっている社会構造の理解と社会の成り立ちの基礎である個と集団の基本的な視点を学ぶ。						
到達目標						
・ 個と集団をめぐる社会学の基本的な視点や概念を理解する。 ・ 自分の身の回りの物事・現象と社会学の知識を結び付けて考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り伝え合うことができる」授業科目である。（DP6）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	相互行為・自己（1）				講義	阿部
2	相互行為・自己（2）				講義	阿部
3	コミュニケーションと権力（1）				講義	阿部
4	コミュニケーションと権力（2）				講義	阿部
5	個人との関係から集団を考える				講義	阿部
6	集団のメカニズム				講義	阿部
7	集団としての国家				講義	阿部
8	まとめ				講義	阿部
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業内で配布した資料をよく復習しておく。また、授業内で指示する参考資料などを読んでくる。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキストは基本的に用いない。 参考書については授業中に指示する。						
成績評価の方法・基準						
リアクションペーパーやワークシートの提出60％、最終レポート40％						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義の冒頭で紹介し、受講生全体で共有する。
担当教員からのメッセージ
日常生活の中での私たちのふるまいなどを出発点として、個人と集団の特徴やそのメカニズムを社会学的に理解する視点を身につけていきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
野外活動論	125	1～4前	自	1単位 15時間	講義	水4, 水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○伊藤 光太郎 ITO Kotaro info●dol-camp.org						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に授業会場で質問を受け付ける。 随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
野外活動論では、自然環境と人との共生関係を知り、ヒューマンケアを学ぶ人材として環境共生社会構築に貢献できる意識を醸成する。そのために、野外活動（キャンプ、登山、スキー・スノーボード等）に必要な基本的知識（関連用語、社会的意義・必要性、用具の使用法、効果的な指導方法等）や、活動に伴う危険及びそれに対する適切な対処方法について学習する。本講座により、野外活動に関わる基本的知識の習得や野外活動指導者に求められる資質や役割への理解、野外活動に伴うリスクマネジメントのスキルの習得が期待できる。						
到達目標						
① 野外活動の楽しさを体感する。 ② ①を通して、指導者・支援者として野外活動またキャンプにたずさわる場合（引率や同行などをする場合）の要点を学ぶ。 ③ 基本的かつ実践的で、安全を重視した野外活動の技術を得る。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り伝え合うことができる」授業科目である。（DP6）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1回	<u>野外ゲーム&キャンプひろばづくり（かまど）&薪割り</u> 授業説明、はじめましてレクリエーション、かまどづくり、薪割り、火おこしのデモなどを実施。グラウンド脇に野外活動フィールドを作る。			講義 演習	伊藤	
2回	<u>火おこし&かんたん野外料理（&テーブルづくり）</u> 火おこしと火の安全、その火を使って災害時に役立つ調理方法で実際に野外料理に挑戦する。居心地の良いフィールドづくりも同時に行う。			講義 演習	伊藤	
3回	<u>刃物・道具を学ぶ&クラフト&焚火スイーツ</u> ナイフ他道具を使って工作をしながら、小さめの焚火で「焚火スイーツ」を作る。各自のペースで取り組む。			講義 演習	伊藤	
4回	<u>キャンプファイアー&キャンプ広場片付け</u> フィールドの片づけをし、キャンプファイアーでしめくくる。			講義 演習	伊藤	
予備	雨天時は基本的に屋内で理論部分を学ぶが、雨天が重なった場合のために予備日程を用意している。					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
① 使用用具や授業環境を整える授業準備から撤収にできる限り参加する。（30～45分） ② 屋外での授業に安全に参加できるよう、装備や服装をしっかり想定し準備する。（10～20分） ③ 授業で配布した資料を再読し、授業での実技を振り返り自身の行動また技術を自己評価する（30～60分）						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
特になし。授業内容の補足で講師が作成した動画視聴があり得る。 https://www.youtube.com/channel/UC1T3Xg52uz01twJeX90iJfA						
成績評価の方法・基準						
授業参加状況（リアクションフォームへの評価含む） 50% レポート試験 50% （終講試験はレポート試験を予定）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 リアクションフォームへは、必要に応じて返信をする。 レポート試験は返却しないが、レポートに対する評価・講評をリスト化して配布する。または、動画によるフィードバックが有効と判断したものは動画配信することを検討。
担当教員からのメッセージ ☆自己負担金 1 人 3～5 千円程度が必要です 資材や食材のレンタル・購入が必要になります。費用の確定は受講人数にもよるので、開講と同時にお伝えします。 ◎愉快に 野外活動は愉快でありたいです。チャレンジに満ちた体験型で、災害時にも支えになる具体的な技術を大いに含んだアウトドア実技・演習中心に授業を進めます。野外活動の楽しさを体感しながら、アウトドア技術・安全（野外におけるリスクマネジメント）・支援者の役割を学んでください。 ◎確実に キャンパス内にカマドを作り、薪をつくり、野外料理をするなど、各回で学ぶ技術は以降の演習でも踏まえる流れになり、技術また安全意識を自然に体得しましょう。晴天時は屋外での授業、雨天時は教室で理論を実施するため、授業内容の差し替え・変更が大いにあり得ます。また、キャンパス内の資源（剪定木やリサイクル可能資源）を活用します。 ◎野外での指導・支援の機会はずある どの学生にもいつかきっとアウトドアでの支援活動の機会が待っているはずです。この授業で基本的な技術を身に付けておくことは今後役に立ちます。 その他 ・服装は動きやすい服・軍手・帽子・飲み物・虫や紫外線対策などを各自用意してください。 ・雨天時は体育館で理論部分や屋内レクリエーションほかを実施します。 ・授業前後に時間のある学生は学びを深めるために、授業前の準備・授業後の撤収（予習復習にもなる）にもぜひ参加してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
コンピュータの基礎演習	(A) 130 (B) 131 (C) 132	1前	必	1単位 30時間	演習	(A) : 月3 (B) : 火2 (C) : 月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○三池 克明 MIIKE Katsuaki 1号館3階1327						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
月曜日～木曜日、9:00～18:00 ただし会議、出張等で不在あり。事前予約は不要です。						
授業の概要						
大学生生活に必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。 また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。						
到達目標						
パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、本学での大学生活に必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができていく」(DP4)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	学内ネットワークの使用方法と大学メールの使い方	講義・演習	三池			
2	情報のデジタル化とインターネット	講義・演習				
3	情報セキュリティと情報倫理	講義・演習				
4	ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力	講義・演習				
5	ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工	講義・演習				
6	ワープロソフトを使った文書作成3：文書デザイン	講義・演習				
7	ワープロソフトを使った文書作成4：ビジネス文書の作成	講義・演習				
8	表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力	講義・演習				
9	表計算ソフトを使った統計処理2：表計算	講義・演習				
10	表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画	講義・演習				
11	表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用	講義・演習				
12	パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン	講義・演習				
13	パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション	講義・演習				
14	パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作	講義・演習				
15	パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出	講義・演習				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキストの次回授業に関連するところを熟読し、何が分からないか明らかにしておくこと。 復習：テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。 なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：奥村晴彦、森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社						
成績評価の方法・基準						
授業終了時に提出するコメントシート（30%） 課題作成（70%）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
原則としてLMS（manaba）を用いる。詳細は授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
DTP制作・研修指導の請負を年数回程度、16年継続。この経験をベースに情報機器をフル活用し短時間で仕上げられる表現方法を解説する。

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
統計分析の基礎	133	1後	必	1単位 30時間	演習	火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, sangjun		s-park●saku. ac. jp	研究室	1号館3階1317		
黒澤佳代 KUROSAWA, kayo		k-kurosawa●saku. ac. jp	研究室	5号館2階助手室		
森本 彩 MORIMORO, aya		a-morimoto●saku. ac. jp	研究室	5号館2階助手室		
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける						
授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける（s-park●saku. ac. jp）						
授業の概要						
統計学の基礎的な知識を学ぶことにより、看護におけるアセスメントや問題解決に応用できるようなデータの収集・整理・処理・判断の仕方の基本を修得する。						
到達目標						
統計分析の基本概念を難解な数式を使わずに、Microsoft Excelを活用することで身に付けていく。また各自でアンケート調査を行い、回答のデータ化、分析、判断の過程を経ることで、統計分析の意義・必要性を実感する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができています」（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他			講義	朴 他	
2～3	統計解析の基礎：医療・看護における統計学の役割や活用方法などについて学ぶ 「疫学的研究デザインと統計」「データの種類」「代表値、散布度、分布など」			講義・演習		
4～5	統計量の算出と表現：各種データの基本的な解析方法について学ぶ 「書式や数式、関数」「度数分布表とヒストグラム」「クロス集計」			講義・演習		
6～7	統計的検定①：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅠ 「推測統計の基礎」「散布図/相関分析と回帰分析」「平均値の差の検定(t検定)」			講義・演習		
8～9	統計的検定②：2変数の関連を検討する基礎的方法を学ぶⅡ 「ピボットテーブルによるクロス集計表の作成」「クロス集計表、X ² 検定」			講義・演習		
10～11	調査・研究の概要：アンケート調査の方法について学ぶ 「研究について（科学的とは/量的研究・質的研究）」「研究計画立案」「調査票の作成例」「データの加工/分析/評価方法/その他」			講義・演習		
12～13	調査・研究の演習：グループワークによる演習の実施 「研究計画と調査票の作成」「調査の実施（調査票の配布と回収）/分析」「発表資料の作成（パワーポイント使用）」			講義・演習		
14～15	調査結果発表会			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。						
復習：当授業内容と前期「情報処理法」の該当分野を含め復習しておくこと。						
*1回の授業について1時間程度予習復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：このとおりやればすぐできる ナースのためのデータ処理，技術評論社						
成績評価の方法・基準						
レポート（70％）						
授業参加状況（30％）						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
授業時に説明する。						

担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「レポート（70%）」とは、グループワークによる調査結果発表の発表資料を指します。発表資料が成績評価の中心となりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
表現技法 I	(A) 140 (B) 141 (C) 142	1前	必	1単位 30時間	演習	(A)：火3 (B)：月2 (C)：月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金子光代 KANEKO, Mitsuyo dearyon64●yahoo.co.jp 風早 康恵 KAZAHAYA, Yasue						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
金子/風早：授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。						
授業の概要						
大学で主体的に学ぶ方法の基礎として、聴く、話す、読む、書く、調べるという基本的な能力を身につける。入門演習では、主体的に学ぶ姿勢、情報の検索、情報の読解や要約、問題の明確化、明瞭かつ論理的に表現することについて学ぶ。この学びを通して、日本語の多様な表現技法に関する知識を養い、自ら考え、適切に自分の考えを表現することができること、また、日常生活や大学での他の授業、実習、ケアの場面で、積極的に日本語の多様な表現技法を応用し、コミュニケーションの中で実践できるようにすることが期待できる。						
到達目標						
1. 基本的なレポート・論文の書き方の概要を理解し、適切な表現技法で書くことができる。 2. レポート・論文の書き方の知識を基に、自分の意見を書く能力を培うことができる。 3. レポート・論文での情報探索が適切にできる。 4. レポート・論文を書くために必要な、他の論文や文献等の要約ができる。 5. 自分の心（喜怒哀楽など）を文章（韻文・散文）で表現することができる。 6. 自分の思い（他者への働きかけ・願いなど）を、文章で表現することができる。 7. TPOに応じて、手紙・書類をしたためることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション レポート・論文の基本ルールと剽窃等について知る (Work 1 ①②、Work 2 ①②)。 レポート・論文の構成要素とパラグラフについて学ぶ (Work 1 ③④)。 Worksheet W0201の問いをパラグラフ・ライティングで記述する。	演習	金子			
2	引用の種類と書き方を学ぶ (Work 2 ③④、図表の引用を除く)。 Training T0005、T0009 で直接引用のし方を確認する。 文献の情報を的確に抜き出し、言い換える方法を学ぶ (Work 6 ①②③)。 Training W0701 で間接引用のための要約のし方を学ぶ。					
3	引用の種類と書き方を学ぶ (Work 2 ③④、図表の引用を除く)。 Training T0006、T0010 で間接引用のし方を確認する。 資料(グラフや図)の引用のし方や図表番号の入れ方を学ぶ (Work 6 ④、p 35)。 Training T0008 で図の引用を確認する。					
4	さまざまな参考文献リストのスタイルを知り、APA スタイルの書き方を学ぶ (Work 3 ①②、資料①)。 Training W0301 で奥付から参考文献リスト(アルファベット順)を作る。 さまざまな要約文の書き方を学ぶ (Work 7 ①②)。 Training W0702 で要約と APA スタイルでの引用の書き方を復習する。 新聞記事の書き方のしくみを知る (資料③)。					
5	課題図書等に対して批判的思考 (クリティカルシンキング) をすること学ぶ (Work 8 ① p 51)。批評から意見構築の流れの例を学ぶ (Work 8 ② p 52)。 Training W0702 文章例から check W0802 で疑問の持ち方を知る。 問いを膨らます方法を学ぶ ((Work11②)。					
6	テーマに関する下調べに適した資料を知る (Work10)。「問い」から「予想する答え (仮説)」を立てることを知る (Work12②①)。 情報検索の基本的な方法を知る (Work13)。文献の入手、大学図書館のさまざまな活用法を学ぶ (Work14)。 集めた文献の取捨選択の方法として、「拾い読み」「探し読み」を知り、書籍の「目次」「はじめに」「おわりに」「奥付」等の読み方を学ぶ (Work15)。「索引」「謝辞」について確認する。 入手した文献のリストとメモや現物の整理を知る (Work16)。論点をしぼり、自分の主張を導くことを学ぶ (Work17)。論文の骨子、仮タイトルを考える (Work18)。 根拠をもとにアウトラインをつくり、序論を書くことを学ぶ (Work19)。					

7	ブックレポート・論文・報告レポートの書き方を知る（Work4、文章例①②③）。事実と意見を区別し、論理的な表現を知る（Work9）。Training T0002 で体験談を間接引用で適切に書き言葉に直して伝える練習をする。	演習	風早	
8	平仮名と漢字の表記、あいまい文、「名詞」と「動詞を使った表現」、漢字の割合、口語的な表現、一文一意など文章の推敲、提出前の再確認を学ぶ（Work20）。結論を書くときの注意点を知る。Training T0003、T0004 をp58～60を参考に、書き直して確認する。 授業概要・授業の流れについての説明。授業に期待する点について聞き取りを行う。			
9	・なぜ、詩歌から学ぶのか ・語彙の備蓄を大きく一多彩な表現のために喜びを表現する—記紀歌謡・勅撰和歌集・近現代の詩歌等を参考に			
10	・自らの喜びを表現する　・他者の喜びに共感する 悲しみを表現する			
11	・自らの悲しみを表現する　・他者の悲しみに寄り添う 愛を表現する—相聞の詩歌から			
12	・愛を表現するにあたって、技法は決して不在ではない ・愛に相反する、ネガティブな思いをどう表現するか 手紙をしたためる—『日本一短い家族への手紙』を参考に			
13	・宛てる人に応じて、手紙のしたため方を学ぶ ・自分の「思い」を、過不足なく伝えるために 書類を作成する			
14	・履歴書・報告書等の整え方 平安時代の手法で、手紙をしたためてみる			
15	・「結び文」を受講者全員が体験する。 各自、自分が文を捧げる人物を選び、和紙・筆・墨（墨汁）を用いて文を整え、季節の花の小枝に結んで持ち帰る。 ・「文房四宝」についても簡単に説明する。			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
大学での他の授業のレポート・課題・提出物の学習に、表現技法で学んだことを積極的に活かして欲しいと思います。「読む・書く・話す」とともに「考える」スキルを常に磨いてください。 なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。				
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等				
金子：テキスト：桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』実教出版 2015 参考文献：木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社 1981 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社 2009 石井一成『ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社 2011 石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社2012 その他 授業内で適宜紹介する。 風早：授業時に講師が作成した資料、コピー等を配布する。参考となる書籍等は、同じく授業時に推薦する。				
成績評価の方法・基準				
教員2名による総合評価とする。 金子：筆記試験（50%）、授業参加状況（ワーク）・提出物（50%） 風早：レポート（60%）、授業参加状況（40%）				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法				
金子：試験は、授業時に学んだテキスト・トレーニング問題の内容や話し合いで得られた解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。 風早：授業時に説明する。				
担当教員からのメッセージ				
金子：大学の授業での課題レポートで、困ったりあれこれ悩んだりすることが最初はあるかもしれません。「レポート・論文の書き方」の基礎知識を学ぶことによって、課題に積極的に取り組み、考える姿勢を身につけてほしいと思います。そして、客観的な根拠に基づいて自分の考えをわかりやすく伝える・書くという表現技法を、これからの大学の学びの中でさらに深めていってください。 風早：自分の心、思いを文字に表現することは、思考や感情を整理するよすがとなります。加えて、表現というフィルターを通して自らを客観的に再認識することにより、たとえネガティブな感情であっても、ネガティブなままに終わらず、未来への活力へと変えてゆけると信じます。のびのびとした感性を、表現という器に盛ってゆく技法と一緒に学びたいと思います。また、メールでのやり取りが主流となりつつある現在であるからこそ、手紙・書類のしたため方を学んでおくことは、就職・仕事などの多くの局面で、皆さんの力になると考えます。				
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）				

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
表現技法Ⅱ	(A) 143 (B) 144	1後	必	1単位 30時間	演習	(A) 火2 (B) 火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○金子光代 KANEKO, Mitsuyo dearyon64●yahoo.co.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受ける。また、随時対応する。						
授業の概要						
後期の表現技法Ⅱでは、「書く」ための知識や技能をさらに具体的に学ぶ。テキスト『書き込み式ノート』の事例と練習問題で、「書く」の表現技法を自ら考え実践し、授業・グループの中で確認していく。前期の表現技法Ⅰで学んだ「レポート論文作成」の概要を深め、「書く」能力を身につけ、伸ばすことを目的とする。						
到達目標						
1. 日本語の表現技法に関する知識を養い、自ら「考え」で大学生として適切に「書く」ことができるようになる。 2. 日常生活や大学での他の授業、また将来の実習・看護の場面で、適切に「書く」技法を用いて事実・意見を表現できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション 話し言葉と書き言葉 つなぎの言葉、様々な文末表現の使い分けを練習する。省略の表現を知る。	演習	金子			
2	文の組み立て 主部と述部を意識して、文を様々に添削することを学ぶ。					
3	視点の問題 事柄に視点をあてた文と動作主に視点をあてた文について学び、書き分ける練習をする。「私」を主語にした表現を知る。					
4	文のつなぎ方 文と文の間に適切な接続の言葉を補い、文章を作る方法を学ぶ。					
5	接続表現と論理 練習問題により、論理的な思考法を身につける。					
6	意味の限定 「あいまいな文」について知り、様々な書き直し方を学ぶ。					
7	言葉の順序 「かかる言葉」と「受ける言葉」の関係を学び、規則に従ってわかりやすい文の順序を考える。					
8	定義・分類の表現 性質・特徴を述べる表現、分類する表現、状況を述べる表現、経過を述べる表現を知り、書く練習をする。					

9	比較・対照する表現 共通点・相違点、数量・変化の文型を学ぶ。それらの文型を使って、資料からわかることを書く。	演習	金子
10	列挙・順序・因果関係の表現 物事を列挙する・順序を示す表現を学ぶ。		
11	因果関係を説明する 原因と結果を、様々な表現で説明する練習をする。そうした観点で文章を読む練習をする。		
12	引用の表現 引用のルール、引用を示す様々な表現を復習する。		
13	敬語とは 丁寧語・尊敬語・謙譲語について学ぶ。メールや手紙等での注意すべき敬語表現を知る。		
14	言葉の呼応 漢語（名詞）と動詞・形容詞の組み合わせ、副詞やその他の呼応を知る。		
15	仮名づかい・送り仮名の使い方 原稿用紙の使い方・履歴書の書き方を知る。校正記号を使った推敲の練習をする。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
復習として、大学での授業や生活のさまざまな事象で、言語の面からの表現技法を意識してほしい。「話す・聞く・書く」で必要なときには、テキストを開いて見直したり付け足したり、さらに豊かな日本語の表現を追求してください。なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：名古屋大学日本語表現研究会編『日本語表現ノート 書き込み式』、三弥井書店、2020 参考文献：授業内で適宜紹介する。			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（50%） 授業参加状況（ワーク・提出物）（50%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験は、授業時に学んだテキスト・練習問題の内容や、検討後の解答例を中心に、基礎的な問題または応用問題として出題する。定期試験は返却しないが、試験前に内容を提示し、質問等に応じる。			
担当教員からのメッセージ			
コミュニケーションは相手がいればこそ成り立つものでもあります。授業では、学生として大切なさまざまな表現技法を学んだ上で、周りの人達とともに考え実践してみましょう。授業の場は学び(真似る)、間違える場だとも言われます。そして生活のあらゆる場面で、適切な「話す・聞く・書く」の表現を使って適切・的確に伝えられるよう表現の知識を深めていきましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
英語 I	(A) 145 (B) 146 (C) 147	1前	必	1単位 30時間	演習	(A)：月2 (B)：月3 (C)：火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	- Class introduction. Unit 1 Risk for Injury - Unit 1 practice, activation, completion - Unit 2: Self Care Deficit - Unit 2 practice, activation, completion - Unit 3: Respiratory Disorders - Unit 3 practice, activation, completion - Review and Practice - Mid-Term Examination - Unit 4: Fluid Volume Deficit - Unit 4 practice, activation, completion - Unit 5: Insomnia - Unit 5 practice, activation, completion - Unit 6: Chronic Pain - Unit 6 practice, activation, completion - Review and Practice				演習	Mark
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
英語Ⅱ	(A) 148 (B) 149	1後	必	1単位 30時間	演習	(A)：火1 (B)：火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
In this class, you will practice speaking, listening, writing and reading. The class will focus on being able to explain about several common health problems, being able to talk about a patient, using English to study English, increasing medical vocabulary and learning communication skills and valuable information for nursing.						
到達目標						
1. 患者の日常生活と病状についての説明を英語で読み取り、学習した基本的な英語表現を使って他者に伝達できる。 2. 英語を使い、自分の意見を英語で伝えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	- Unit 7: Dietary Practice				演習	Mark
2	- Unit 7 practice, activation, completion					
3	- Unit 8: Urinary Retention					
4	- Unit 8 practice, activation, completion					
5	- Unit 9: Constipation					
6	- Unit 9 practice, activation, completion					
7	- Review and Practice					
8	- Mid-Term Examination					
9	- Unit 11: Impaired Skin Integrity					
10	- Unit 11 practice, activation, completion					
11	- Unit 14: Memory Impairment					
12	- Unit 14 practice, activation, completion					
13	- Unit 10: Impaired Physical Mobility					
14	- Unit 10 practice, activation, completion					
15	- Review and Practice					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
Read the patient case studies and try to repeat the information as best you can out loud in English. Make sentences using the vocabulary from the unit. Practice explaining about each medical problem. Work with the story builders to create better and fuller stories. Do preparation review for about 1 hour once for each session.						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：Text1 杉田由仁他『Nursing Case Studies』成美堂
成績評価の方法・基準
written examination (50%) homework (20%) attendance and class participation (30%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各学生の課題または試験解答用紙に直接コメントをし、その他については授業時に伝えます。 質問がある場合、またはもっと詳しく説明してほしい場合は、個々に対応する。
担当教員からのメッセージ
This class is designed to improve your understanding and production of English. You must practice, you must actively participate, and you will improve! This class will challenge your ideas about what it means to study English and what the goals of English study should be.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
中国語 I	150	1～4前	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朱藝虹 ZHU, Yihong						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき						
授業の概要						
初心者のための中国語授業である。中国語には4つの音の変化があり、地域で使用されている方言もあることなど、言語的基礎知識も学べる。前半では中国語の発音で重要なローマ字表記によるピンインを習得したうえで、数字や自己紹介などの表現方法を身に着ける。15回の授業のなかで簡単な挨拶会話ができることを目標とする						
到達目標						
中国語の発音の基礎知識がわかる。基本的な読み方（中国語発音ローマ字、声調、発音規則）がわかり、読める。簡単な自己紹介ができ、次のステップへの土台を築くことを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。（DP5）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1回：	ガイダンス：①計画説明；②中国、中国語について簡単に紹介 単母音、声調 子音①（唇音、舌尖音） 子音②（舌根音、舌面音） 子音③（舌歯音、そり舌音） 複合母音① 複合母音②、前鼻母音 後鼻母音 ピンイン規則のまとめ 名前の読み・自己紹介 自己紹介の発表 覚えておきたい表現 第1課（挨拶する）（テキスト12ページ～） 会話の授業 総合復習 ※授業内容は必要に応じて変更することがあります				いずれも講義・演習	朱藝虹
2回：						
3回：						
4回：						
5回：						
6回：						
7回：						
8回：						
9回：						
10回：						
11回：						
12回：						
13回：						
14回：						
15回：						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・必要な時間：個人差により、毎日5～20分位						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社						
成績評価の方法・基準						
定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」平常点「20%」						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・方法：授業毎に課題について説明があり、それに従ってください。						

担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・ 予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。・ 授業中は積極的に参加、発言をしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
中国語Ⅱ	151	1～4後	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朱藝虹 ZHU, Yihong						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講師控室に「オフィスアワー」の表示があるとき						
授業の概要						
中国・台湾からの留学生・研修生との交流で使用する易しい会話を中心に授業を展開する。生活に密着した中国語会話や中国文化と日本文化の比較を取り入れることで学習意欲を持ち続けられる。実践的かつインタラクティブな会話能力や書く能力を更に身に着けることができる。						
到達目標						
発音を重視しながら、簡単な日常会話を中心に反復練習することによって、聴力、簡単な話す力を身につける。単語の読み方（ピンイン）を補助なく読むことができ、簡単なインタラクティブな会話能力や書く能力を身に着けることを目標とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。（DP5）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1回：	第2課（名前を尋ねる） テキストに基づき実用な会話演習（下記「会話演習」と略す） 第3課（食べたいものを尋ねる） 会話演習 第4課（近況を尋ねる） 会話演習・「時間外自習指導：復習1」 第5課（予定を尋ねる） 第5課（予定を尋ねる） 会話演習 第6課（場所を尋ねる） 会話演習 DVD（リラックスで中国文化を味わう） 第7課（注文する） 会話演習 総合復習 ※授業内容は必要に応じて変更することがあります。				いずれも講義・演習	朱藝虹
2回：						
3回：						
4回：						
5回：						
6回：						
7回：						
8回：						
9回：						
10回：						
11回：						
12回：						
13回：						
14回：						
15回：						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・必要な時間：個人差により、毎日10～30分位						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト「出きる・伝わるコミュニケーション中国語」白水社						
成績評価の方法・基準						
定期試験「40%」小テスト「10%」課題提出「30%」平常点「20%」						
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法						
・課題は毎回あり、それに応じ、ひたすら読んだり、書いたりすること（又読みながら書くこと） ・方法：授業毎に課題について説明があり、それに従ってください。						

担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none">・ 予習、復習は短時間でもよいので、必ずしてください。・ 授業中は積極的に参加、発言をしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
韓国語 I	152	1～4前	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける 授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける						
授業の概要						
初心者のための韓国語講義である。体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語 I では、基本的な韓国語の発音と語彙、類型を中心に学習する。15回の授業のなかで簡単な挨拶・会話ができることを目標に取り組む。						
到達目標						
韓国語の発音や文法などを学習し、日常会話で使う簡単な会話を学ぶことで韓国語の面白さを身に付けていく。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。（DP5）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他				講義	朴 他
	韓国語の基礎①：ハングル反切表や発音などについて学ぶ					
2	韓国語の基礎②：ハングル反切表や発音などについて学ぶ					
3	韓国語の基礎③：韓国語のバッチムや基本構造などについて学ぶ					
4	韓国語の基礎④：韓国語の基礎単語などについて学ぶ					
5	韓国語の基礎⑤：韓国語の基礎単語、表現などについて学ぶ					
6	韓国語の基礎⑥：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
7	韓国語の基礎⑦：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
8	韓国語の基礎⑧：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
9	韓国語の基礎⑨：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
10	韓国語の基礎⑩：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
11	韓国語の基礎⑪：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
12	韓国語の基礎⑫：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
13	韓国語の基礎⑬：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
14	韓国語の基礎⑭：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
15	韓国語の基礎⑮：基本的な日常会話と文法の活用などについて学ぶ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：できる韓国語初級 I（新装版），アスク出版						

成績評価の方法・基準
レポート（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
韓国語を使ったグループワークの時間がありますので、積極的に参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
韓国語Ⅱ	153	1～4後	自	1単位 30時間	演習	月1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, sangjun s-park●saku. ac. jp 研究室 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける 授業日の授業終了後から放課後、授業日以外の日はメールで受け付ける						
授業の概要						
韓国語講義では、体系的かつ効果的な学習ができるよう語彙と文型を難易度、使用頻度別に構成し、実生活や韓国文化を主な内容として取り上げる。特に韓国語Ⅱでは、韓国語Ⅰの学習内容よりさらに多様な語彙、類型を中心に学習する。言葉と関連して、韓国の文化などについても紹介しながら授業を進めていく。						
到達目標						
韓国の実生活で使う一般的な日常会話を学び、その学習により韓国社会の文化や社会について理解を深める。また、将来韓国文化に触れる機会があることを想定し、コミュニケーションスキルを身に付けていく。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につける」授業科目である。（DP5）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション：講師紹介、講義の進め方、成績評価方法、その他	講義	朴 他			
2	韓国語の応用①：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
3	韓国語の応用②：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
4	韓国語の応用③：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
5	韓国語の応用④：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
6	韓国語の応用⑤：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
7	韓国語の応用⑥：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
8	韓国語の応用⑦：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
9	韓国語の応用⑧：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
10	韓国語の応用⑨：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
11	韓国語の応用⑩：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
12	韓国語の応用⑪：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
13	韓国語の応用⑫：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
14	韓国語の応用⑬：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
15	韓国語の応用⑭：韓国の実生活で使う会話と文化を学ぶ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習：テキスト及び参考文献を事前に読んでおくこと。後半は授業時間外のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：できる韓国語中級Ⅰ（改訂版），アスク出版						
成績評価の方法・基準						
レポート（70%） 授業参加状況（30%）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
韓国語を使ったグループワークの時間がありますので、積極的に参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
導入基礎演習	160	1前	必	2単位 60時間	演習	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku. ac. jp 5号館3階306 小林睦 KOBAYASHI, Mutsumi m-kobayashi●saku. ac. jp 5号館2階201 中嶋智子 NAKAJIMA, Tomoko t-nakajima●saku. ac. jp 1号館3階1319 柴田香菜子 SHIBATA, Kanako k-shibata●saku. ac. jp 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
木曜日17時～18時（予約順で行いますので、まずfy200●saku. ac. jpメールをください。その内容に合わせて、他の教員から連絡をします。）						
授業の概要						
高等学校から大学教育への円滑な接続を図ることを目的として、学修活動に必要となる基本的な学修技術の習得を図るとともに、専門教育における学修目標を設定するための動機づけ学修を行う。具体的には、新聞講読などを通じて、保健・医療・福祉に関する社会的に重要な特定の主題や現代社会が直面する基本的な諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、専門教育への興味と関心を高める。						
到達目標						
本科目は、プロジェクトチームと個人での活動を並行します。プロジェクトではPBLs（Project-Based Learning, Problem-Based Learning）に則ってチーム学修をします。個人学修では「アカデミックポートフォリオ」の作成・更新を行います。集大成として、学内外公開のプレゼンテーション大会を実施します。 この授業を経て、主体的な学修スキルと生涯にわたって学び続ける力を獲得しましょう。 1. 各自が年間計画を立案でき、その“ふりかえり”ができる。 2. アカデミックポートフォリオを作成することができる。 3. 保健・医療・福祉への関心が持てる。 4. 意見や考えをもつことができる。 5. 意見や考えを他者に表現することができる。 6. 効果的なプレゼンテーションをすることができる。 7. VTR視聴、講義内容をノートテイキングできる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「自律的に学修し続ける態度を身に着けている」を培うための初年次教育科目に該当する。（DP2）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	科目の概要と進め方の説明、チーム編成、プロジェクトの立ち上げ			講義・演習	全教員	
2	看護学教育を履修する上で大切なこと、VTR視聴ノートテイキング、アカデミックポートフォリオの作成					
3 - 4	チームワーク（図書館ガイダンス1回含む）					
5	チームプロジェクトの進め方、プロジェクト課題の決定・課題解決の手段					
6/7	ビジュアルマインドマッピング					
8	プロジェクトテーマの決定、プレゼンテーション評価票配付と説明					
9	引用文献について					
10 - 14	プロジェクトワーク（チーム）					
15 - 16	アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載）					
	プロジェクトの中間報告会					
17 - 18	プロジェクト発表方法等の説明					
19 - 24	チームワーク					
	（19回はプレゼンテーションについて学びます）					
	チームワーク・発表準備（発表順の決定、プロジェクト課題名一覧表の作成）					

25 - 28 29 - 30	プロジェクトプレゼンテーションと評価（学内外への授業公開） アカデミックポートフォリオの作成（ふりかえりシートの記載）		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学修時間は22.5時間となります。</p> <p>★ポートフォリオ作成は個人で計画的に進めてください。 全ての授業終了後に作成するのではなく、毎回授業で使用したシート類に記述、追加していきます。 自己学修は約10時間以上を要します。</p> <p>★プロジェクトテーマに沿った学修時間を各自確保し、チーム学習を進めてください。 チーム活動を円滑に行うための文献検索、発表準備に時間を要します。約12.5時間 なお、効果的な学修の進め方は、授業内で説明します。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト： アメリカ心理学会（2010）/前田樹海，江藤裕之，田中建彦（2011）．APA論文作成マニュアル．医学書院． 世界思想社編集部（2021）．大学生 学びのハンドブック[5訂版]．世界思想社．</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>科目終了時には、以下規準についての点数を個別返却します。</p> <p>■授業進度に応じた課題提出状況（30％） 各項目の配点は、初回授業でお知らせします。</p> <p>■アカデミックポートフォリオ作成（40％） 科目独自のルーブリックを提示しますので、受講生全員の合意のもと最終決定とし、使用していきます。</p> <p>■チームプロジェクトの発表（30％） 科目独自の評価票を使用し、相互評価を行います。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
提出されたアカデミックポートフォリオ返却時に、成績一覧を添えて個別返却します。			
担当教員からのメッセージ			
<p>授業初回時に、必ず、次の2つを持参してください。</p> <p>① A4サイズのDリング2穴ファイル（厚さ3～4cm程度、色は各自の好みで構いません。） ② A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業で使用します。B5サイズのルーズリーフは使用不可。）</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
佐久の医療とケアの歴史	161	1前	必	1単位 15時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階204						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
・原則、授業日の授業終了から放課後 ・質問は、メールでもよい（常時） ・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である						
授業の概要						
人々の行動や健康は、周囲の社会環境の影響を受けていることが研究で明らかにされている。佐久地域では、医療機関と住民が協働し、地域医療に取り組んできた。それは人々の健康を疾病や治療という視点を超えて、生活のレベルで捉え、健康増進・リハビリテーションなどを含むトータルな保健システムによる取り組みである。健康をめぐって個人・社会・文化の関わりについて、我が国における事例から説明していく。テーマに沿ってゲストスピーカーを招聘し、講義を行う。						
到達目標						
1. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支えるケアの歴史について説明できる 2. 佐久地域における人々の健康と暮らしを支えるケアの現状について説明できる 3. 人々の健康と暮らしを支える医療福祉職を目指す学生としての学修課題に気づくことができる 4. 人々の健康と暮らしを支えるケアに関する今後の学修課題に気づくことができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本科目は、佐久地域の医療とケアの歴史から、看護の基盤となる考え方を学ぶものであり、全てのディプロマポリシーに関連付けられる。特に「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」と、「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につけている」という、人々の暮らしを支えるケアの実践者としての基盤（プロフェッショナルリズム）の育成に対応する科目である。（DP1・2・3・4・5・6・7） 本科目は、医療福祉職に共通する・基盤となる考え方を学ぶものであり、人間福祉学部との共通科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コース オリエンテーション	講義	柿澤			
2	佐久地域の保健予防活動の歴史と現状：地域保健予防活動	講義	特別講師			
3	佐久地域の医療と保健予防活動の歴史①：若月俊一を知る	講義	盛岡			
4・5	佐久地域の医療と保健予防活動の歴史②：地域での暮らしを支える訪問診療・訪問看護（「病院はきらいだ」視聴）	講義	柿澤			
6	佐久地域の福祉活動の歴史と現状：高齢者支援	講義	特別講師			
7	佐久地域の障がい者支援の歴史と現状：精神障がい者支援	講義	特別講師			
8	保健医療福祉にたずさわる者として：意見交換	演習	柿澤			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
本授業は1単位15時間の科目であり、30時間の自己学修が求められている 【予習】 本授業の理解を深めるため、配付資料を計画的に読み進める 【復習】 毎回の授業後に学びを整理し、Assignmentを提出する ＊ 詳細は、初回授業で説明する						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
参考文献 授業内で適宜紹介する。 松島松翠編（2014）．現代に生きる若月俊一のことば．家の光協会。 南木佳士（1994）．信州に上医ありー若月俊一と佐久病院ー．岩波新書。 若月俊一（1971）．村で病気とたたかう．岩波新書。 若月俊一（2007）．若月俊一の遺言．家の光協会。 若月俊一（2010）．信州の風の色 地域とともに50年．旬報社。						

成績評価の方法・基準
<p>1. 提出課題（90%）</p> <p>1) 課題レポート（40%）；</p> <p>授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す</p> <p>目的：佐久の医療とケアの歴史を踏まえ、人々の健康と暮らしを支えるケアについて深め、今後の学修課題を明らかにする</p> <p>方法：授業（映画の視聴、ディスカッション含む）から、人々の健康と暮らしを支えるケアについて、考えたことや今後の学修課題を記述する</p> <p>2) Assignment（50%）；</p> <p>2, 3, 4・5, 6, 7回のAssignmentを提出する。授業内で評価方法、提出期限、提出先を示す</p> <p>2. 演習におけるチームに対する貢献度（10%）</p> <p>演習への参加度を自己評価する</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>課題については、原則コメントをして返却する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>佐久地域は、国内外に知られる「地域医療先進エリア」であり、現在は、さらなる地域包括ケアシステムの構築を推し進めている。なぜ、佐久地域が「地域医療先進エリア」なのか、その理由をともに学びましょう。そして、<u>佐久地域で保健医療福祉を学ぶ意味について一緒に考えましょう。</u></p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生命倫理	162	1後	必	2単位 30時間	講義	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○盛岡正博 MORIOKA, Masahiro 廣瀬 健 HIROSE, Ken						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後に随時、教室で質問等を受ける。（廣瀬・盛岡） 執務室（5号館1階理事長室）の扉が開いている時、随時相談を受けます。						
授業の概要						
生命の尊厳と人間尊重の精神を共に理解する。生命の倫理原則を具体的な例を検討しながら学ぶ。文化背景や社会環境の違いによる多様な価値観についても理解することを学ぶ。医療に携わる専門職としての自らの行動規範と患者や家族に対する基本的な倫理観を築く機会とする。						
到達目標						
1. 直面した個々の事例に誠実に対応することの大切さを知る。 2. 病気や障害により医療や福祉の支援を必要とする者に具体的な対応を考える。 3. 専門職として学ぶ自覚と他者との関係性構築の大切さを理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	はじめに～生命倫理学の歴史的背景	講義	盛岡, 廣瀬			
2	生命誕生と医学の介入① ～人工授精、体外受精など	〃	〃			
3	生命誕生と医学の介入② ～再生医療、iPS細胞の可能性と課題	〃	〃			
4	生を絶つことへの医学の介入① ～人工妊娠中絶、女性の自己決定権	〃	〃			
5	生を絶つことへの医学の介入② ～選別出産、減数手術など	〃	〃			
6	死への医学の介入① ～死とは、脳死と臓器移植問題	〃	〃			
7	生と死のケア① ～訪問看護、在宅診療の現場から	〃	特別講師			
8	死への医学の介入② ～自死、殺人、安楽死について	〃	盛岡, 廣瀬			
9	死への医学の介入③ ～安楽死、尊厳死、医療と宗教	〃	〃			
10	生と死のケア② ～ターミナル・ケアについて	〃	〃			
11	生と死のケア③ ～死の受容について	〃	〃			
12	インフォームド・コンセント～医師の裁量権とパターンリズム	〃	〃			
13	がんを生きるということ	〃	〃			
14	認知症における生命倫理の視点	〃	〃			
15	まとめ ～生命が平等足りうる社会か	〃	〃			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テーマに従って、講義資料を用意するので、事前にテキストを読むか、受講後に復習すること。 講義時に見聞するニュースなどを資料として用いることもあるので、社会的話題にも関心をもつこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：塩野寛・清水恵子『生命倫理への招待』南山堂</p> <p>参考書や参考論文は、講義進行に合わせて提示します。</p>
成績評価の方法・基準
<p>1. 授業参加状況 60%</p> <p>講義終了後にリアクション・ペーパーの記述内容を評価する。</p> <p>2. レポート課題 40%</p> <p>課題を提起して、生命倫理的考察のレポート作成による評価を行う。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>提出されたレポートやリアクション・ペーパーは、前期終了後に本人に返却する。</p>
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・覚える学問でなく、思索を楽しんでください。 ・自分探しの時間にしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域生活者交流実習Ⅰ（生活者交流）	163	1通	必	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○二神真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami@saku.ac.jp 5号館2階210 他専任教員						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
メールアドレスにご連絡下さい。 各チームの担当教員のオフィスアワーについては、担当別オリエンテーションでお知らせします						
授業の概要						
地域で暮らす人々の生活の場に出向き、日常生活の様子や健康に対する思い、家族や近隣の人々とのつながりについて考える。また、地域で暮らす人々がよりよく生活するためのさまざまな保健・医療・福祉に関する社会資源を知り、さまざまな場における看護職の役割について理解を深める。						
到達目標						
1. 対象地域の特性（地理、気候、人口構成、産業、交通、風土）を調べ、説明できる 2. 地域で暮らす人々が生活や健康を守るためにどのように行動しているのか、家族や近隣の人々とどのように助け合い生活しているのかを知り、説明できる 3. 地域で暮らす人々の健康に関わる社会資源、風習や行事等を知ることができる 4. 各チームの実習先において、どのような職種の人が協働しているのかを知る 5. 地域で暮らす人々と自分から対話することができ、相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる 6. 地域で暮らす人々が健康的な生活を継続するための取り組みや健康課題をチームで考察できる 7. 今後の学修課題及び地域生活者として自身の課題を考えることができる 8. 実習で学んだ内容から、地域で暮らす人々がよりよく生活するための看護職の役割について考え、説明できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
すべてのDPにかかわる科目であるが、特に「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができている」、「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し受け入れ貢献する態度を身につけている」、「対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り伝えあうことができる」と強く関連している。これにより、看護職として将来的に地域で暮らす人々のニーズに応じた支援を行っていく上での基礎を築く。（DP5, DP6）						
授業計画						
1. 実習方法： 実習グループは学籍番号下一桁が同じ数字のチューターグループとする。 チューターグループ毎に実習テーマが設定される。 学生は、実習テーマに関連した情報収集を行い、各チームで課題を明確にして地域に赴く。実習では積極的に行動し、実習目標達成にむけて努力する。各チームの学修内容をポスターにまとめ、報告会で共有する。 2. 実習期間：2021年4月～12月 3. 実習場所：佐久市内公民館、まちの縁側なから、浅科小学校、春日の森、平尾の森、ヘルシーパークかわかみ、野辺山ステーション など ※詳細はオリエンテーションで配布される実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
各チームで臨地実習日程が異なるため、計画的に準備していく。実習テーマに関する情報収集では、個人もしくはチームで調べ学習を行い、事前学習シートにまとめる。 地域に赴いた後は、臨地実習記録を作成する（毎回30分～1時間程度）。 提出期限までに最終レポートをまとめ、他実習記録とあわせ、manabaへ提出する。 ※詳細はオリエンテーション時に説明する						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
特になし
成績評価の方法・基準
地域生活者交流実習ルーブリックに従う
課題に対するフィードバックの方法
実習準備・臨地実習・報告会の過程で実習担当教員から助言があります。提出した実習記録についてはコメントを入れて返却いたします。
担当教員からのメッセージ
<p>2021年度から始まる新しい実習です。教員も一緒に楽しみながら地域住民と交流できるとよいと考えています。実習開始前にオリエンテーションを行います。詳細はmanabaで確認してください。</p> <p>なお、佐久地域の特性を知る上で、選択科目「信州・佐久学」を履修することをおすすめします。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師・保健師・助産師等として健康の保持・増進、疾病の予防にかかわってきた経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。（全担当教員）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
法学（日本国憲法含む）	165	1後	選 （養） 必	2単位 30時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○関 良徳 SEKI, Yoshinori yosseki●shinshu-u.ac.jp						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
この授業では、①私たちの日常世界で生じている法律問題とその背景について、憲法やその他の法律の観点から概説する。②それぞれの問題について、憲法や法律にもとづき、いかなる取り組みがなされているかを説明する。③現在の法制度や法的対応が抱えている問題点を指摘し、改善策を検討する。④身近な法律問題に自分なりの解決を示すとともに、他の受講生との討論からより公正な判断を導き出すための問題解決型学習を行う。						
到達目標						
私たちの身のまわりの法律問題について理解を深めると同時に、憲法を基軸とする法律的な考え方の基礎を身につけ、法的な思考にもとづいて具体的に問題解決できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	自己決定と法：法律的な考え方基礎にある「自己決定権」について学ぶ。	講義	関			
2	消費生活と法（1）：消費生活における契約と約款の問題を様々な事例から学ぶ。	講義				
3	消費生活と法（2）：消費者契約法等にかかわる事例から消費者問題を考える。	講義				
4	事例検討[1]：自己決定権に関わる事例を裁判形式で検討し、その問題点を探る。	演習・討論				
5	家族と法：家族をめぐる法的問題（夫婦別姓など）について説明する。	講義				
6	子どもと法（1）：児童虐待の問題について、その原因や法的対応について学ぶ。	講義				
7	子どもと法（2）：現在の少年法がかかえる諸問題について概説する。	講義				
8	事例検討[2]：家族に関する事例を裁判形式で検討し、各論点について考える。	演習・討論				
9	犯罪と法：犯罪と刑罰に関する法律や今日の治安問題について解説する。	講義				
10	裁判員制度：裁判員制度の意義と問題点について考える。	講義				
11	医療と法（1）：インフォームド・コンセントと安楽死・尊厳死について考える。	講義				
12	事例検討[3]：刑事事件を裁判形式で検討し、その仕組みを学ぶ。	演習・討論				
13	医療と法（2）：代理出産、臓器移植、医療事故・医療訴訟について解説する。	講義				
14	労働と法（1）：採用と退職・解雇に関わる労働法について検討する。	講義				
15	労働と法（2）：就業時間、賃金、職場環境に関する労働法について概説する。	講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内にミニレポートを課す場合があるので、講義内容の復習を行っておくこと。 事例検討の授業では、予習レポートが課される。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：毎回レジュメを配布する。テキストは使用しない。 参考文献：適宜紹介する。
成績評価の方法・基準
筆記試験（50%） レポート（30%） 授業への取り組み状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
法律学は難しいというイメージを抱かれがちですが、この授業では身近な問題を扱うことで将来必ず必要になる知識を学びます。また、日常生活や医療にかかわる法律問題についての事例検討では、討論に積極的に参加する学生を評価します。質問・相談はできるだけ授業時間内に行うようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基盤科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ヒューマンケア概論	166	1後	選	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○青木 紀 AOKI, Osamu						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義内で周知する。						
授業の概要						
ライフサイクルの「依存とケア」の視点から、動物社会との対比を踏まえつつ、人間社会のケアの特徴をまず理解する。ついでケア行為をめぐる受け手と与え手の関係性の構造を諸側面（二者関係、関係性の転換志向、専門職間関係など）から検討する。最後に関連する制度及び政策をケアレジーム論とともに概観する。ただし、この部分の詳細はヒューマンケア概論Ⅱで展開される。初年次学生が現代社会におけるケア関連専門職の位置づけと役割を考えていく契機となる講義である。						
到達目標						
当該科目は、初年次学生を対象にした人間福祉学部学部及び看護学部の理念や目的の根幹にかかわる講義である。したがって、上記のような幅広い講義内容から、学生一人ひとりがヒューマンケアの学びの「おもしろさ」を感じ、関連する基礎的な諸概念を理解し、主体的な学びの動機を強化することをめざす。同時に卒業後、それぞれが就くであろうケア関連専門職の社会的役割―そこではケア専門職間等の連携の重要性も意識しながら―を考える機会の出発点とする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができている」（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	依存とライフサイクル―ヒトの特徴―	講義	青木			
2	依存を支えケアを補完する社会―ヒト集団における共感の役割―	講義	青木			
3	ライフサイクルの葛藤と調整―基本視点の提示―	講義	青木			
4	自立と「依存の否定」―基本視点からの展開（1）―	講義	青木			
5	自立志向と「依存の理解」―基本視点からの展開（2）―	講義	青木			
6	自立と依存のパラドックス―基本視点からの展開（3）―	講義	青木			
7	ジェネレイショナル・ケアの内部依存―ライフサイクルの不安定のなかで―	講義	青木			
8	ジェネレイショナル・ケアの外部依存―ライフサイクルの「安定」のなかで―	講義	青木			
9	多様なケア論とその生成基盤	講義	青木			
10	ケアの二者関係の分析（1）―モデル構造の純化と分節化―	講義	青木			
11	ケアの二者関係の分析（2―1）―関係の変化志向―	講義	青木			
12	ケアの二者関係の分析（2―2）―インフォームド・コンセント―	講義	青木			
13	ケアの二者関係の分析（3）―「生活世界」「現象学」への依拠―	講義	青木			
14	多様な二者関係の重なりとしてのケア―拡大する関係性―	講義	青木			
15	小括と補論―疑問に答えながら、ヒューマンケア概論Ⅱを展望する―	講義	青木			

<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>各回の授業に関連して、参考となる学術文献だけでなく、広く雑誌、新聞記事、小説、TVドキュメンタリー、映画等も紹介することから、授業時間外学習としてそれらの「学び」を楽しむことを期待する。そのうえで、各自の学びを参考に、学習レポートの提出（期間内2回）を求める。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>参考文献について 青木紀『ケア専門職養成教育の研究』明石書店、2017年、などがあるが、その他のものについては、必要に応じて授業内で適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>授業時間外学習のレポート（上記）に加えて、学期末の課題レポート（1回）を提出し、評価する。その評価基準は、時間外学習レポートは積極性とオリジナル性、学期末の課題レポートは与えられた課題の理解と論理的記述性さらに独創性などを中心に判定する。比率は授業時間外学習レポート50%、学期末課題レポート50%とする。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>時間外学習レポートは授業時間内にフィードバックする。ただし、学期末レポートは教務係におく。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>基本的なことをしっかり学び、通説を知ること大事だが、視点を少しずらす、あるいは反転させるだけで別世界が見えてくることもある。そんな学び方を感じ取り、自らの学びの姿勢とすることを期待する。とくに、人間もまた動物であるという視点のおもしろさや、それゆえ対比したときの人間社会の「すごさ」も学んでほしい。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅰ（身体の基盤）	170	1前	必	2単位 60時間	講義	火4, 火5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○川野道宏 KAWANO, Michihiro m-kawano●saku.ac.jp 5号館3階303 小山智史 KOYAMA, Tomonori						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。 それ以外をご希望の方は、までメールをください。						
授業の概要						
まず、身体を構成する様々なレベル（細胞・組織・器官等）の特徴について理解する。その後、器官（骨格系・筋系・神経系等）を主として学習し、人が日常生活を営むにあたり、これらの器官が相互作用しながら機能していることを理解する。						
到達目標						
1. 細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について理解する 2. 細胞、組織、皮膚、膜、筋系、骨格系、神経系、特殊感覚の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 3. 自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について理解する 4. 自律機能を調節する神経性調節機構、生体の内部環境が安定に保たれる機序について自分の言葉で説明できる 5. 形態機能学の知識が、質の高い看護実践につながることを知る						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「生命を尊重し擁護する責任と役割の自覚」を身につけるために、「身体の仕組みと機能、生命誕生から死に至るまでの成長・発達についての基本的知識」を得るための科目の1つに位置づけられる。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1- 2	人体のオリエンテーション（テキストp1～61）			講義	川野	
3- 4	医学・解剖学・生理学の歴史と人々の健康			講義	川野	
5- 6	細胞と組織について学ぶ（テキストp63～110）			講義	川野	
7- 8	皮膚と膜について学ぶ（テキストp111～132）			講義	川野	
9-10	骨の概観、体幹の骨格について学ぶ（テキストp133～154）			講義	未定	
11-12	体肢の骨格、関節について学ぶ（テキストp154～176）			講義	未定	
13-14	筋の概観、構造、肉眼的解剖学について学ぶ（テキストp177～181, p191～210）			講義	未定	
15-16	筋の運動、活動性について学ぶ（テキストp181～191, p211～216）			講義	未定	
17-18	特殊感覚の構造について学ぶ（テキストp283～285）			講義	未定	
19-20	特殊感覚の機能について学ぶ（テキストp267～282, p285～294, 触覚含む）			講義	未定	
21-22	神経系のしくみ、構造と機能について学ぶ（テキストp217～232）			講義	川野	
23-24	中枢神経(脳)の構造と機能について学ぶ（テキストp232～243）			講義	川野	
25-26	中枢神経(脊髄)、末梢神経について学ぶ（テキストp243～266）			講義	川野	
27-28	中枢神経系を保護する組織、神経系の発生・発達・分化			講義	川野	
29-30	形態機能学の看護学への応用			講義	川野	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習（最低 30 分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明かし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。 復習（最低 30 分は必要です） テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。 図示に関して テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。						

<p>解剖模型の貸借</p> <p>授業中、解剖模型等を使用しながら講義をすることもあります。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>テキスト：エレイン・N. マリーブ著、人体の構造と機能 第4版, 医学書院</p> <p>参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版</p> <p>坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院 (図書館にあります)</p> <p>塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)</p> <p>岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版 (原著22版が図書館にあります)</p> <p>岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)</p> <p>病気が見える (各シリーズ) メディックメディア (図書館にあります)</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p><u>授業参加状況 (5%)</u></p> <p>遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。</p> <p>講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。</p> <p>質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。</p> <p><u>小テスト (25%)</u></p> <p>manabaの小テスト機能を用いて、抜き打ちで4回程度実施します。スマートフォン、タブレットなどを持っていない学生は、教務課あるいは、図書館から借りうけてください(25点満点/回、4回の合計点に0.25を掛けた点数を最終評価とします)。</p> <p><u>定期試験 (70%)</u></p> <p>前期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します(200点満点、0.7を掛けた点数を最終評価とします)。</p> <p><u>最終評価</u></p> <p>授業参加状況 + 小テスト + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。</p>
<p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法</p> <p>小テストはテスト終了後に模範解答を示します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して質問に来てください(講義の間の休み時間でも結構です)。</p> <p>定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。</p> <p>人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキの位置と役割を知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。</p> <p><u>以下の点に注意すること</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この講義を録音したい場合、担当教員に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。 ・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。 ・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に担当教員のところまで来てください。
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p>

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
形態機能学Ⅱ（成長・維持機能）	171	1後	必	2単位 60時間	講義	月2, 木3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○川野道宏 KAWANO, Michihiro m-kawano●saku.ac.jp 5号館3階303						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義終了後30分間、教室または研究室で質問を受けます。 それ以外をご希望の方はメールをください。						
授業の概要						
さまざまな器官系（呼吸系・心臓血管系・リンパ系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・生殖器系）の学習を通し、人が日常生活を営む際、どのように身体の構造・機能が働いているのかを理解する。さらに、これらの構造・機能の異常が、人間の健康障害や疾病、病態生理とどのように関連しているかを理解する。						
到達目標						
1. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について理解する 2. 呼吸器系、心臓血管系、リンパ系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、生殖器系の基本的形態・機能について自分の言葉で説明できる 3. 健康障害時に見られる徴候や症状と身体構造や機能障害との関連を理解するための基礎的知識を習得する 4. 形態機能学Ⅰで学んだ知識との関連を図示し、自分の言葉で説明ができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
専門職として必要な「生命を尊重し擁護する責任と役割の自覚」を身につけるために、「身体の仕組みと機能、生命誕生から死に至るまでの成長・発達についての基本的知識」を得るための科目の1つに位置づけられる。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1- 2	心臓血管系の構造について学ぶ(テキスト p343～350)	講義	川野			
3- 4	心臓血管系の機能について学ぶ(テキスト p350～353, p364～369)	講義	川野			
5- 6	心臓血管系と血液について学ぶ(テキスト p323～339, p353～380)	講義	川野			
7- 8	リンパ系と生体防御機構について学ぶ(テキスト p381～416)	講義	川野			
9-10	呼吸器系の構造について学ぶ(テキスト p417～426)	講義	川野			
11-12	呼吸器系の機能について学ぶ(テキスト p426～435)	講義	川野			
13-14	消化器系の構造について学ぶ(テキスト p447～450, p458～459)	講義	川野			
15-16	消化器系の機能①について学ぶ(テキスト p450～458, p459～460)	講義	川野			
17-18	消化器系の機能②について学ぶ(テキスト p460～469)	講義	川野			
19-20	消化器系の機能③について学ぶ(テキスト p469～492)	講義	川野			
21-22	泌尿器系の構造について学ぶ(テキスト p493～497, p502～504)	講義	川野			
23-24	泌尿器系の機能について学ぶ(テキスト p497～502, p504～516)	講義	川野			
25-26	内分泌系の構造について学ぶ(テキスト p295～306)	講義	川野			
27-28	内分泌系の機能について学ぶ(テキスト p306～321)	講義	川野			
29-30	生殖器系の構造・機能について学ぶ(テキスト p517～552)	講義	川野			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
予習（最低30分は必要です） テキストの次回授業に関連する部分を熟読、器官そのもの、器官と器官のつながりを図示してみましょう。また、何が分からないかを明らし、講義を集中して聴けるよう準備しましょう。						
復習（最低30分は必要です） テキスト、講義資料、参考文献などを用いて、講義で学習したことを自分の言葉でまとめてみましょう。また、予習で描いた図に、講義でわかったこと、足りないところを描き足し、間違っていたところを修正しましょう。						
図示に関して テキストのような、きれいな図を描く必要はありません。自分が分るように描いてみてください。また、その図が体のどちら側から見たものなのかを意識して描くと、より理解が進みます。						

解剖模型の貸借

授業中、解剖模型を使用しながら講義をすることもあります。テキストや参考文献の絵と見比べながら学修すると、より理解が深まります。積極的に触って立体構造を理解しましょう。自己学修に必要な場合は、講義時間外でも貸し出します。学内ならどこで使用しても構いません。使用後は速やかに返却してください。破損には十分注意してください

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：エレイン・N. マリーブ著、人体の構造と機能 第4版, 医学書院

参考文献：トートラ人体の構造と機能 第4版, 丸善出版

坂井建雄 監訳, プロメテウス解剖学コア アトラス, 第1版, 医学書院 (図書館にあります)

塩田浩平 訳, グレイ解剖学, 原著第2版, ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)

岡田泰伸 監訳, ギャノン生理学, 原書23版, 丸善出版 (原著22版が図書館にあります)

岡田忠 監訳, コスタンゾ明解生理学, 第1版(原著第3版), ELSEVIER JAPAN (図書館にあります)

病気が見える (各シリーズ) メディックメディア (図書館にあります)

成績評価の方法・基準**授業参加状況 (5%)**

遅刻は講義開始後20分までとします。20分を超えた遅刻は欠席とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。

出席確認はmanabaのresponを使用し確認します。

講義では学習状況を確認するため、質問をします。質問に答えられるよう準備しましょう。

質問に答えられない学生がいた場合、近くに着座している学生は、答えられるようにサポートしましょう。

小テスト (25%)

manabaの小テスト機能を用いて、抜き打ちで4回実施します。スマートフォン、タブレットなどを持っていない学生は、教務課あるいは、図書館から借りうけてください(25点満点/回、4回の合計点に0.25を掛けた点数を最終評価とします)。

定期試験 (70%)

後期で学んだ内容全部を範囲とした筆記試験を実施します(200点満点、0.7を掛けた点数を最終評価とします)。なお、形態機能学Ⅰで学んだ知識を使って解答する問題を含みます。

最終評価

授業参加状況 + 小テスト + 定期試験 の合計点で評価されます(100点満点に換算します)。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

小テストはテスト終了後に模範解答を示します。質問がある場合、オフィスアワー等を利用して質問に来てください(講義の間の休み時間でも結構です)。

定期試験は成績判定終了後、希望があれば研究室にて答案を開示します。その際、コピーや写真等を撮ることは認めません。メモについては制限しません。質問があれば、その場で対応します。

担当教員からのメッセージ

この科目は、単位を取得するために、ただ暗記するだけでは何の意味もありません。前述しましたが、今後学んでいく多くの科目を理解し看護に活用するため、基礎知識として必要です。また在学中だけでなく、看護師として病院などの臨床現場で働くようになって、看護や医療が進歩していく中、何度も学び直すのがこの科目の特徴です。

人の命を看護する看護師が、人体の構造と機能を知らないのは、自動車を運転するのにアクセルとブレーキの位置と役割を知らないようなものです。まずは看護学生として「人体がどのような構造からなり、どのように機能しているのか」を形態機能学で学修し、看護を考える基礎を身に付ける必要があります。何度も振り返り、自分なりに人体の構造と機能を図示できるようになる、自分の言葉で人体の構造と機能を説明できるようになることが必要です。

以下の点に注意すること

- ・この講義を録音したい場合、担当教員に許可を得ること。許可なく録音しないでください(録画は認めません)。
- ・この講義に関することをインターネット上(SNS等)に公開しないこと。
- ・講義中に質問があるときは、挙手して質問するか、休み時間に担当教員のところまで来てください。

実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
感染・免疫学	172	1後	必	2単位 30時間	講義	火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司 IMAFUKU, Yuji						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
人体における感染の原理、微生物に対する生体の免疫・防御システム、感染性微生物の種類・特徴と感染性疾患発症のメカニズムについて、感染拡大の原理や防御方法、院内感染対策、さらに近年の国際的感染症とその管理・予防についての知識を学ぶ。						
到達目標						
感染症の原因となる病原体の構造、機能、発育環境、伝搬経路を理解したうえで、臨床上重要な感染症の病態と治療、予防策を学ぶことにより、自信を持って自分を守りながら感染症患者に寄り添うケアができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	微生物と微生物学			講義	今福	
2	細菌の性質					
3	真菌・原虫・ウイルスの性質					
4	微生物感染の成立メカニズム					
5	感染に対する免疫・防御機構					
6	感染源・感染経路と感染症の予防					
7	感染症の診断と治療・感染症治療の現状と対策					
8	細菌感染症					
9	細菌感染症					
10	細菌感染症・真菌・原虫感染症					
11	ウイルス感染症					
12	ウイルス感染症					
13	ウイルスとプリオン病					
14	院内感染対策と職業感染対策					
15	主な国際感染症とその対策					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回授業時に授業内容に応じた予習復習について指示します。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『系統看護学講座 微生物学』医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（今福裕司）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生活習慣と健康	180	1前	必	2単位 30時間	講義	月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
人間が健康的に暮らし、快適に寿命を全うする上で、暮らしを取り巻く環境と生活習慣、自律的健康管理の積み重ねは重要な影響因子となる。自己のふり返りを基に、健康の回復・維持・増進のための基礎的な知識を深め、心身の健康維持に必要なとされる食事や運動、思考、生活習慣などについて、科学的根拠に基づく対策の仕組みの理解と行動変容につながる介入のあり方を理解する。						
到達目標						
1. 学生が自己の生活習慣を見つめ、健康とのつながりを理解する。 2. 心身の健康管理のあり方を考え、また、支援者としての役割を自覚する。 3. 人の多様性を理解し、上手な対人関係のための知識を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	健康とは WHOの健康の定義・公衆衛生と予防の概念・健康づくりと影響因子	講義	朴			
2	命の大切さについて 自殺問題・心の健康問題	講義				
3	働き盛り世代の健康問題について 生活習慣病・職場における自律的健康支援対策	講義				
4	ゲートキーパーについて① 自殺問題とゲートキーパーの役割	講義・演習				
5	ゲートキーパーについて② 自殺する人の心理とゲートキーパーとしての心得	講義・演習				
6	自殺に関する偏見について 自殺は合理的な選択なのか	講義				
7	認知行動療法を知る	講義				
8	認知行動療法の実践	演習				
9	精神分析の概要	講義				
10	ストレス科学分野の研究	講義				
11	支援者として自己管理	講義				
12	人の多様性の理解① 男女の違い	講義				
13	人の多様性の理解② 人の5つの言語の違い	講義				
14	コミュニケーションスキル ところに届く言葉の伝え方	講義				
15	まとめ 授業のポイントの振り返り	講義・演習				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業時間内のグループワークが必要になります。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。						

成績評価の方法・基準
○授業参加状況（30%） ○授業終了時のミニレポート （20%） ○課題レポート （50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「課題レポート（50%）」とは、授業時に出される自分の心身の振りかえり記録資料を指します。授業時間内の「グループワーク」も本科目において重要なポイントですので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限		
病態生理学	182	1後	必	2単位 30時間	講義	水3, 水4		
担当教員（○印＝科目責任教員）								
○齋藤文護 SAITO, Bungo								
オフィスアワー／連絡先と連絡方法								
授業終了後に教室で質問を受け付ける。								
授業の概要								
種々の疾病の原因と発生の機序、それに対する生体の反応、疾病の経過・転帰などについて、全身の各臓器の組織、細胞の一般的な形態学的変化を学び、疾病に対する理解を深める。								
到達目標								
疾病における形態と機能及び代謝の変化を理解し、病気や症状の機序について理解する。								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連								
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」授業科目である。(DP4)								
授業計画								
回数	授業内容				授業方法	担当教員		
1	病理学とは、病理検査とは				講義	齋藤		
2	細胞障害と老化							
3	遺伝子、染色体と先天異常							
4・5	循環障害							
6・7	炎症							
8・9	免疫異常とアレルギー							
10・11	感染症							
12・13	腫瘍							
14	代謝異常							
15	まとめ							
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理してください。								
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等								
テキスト：クイックマスター『病理学』サイオ出版								

成績評価の方法・基準
筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
みなさんの将来に役立つ講義を目指しています。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
食と健康	187	1後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮本由香 MIYAMOTO, Yuka						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。 また、受講票を持って質問を受け付け、これに返答する。						
授業の概要						
人間の生命維持に必要な栄養素とその代謝経路について理解し、疾病の予防、健康保持増進、疾病の治癒、回復に寄与する栄養の働きを学ぶ。特に、医療、福祉の現場に必要な食事療法とその原理を理解し、栄養素の給源である食べ物や食事としての実践方法を学ぶ。また、ライフステージごとの栄養的特徴や問題から、現代における、「人」「地域」「社会」の食生活の課題を明らかにし、その解決に向け連携できる職種や活用できる地域の資源を見つけられるよう、演習を取り入れた学びとする。「食と健康」を学ぶ中で、自分自身の食生活を振り返り、健康な食習慣に向け学んだ知識を実践することで心身の健康や自分らしく生きる力が身につき、命の大切さを深く理解し、擁護する能力の養成につなげていきたい。						
到達目標						
1. 人体に必要な栄養素とその体内での代謝経路について説明できる。 2. 健康の保持増進、疾病の治癒・回復に必要な栄養素の作用機序について理解し、その給源の食物が分かる。 3. 近年の栄養にまつわる問題を理解し、その解決方法について説明でき、健康な食習慣の形成について説明できる。 自らの健康的な食生活が実践できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	栄養とは（人間栄養学と看護）			講義ならび に演習	宮本	
2	健康づくりと食品・食事・食生活					
3	栄養素の種類と働き①：三大栄養素					
4	栄養素の種類と働き②：無機質、ビタミン					
5	日本人の食事摂取基準とエネルギー代謝					
6	栄養ケアマネジメントと栄養状態の評価・判定					
7	栄養素の消化・吸収（臨床栄養も含む）					
8	栄養素の体内代謝（臨床栄養も含む）					
9	ライフステージと栄養①：乳幼児～成人					
10	ライフステージと栄養②：更年期、高齢期					
11	臨床栄養①：消化器疾患を中心に					
12	臨床栄養②：循環器疾患を中心に					
13	臨床栄養③：生活習慣病					
14	現代の食生活の課題、生活習慣病の予防と食事					
15	健康的な食生活の実践にむけて					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>テキスト該当箇所を必ず読んでおくこと。 おおよそ单元ごとに授業内容について小テストを実施するので、よく復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度予習復習を行うこと。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：中村丁次『楽しくわかる栄養学』羊土社 参考文献：授業内にて適宜紹介する</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（70%） リアクションシート（10%） 小テスト（10%） レポート課題（10%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>個々に評価し返却する。また、必要な内容は授業時に扱い共有する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>授業で習得した知識に基づき、健全な食生活や健康管理を実践してください。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
<p>該当なし</p>

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
運動と健康 I	189	1～4前	選 (養) 必	2単位 30時間	講義 演習	木4, 木5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
ライフサイクルにおける健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に貢献するスポーツの実践方法の基本を理解する。また、実技・演習を通して運動を日常的に楽しく実践し、運動習慣を身につける。さらに、年代、体力、障がい等の条件に応じて人々が安全に楽しく運動を実践するために、アセスメント方法、環境づくり、安全管理の基礎的な知識を学ぶ。						
到達目標						
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ				講義	朴 他
2-3	球技スポーツ①（バドミントン）＋自由種目				実技	
4-5	球技スポーツ②（バレーボール）＋自由種目				実技	
6-7	球技スポーツ③（バスケットボール）＋自由種目				実技	
8-9	球技スポーツ③（スポンジテニス）＋自由種目				実技	
10-11	子どもの運動遊び＋自由種目				実技	
12-13	ボッチャ＋自由種目				実技	
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ＋自由種目				実技	
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ				実技	
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ				実技	
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ				実技	
22	授業のまとめ				実技	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。						
成績評価の方法・基準						
○授業参加状況（70％） ○授業終了時のミニレポート（30％）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限		
運動と健康Ⅱ	190	1・2・ 3・4後	選 (養) 必	2単位 30時間	講義 演習	集中		
担当教員（○印＝科目責任教員）								
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1317								
オフィスアワー／連絡先と連絡方法								
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。								
授業の概要								
子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、心と身体の健康と運動の関係や運動の基本的な知識や理論を理解する。また、自らの健康づくり及び楽しく安全な運動習慣を身につけるために、メッツとエクササイズ概念を理解した上で、日常生活の中で楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。								
到達目標								
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連								
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）								
授業計画								
回数	授業内容			授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ			講義	朴 他			
2-3	球技スポーツ①（バドミントン）＋自由種目			実技				
4-5	球技スポーツ②（バレーボール）＋自由種目			実技				
6-7	球技スポーツ③（バスケットボール）＋自由種目			実技				
8-9	球技スポーツ③（スポンジテニス）＋自由種目			実技				
10-11	子どもの運動遊び＋自由種目			実技				
12-13	ボッチャ＋自由種目			実技				
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ＋自由種目			実技				
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ			実技				
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ			実技				
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ			実技				
22	授業のまとめ			実技				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。								
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等								
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。								
成績評価の方法・基準								
○授業参加状況（70％） ○授業終了時のミニレポート（30％）								

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
足と健康（基本）	191	1前	選	1単位 15時間	講義	木5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮原香里	MIYAHARA, Kaori	k-miyahara●saku.ac.jp	研究室5号館2階209			
ベーレ・ルッツ	BEHLE, Lutz					
ベーレ・操	BEHLE, Misao					
坂江千寿子	SAKAE, Chizuko	chi-sakae●saku.ac.jp	研究室5号館3階309			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
質問は授業終了後に教室で受け付けます。						
授業日以外の質問はメールやmanabaで受け付けます。						
授業の概要						
「歩く」という行為は人間の基本動作であり、足部のクッション機能とポンプ機能は心身の健康に大きく影響している。日本における足と靴の健康に関する取り組みの現状および本学での足育の取り組みを知り、足の健康の重要性を認識する。健康寿命を目指す佐久市に設置されている本学の役割の一つとして自身及び周囲の人々に必要とされる足の健康を守るための基本的な能力を身につける。「歩く」を支える「足」の機能、足のトラブルと「靴」との関係、姿勢や歩行分析の基礎知識と技術を活用して、あらゆる年代の人が健やかに歩くことを支えるためのケア習慣を目指す。						
到達目標						
1. 足の健康と心身との関係が説明できる。						
2. 歩行を支える足部解剖学（構造と機能）を理解できる。						
3. 足部観察のポイントが理解できる。						
4. 歩行のメカニズムの理解ができる。						
5. フットプリント採寸の目的を理解して、正しい採寸ができる。						
6. フットプリントをもとに、足のトラブル（骨の変形、皮膚）について基本的な分析ができる。						
7. 靴選びの条件と正しい靴の履き方が習得できる。						
8. 足部の観察方法、特に角質ケア、足爪ケアの基礎を理解し、セルフケアによって自身および周囲の人々の足部と爪のトラブルを予防できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	1. 足育の定義 1) 本学における足育の取り組み 文部科学省私立大学研究ブランディング事業研究プロジェクトの紹介、足裏測定装置の開発、足育サポートセンターでの相談事業、足の保健室等 2. 足育の必要性 1) （成人）足の状態と靴の関係 2) 靴選びの条件と正しい靴の履き方 3) ナースシューズの選び方			講義	宮原	
2・3	3. ドイツと日本の足と靴事情 1) 専門職業的発展の歴史ードイツの整形外科靴マイスター教育制度ー 4. 足と靴に関する基礎知識と足部観察の理解 1) 足部解剖学（構造と機能） 骨格と関節、筋肉と腱、筋肉と靱帯 2) 足のアーチ構造 3) 歩行のメカニズム 5. 立位（脚軸）の観察および足部観察のポイント 6. フットプリント採寸の目的と方法 7. フットプリント分析（基本編）			講義	ベーレ・ルッツ、 ベーレ・操	

4・5・6	【演習1】 立位（脚軸）の観察および足部観察 【演習2】 フットプリント採寸 【演習3】 フットプリント分析（基本編）	演習	ベーレ・ルッツ、ベーレ・操、宮原、坂江他
7・8	8. 足趾と爪を守るためケア 1) 基本的な爪の切り方 2) 基本的な角質ケア 9. 爪のトラブル予防と対策	講義・演習	坂江、宮原他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 講義中に配付された資料をもとに学んだことを整理し復習しておきましょう。足部解剖学は形態機能学Ⅰ（細胞・組織学）の学びに役立ちます。 2. 1回の授業について1時間程度の復習を要します。 3. 靴選びの条件と正しい靴の履き方は日常生活においても実践し、習慣化できるようにしましょう。 4. 爪と足のケアに関する自分の足の観察、フットケアの動画の視聴を事前課題としますので、積極的に取り組みましょう。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト 指定しません。講義中に紹介します。 参考文献 講義中に紹介します。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（50％） 定期試験で評価します。 2. 授業参加状況（10％） 演習後のふりかえりとしてmanabaを使用し、提出状況を評価します。 3. レポート課題（20％） 課題は自身のフットプリント分析とします。具体的な課題内容や提出方法、評価方法については、講義中に説明します。 4. 実技試験（20％） 自分の手と足の爪切り場面を用いて、小テストを実施します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
試験範囲はすべての講義・演習内容となります。			
担当教員からのメッセージ			
【第4～6回の演習時の服装・持参品】 フットプリント採取時には素足になりますので、動きやすい服装、濃い色のズボン、靴下着用で参加してください。フットプリント分析時に30cm定規を使用しますので持参してください。さらに、日常で一番長く履く靴またはいつも履き慣れている靴を履いてきてください。また、足に合わずに困っている靴があれば持ってきてください。 【第7～8回の講義・演習時の持参品】 フェイスタオル2本、古い歯ブラシ1本、自身の足の爪を伸ばして参加してください。 本科目を通じて、学生時代から自分の足にあった靴を着用することの意味、正しい靴の選び方と履き方、そして歩行姿勢や足の疲労感への影響を理解していきます。フットプリントに基づいた足部分析法を学び、足を守る靴に関する基礎的な知識と技術を身につけましょう。ケアの対象者である人々の足部の観察方法、特に、足の扁平や胼胝、外反母趾・内反小趾、足趾の異常等とそのケアの基礎知識は、卒業後のあなたに必ず役立つことでしょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
社会福祉の基礎	201	1前	必	1単位 15時間	講義	金1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○長谷川武史 HASEGAWA, Takeshi t-hasegawa@saku.ac.jp 1号館3階1316						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
毎回の講義終了後に質問に対応します。またはメールにて連絡ください。						
授業の概要						
現代社会における多様な課題の中で、社会保障に内包されている社会福祉は重要な責務を担っている。一方、社会福祉の現状は様々な分野に分かれており、複雑である。それらの制度体系を理解すると同時に、社会福祉とは何か、どのように捉えて行けば良いのかという根本的な問いに立ち返って、社会福祉のあり方を学ぶ。ここでは社会福祉の基底にある問題を生活問題として位置づけ、社会福祉が対象とする課題を明らかにし、社会福祉が果たす役割と意味について理解することをねらいとしている。						
到達目標						
① 社会福祉が国の制度として成立した流れを理解している。 ② 今日の社会で社会福祉が、なぜ必要不可欠であるかについて説明できる。 ③ 社会福祉と関連する分野の役割や福祉の方法について述べることができる。 ④ 社会福祉援助の方法と求められる価値、態度について述べることができる。 ⑤ ケア重視の社会が進んでいく中で、社会福祉にはどんな役割が期待されているか、自分の考えを述べることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「多職種との協働において看護職者としての役割を自覚し行動できる」授業科目である。（DP7）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	社会福祉とはなにか：価値・理念（哲学・思想）と生存権	講義	長谷川			
2	社会保障制度概要 1 歴史的変遷（慈恵・共助・共生・福祉社会）	講義				
3	社会保障制度概要 2 法・制度体系（社会サービス・社会保障・社会福祉）	講義				
4	社会保障制度概要 3 社会保険・年金・医療・介護・その他	講義				
5	社会福祉制度の体系と機能 1・組織・機関とシステム、分野①児童	講義				
6	社会福祉制度の体系と機能 2 分野②高齢者・地域・その他	講義				
7	社会福祉制度の体系と機能 3 分野③障害のある人（法・システム・施策）	講義				
8	社会福祉の組織・機関とシステム・情報・相談支援・連携（ネットワーク）	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
① 講義内容に該当するテキストページの講義前後での読み込み(2.0時間) ② 新聞、テレビのニュース等で報道された具体例をみて、社会福祉の課題をメモしてみる(0.5時間) ③ 配布資料の確認(0.5時間) ④ 現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのか考えてみる。（ミニ・レポート） ⑤ 看護、介護、社会福祉は、なぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。（ミニ・レポート）						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
・メディカ出版「ナースング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 第5版」2021年1月 ・その他必要に応じて資料を配布する。 ・参考書については授業中に提示する。						
成績評価の方法・基準						
リアクションペーパーの内容：10％ 作業課題提出：20％ 定期試験：70％						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーなどの内容は、次回講義冒頭で紹介し、受講生全体で共有します。
担当教員からのメッセージ
日常生活の中で、社会福祉の役割・期待を考えられるようにしましょう。 、事例を用いて、チームで対応やかかわりについて深めます。積極的な授業参加を求めます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
ソーシャルワーク入門	205	1～4後	自	2単位 30単位	講義	水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○上西一貴 JONISHI, Kazuki k-jonishi●saku.ac.jp 1号館2階1217						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
個別に対応します。お声がけいただくかE-mailで連絡してください。						
授業の概要						
ソーシャルワークの理念と歴史を学び、日本におけるソーシャルワーカーの専門職として、社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義、精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念について理解する。「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」を深く理解することを通し、学部の理念である「豊かな人間性」を修得することをねらいとする。						
到達目標						
・社会福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。 ・精神保健福祉士の役割と意義を具体的に説明できる。 ・ソーシャルワークの歴史と理念について説明できる。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理について、説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と人間理解を支える幅広い教養を身につける」授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)の実践・役割・機能	講義	上西			
2	ソーシャルワークの実践形態	講義	上西			
3	社会における社会福祉士の（法的）位置づけと実践の専門性	講義	上西			
4	社会における精神保健福祉士の（法的）位置づけと実践の専門性	講義	上西			
5	ソーシャルワークの定義の変遷	講義	上西			
6	ソーシャルワークの原理1：社会正義と集団的責任	講義	上西			
7	ソーシャルワークの原理2：人権の尊重と多様性の尊重	講義	上西			
8	ソーシャルワークの理念1：クライアントの尊厳	講義	上西			
9	ソーシャルワークの理念2：当事者主権と「自立」支援	講義	上西			
10	ソーシャルワークの形成過程1：2つの源流	講義	上西			
11	ソーシャルワークの形成過程2：専門職化	講義	上西			
12	ソーシャルワークの形成過程3：統合化とジェネラリスト実践	講義	上西			
13	ソーシャルワーカーの論理1：専門職としての倫理	講義	上西			
14	ソーシャルワーカーの論理2：倫理的ディレンマ	講義	上西			
15	ソーシャルワーカーの論理2：専門職の危うさ	講義	上西			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>事前学習：毎回の授業最後に示すお題について次回授業時までに自分の考えをまとめてください。その考えを確認することがあります（15時間）。</p> <p>事後学習：授業資料をもとに参考書などで授業内容を再確認してください（15時間）。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>参考書</p> <p>一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワークの基盤と専門職[共通・社会専門]』中央法規.</p> <p>そのほか、授業時に提示します。</p>
成績評価の方法・基準
<p>課題試験50%</p> <p>定期試験50%</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>試験については解答を開示します。</p> <p>お題については授業時に確認し、コメントします。とくに要望があれば個別にコメントします。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>この科目ではとくに、考えること、覚えること、が求められます。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護基礎理論	210	1前	必	1単位 15時間	講義	火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 八尋道子 YAHIRO, Michiko m-yahiro●saku.ac.jp 5号館2階205 吉田文子 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku.ac.jp 5号館3階306						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
八尋道子 毎週木曜日6時限 またはメールをしてください。 吉田文子 メールをしてください。 質問は、メールやmanabaでもお待ちしております（随時）。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業では、看護の科学を支える理論的基盤として、人間、環境、健康、看護の捉え方・考え方を学びます。また、将来の看護活動や看護キャリアの展望につなげられるよう日本における看護の歴史を学びます。さらに、看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、多様な視点や考え方を検討し、問題解決型（Problem-based Learning: PBL）の学修態度を養います。						
到達目標						
修了時に、以下の4つの学修成果を得ることを目標とします。 1. 看護の科学を支える理論的基盤として、「人間」、「環境」、「健康」、「看護」の捉え方・考え方を学び、看護への学問的な関心を持つことができる。 2. 人が暮らす環境や地域、文化と健康との関わり、専門職としての看護と多職種協働などの理解を通じて、看護が果たすべき役割について広い視野のもとで考えることができる。 3. 日本における看護の歴史と看護学の発展の経緯を学び、将来の看護活動や看護キャリアの展望につなげて説明することができる。 4. 看護実践に関わる倫理的課題に自ら取り組み、多様な視点や考え方を継続的に検討することによって、問題解決型（PBL）の学修態度を身につけることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができています。（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	看護のさまざまな定義 / 授業科目のオリエンテーション イントロダクション、環境、健康、看護、フローレンス・ナイチンゲール	講義	八尋			
2	看護の対象 人間の捉え方、ニード、発達段階、健康の段階、ヴァージニア・ヘンダーソン	講義	八尋			
3	患者-看護師関係 看護とコミュニケーション、人間関係論、ヒルデガード・ペプロウ、ジョイス・トラベルビー	講義	八尋			
4	人間の持つ力 危機理論、セルフケア不足理論、ドロセア・オレム	講義	八尋			
5	日本の看護学教育の歴史	講義	吉田			
6	看護学教育の現在と展望：自身のキャリア形成	講義	吉田			
7	専門職としての看護 専門職、組織における看護職の役割、チーム医療、多職種協働、パトリシア・ベナー	講義	八尋			

8	看護の動向と倫理的課題 人権と尊厳を守るケア、看護師の倫理綱領 / 授業科目のサマリー	講義	八尋
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう。</p> <p>復習は、15分程度、その日のうちにすませましょう。</p> <p>レポート課題のために90分程度の時間が必要です。課題の詳細は、授業内で説明します。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト</p> <p>① 竹尾恵子監修 (2007). 超入門:事例でまなぶ看護理論. 学習メディカル秀潤社.</p> <p>② 厚生労働統計協会編集 (2020). 厚生 の指標増刊・国民衛生の動向2020/2021. 厚生労働統計協会.</p> <p>③ メヂカルフレンド社編集部 (2020). 看護学生必携資料集. メヂカルフレンド社.</p> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ナイチンゲール, F./湯慎ますほか訳(1860/2011). 看護覚え書 - 看護であること・看護でないこと. 改訳第7版. 現代社 ・ ヘンダーソン, V./湯慎ます, 小玉香津子訳 (2011). 看護の基本となるもの:新装版. 日本看護協会出版会. ・ デービス, A., 太田勝正 (1999). コンサイス看護論:看護とは何か 看護の原点と看護倫理. 照林社 ・ 筒井真優美編 (2019). 看護理論:看護理論21の理解と実践への応用, 改訂第3版. 南江堂. <p>その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。</p> <p>自己学修に役に立つURLや推薦図書を、第1回授業のオリエンテーションで紹介します。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>総合成績でよい成績が得られるように、下記の基準を参考にしてください。</p> <p>1. 課題レポート (20%) 看護理論に関連してレポートを課します。</p> <p>2. 筆記試験 (70%) 定期試験期間に実施します。</p> <p>3. 授業貢献度 (10%) 授業参加状況・貢献度を知るため、質問や意見交換の機会を設け、評価に反映します。 授業を欠席した場合、授業貢献度の得点から－5%、遅刻・早退は授業貢献度の得点から－2%</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>メールや manaba で問い合わせると、次の授業までにフィードバックを受けることができます。ただし疑問は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決してもらえたらと思います。</p> <p>定期試験（筆記試験）と課題レポートは返却しませんが、結果は個別に問い合わせが可能です。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回の授業（授業科目のオリエンテーション）で、授業概要および成績評価について詳しく説明します。 ・ 積み重ねがとても大事ですので、指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。 ・ 教育支援システムmanabaを利用しますので、毎回の授業にスマートフォンを持参してください。個人で所有していない人は、事前に所定の手続きをして大学のものを借用してください。 ・ 毎回の授業にテキストのほか a) と b) を持参し、配付資料やノートファイリングしてください。 <ul style="list-style-type: none"> a) A4リング2穴ファイル（厚さは4cm程度、「看護基礎理論」専用） b) A4サイズのルーズリーフ用紙（毎回の授業でノートに使用します） ・ 質問・相談は、メール（m-yahiro@saku.ac.jp）とオフィスアワーで対応します。 			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
生活援助論Ⅰ（日常生活援助）	211	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	木5, 月4, 月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子	UCHIYAMA, Akiko	a-uchiyama●saku.ac.jp	5号館2階208			
宮原香里	MIYAHARA, Kaori	k-miyahara●saku.ac.jp	5号館2階209			
二神真理子	FUTAGAMI, Mariko	m-futagami●saku.ac.jp	5号館2階210			
黒澤佳代	KUROSAWA, Kayo	k-kurosawa●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
森本 彩	MORIMOTO, Aya	a-morimoto●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
全教員共通：授業終了後、教室で質問を受けます。 質問は、メールでも可能です（随時）。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。						
授業の概要						
日常生活と結びつけて人間の基本的ニーズを理解し、生活援助の基本について学修する。また、健康問題を持つ人間の生活援助に必要な基礎的看護技術を修得する。EBNを踏まえ、患者のニーズを捉え、判断し、安全に看護技術を提供する方法と意義について講義と演習を通して学修する。						
到達目標						
1. 看護の視点から人間について総合的に捉え、看護技術を提供する方法と意義について述べられる。 2. 健康状態の観察、生活環境の調整・整備、活動と休息の援助、衣生活・身体の清潔、食事、排泄の援助等について科学的根拠に基づいた原理・原則が述べられる。 3. 対象の健康状態や個性性を考慮し、安全、安楽かつ効率的に目的を達成する援助を考え、実施することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力を高める」ため、看護援助における基本的な知識と技術を学修する科目です。それに伴い「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」「対人関係の基本として意見や考え・感情を受け取り伝え合うことができる」「自律的に学修し続ける態度を身に着ける」ということも学修する科目となっています。（DP2, DP3, DP6）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	生活援助論とは、看護技術とは、授業目標・概要			講義	内山	
2	【技術】感染予防策（スタンダードプリコーション）			演習	内山	
3	効率的な活動を作り出す技術			講義	宮原	
4	【技術】ボディメカニクス、体位変換			演習	宮原	
5	活動・運動を支援し、休息・睡眠を促す援助技術			講義	宮原	
6	【技術】移動・移送			演習	宮原	
7	快適な環境をつくる技術①：病室の環境			講義	二神	
8	【技術】病室環境整備・ベッドメイキング			演習	二神	
9	快適な環境を作る技術②：病床環境			講義	二神	
10	【技術】シーツ交換			演習	二神	
11	身体の清潔を援助する技術①：寝衣交換			講義	内山	
12	【技術】寝衣交換			演習	内山	
13	身体の清潔を援助する技術②：入浴・清拭			講義	二神	
14	【技術】清拭			演習	二神	
15	身体の清潔を援助する技術③：部分浴			講義	内山	
16	【技術】足浴			演習	内山	
17	苦痛の緩和・安楽の確保：電法			講義	宮原	
18	食事・栄養摂取を促す援助技術			講義	内山	

19-20	学修成果の共有	演習	内山
21	身体の清潔を援助する技術④：洗髪・整容	講義	二神
22	【技術】洗髪	演習	二神
23	排泄を促す援助技術	講義	宮原
24	【技術】排尿・排便の援助、おむつ交換	演習	宮原
25	床上排泄に伴う清潔援助技術：陰部洗浄	講義	宮原
26	【技術】陰部洗浄	演習	宮原
27-28	課題事例演習	講義・演習	内山
29	危篤・終末時における援助	講義	内山
30	実技試験	試験	全教員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>1. 【予習】</p> <p>テキスト、参考文献を用いて授業に関連する箇所を読んで学修して下さい。理解できないところは付箋を付けるなどして、疑問を解決する準備を行って、授業に臨んでください。30分程度の時間を要します。</p> <p>2. 【演習前学習】</p> <p>事前に演習事例を提示しますので、講義内容やテキストなどから手順や留意点を復習し、事例に適した援助技術計画を立てて下さい。具体的な技術のイメージには、佐久大学図書館のビジュアルクラウド及びナースィングスキルなどの配信映像サービスを活用して下さい。配信映像は、学内だけではなく、スマートフォン等の利用で自宅でも見るができます。30分～1時間程度の時間を要します。</p> <p>3. 【技術試験前練習】</p> <p>授業のない時間などを利用し、基礎看護学実習室で練習をします。演習の記録やデブリーフィングを読み返して内容を想起し、その技術ができるようになるまで練習をして下さい。練習してもうまくできない時や疑問は、教員に相談するなどして解決し、練習するようにして下さい。練習時は、各自感染予防と安全に留意してください。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>【テキスト】</p> <p>志岐康子，松尾ミヨ子，習田明裕編(2018). ナースィング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術. メディカ出版</p> <p>医療情報科学研究所編(2018). 看護がみえるvol. 1. メディックメディア</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1. 筆記試験（40%）</p> <p>定期試験1回で評価します。</p> <p>2. 実技試験（40%）</p> <p>技術科目なので、受験しなければ科目の評価対象となりません。</p> <p>3. 小テスト（10%）</p> <p>講義・演習内容に準じて実施し、その平均点を評価に加えます。<u>授業出席者のみ受験可。</u></p> <p>4. 課題提出（10%）</p> <p>演習計画提出と演習後のデブリーフィング（manaba使用）の提出状況を用いて評価します。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
<p>実技試験前には、試験内容を提示します。実技試験後は、試験担当教員が評価面接をしフィードバックします。</p> <p>演習後にはデブリーフィングという形で自己の演習のふり返りをmanabaを使って提出します。提出されたデブリーフィングの内容から、必要時授業でフィードバックをします。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>授業内容の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。</p> <p>この授業では、講義後、自己学修をしてから演習に取り組みます（反転授業）。自己学修した内容を演習で行ってみて、うまくいったこと、失敗したこと、わからないことを表現し、それをクラスで共有しながら学びを深めましょう。</p> <p>初めて学ぶことばかりなので、間違いや失敗は当たり前です。<u>間違いや失敗を楽しみながら、修正し学びましょう。</u></p> <p>教員も「技術を教える」ではなく、皆さんの学びを支援するという立場で、学修が進むようにファシリテートします。</p> <p>出席・小テストにはmanabaを使用しますので、授業・演習時にはスマートフォンなどの端末を持参してください。</p> <p><u>演習の際は、ユニフォーム・ナースシューズを着用し、基礎看護実習室に集合してください。（初回もユニフォーム・ナースシューズ着用。靴下は白。髪は長い人はまとめる。アクセサリーはつけない。爪は短く、マニキュアはしない）</u></p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護展開論	215	1後	必	2単位 60時間	講義 演習	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子 YOSHIDA, Fumiko fy200●saku.ac.jp 5号館306 八尋道子 YAHIRO, Michiko m-yahiro●saku.ac.jp 5号館205 武田貴美子 TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp 5号館310 内山明子 UCHIYAMA, Akiko a-uchiyama●saku.ac.jp 5号館208 宮原香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara●saku.ac.jp 5号館209 二神真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami●saku.ac.jp 5号館210 黒澤佳代 KUROSAWA, Kayo k-kurosawa●saku.ac.jp 5号館助手室 森本 彩 MORIMOTO, Aya a-morimoto●saku.ac.jp 5号館助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後～19時まで（直接吉田研究室306に訪問可） 水曜日17時～18時（まずはメールをください） fy200●saku.ac.jp						
授業の概要						
看護のあり方は、国内外の社会情勢の変化に対応する方向で、考え方においても具体的な展開方法においても変革を遂げてきている。 本科目では、その変革の状況を、看護の基盤となる「知識・技術・態度（資質）」の各側面から学修する。具体的には、 ①看護の対象者を主体とした看護実践（Evidence-based nursing） ②看護の対象者を医療のメンバーとみなすチーム医療 ③専門職としての看護職のあり方・資質（プロフェッショナルリズム）について、個人学習、チーム学習によって深める。						
到達目標						
Course Outcomesとして以下のことを目指します。 1. Evidence-Based Nursing（EBN）の構成要素を説明することができる。 2. 系統的思考プロセスを用いてクリティカルシンキングし、事例展開できる（思考力）（記述力）。 3. 今日のチーム医療の考え方とその課題について説明することができる。 4. 事例においてプロフェッショナルリズムとは何かを追求し、考察することができる（観察力）（説明力）。 5. ディスカッション場面に有効なコミュニケーションスキルを高めることができる（対話力）。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
ディプロマポリシー7つのうちの、DP2. DP3. DP4. DP5. DP6 に該当し、自律的な学修と看護実践能力の基盤を培う科目であり、初年次教育科目（導入基礎演習）の後続科目として位置づけ、専門科目の学び方を看護の展開方法を通して学べるように配置している。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1～2	コースガイド 【個人学習、チーム学習の2つの柱を同時進行】 ・個人学習（看護実習では「1人の患者」を担当するので、個人で看護を展開する力を身につける機会とする） ・チーム学習（課題解決★に向けた学習を行い、人の話を聞いてから自身の考えを伝える対話力を身につける機会とする） ★ チームは固定せず、できる限り多くの人と組めるように編成される。	講義・演習	全教員			
3	看護過程の意義と構成要素					
4	TBL（Team-Based Learning）/チームナーシング					
5～6	Evidence-Based Nursing ・看護診断 ・臨床的判断 ・グローバルヘルスとチーム医療					
7～12	変革するための中核となる専門職の資質について ・プロフェッショナルリズム、Change Agency、コアマネジメント（自己認識力、思考力、対話力）					

13～21	系統的思考/看護過程の事例展開 ・看護過程展開方法 看護実践例から看護を考える①② ・看護実践例（教員）（学生） 医療安全と看護 事例の関連図の作成		
22～24	事例の全体討論会		
25～27	援助計画の作成 ・フォーカスチャータニング（F-DAR）		
28～30	クリティカルシンキング課題の提示		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
本科目は、講義演習科目であり、1単位30時間として計算すると、総自己学習時間は22.5時間となります。 ★初回授業で、詳細な学習進度をお知らせします。 特に課題によるレポート作成には、文献検索を含めた自己学習が必要となります。 小テスト実施日を提示しますので、予習復習の時間を充てるとよいでしょう。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：任和子編（2015）．実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド．照林社． リンダ J. カルペニート＝モイエ．黒江ゆり子訳（2018）．看護診断ハンドブック（第11版）．医学書院． 参考文献：日本国際保健医療学会（2013）．国際保健医療学第3版．杏林書院．			
成績評価の方法・基準			
■ 筆記試験（小テスト4回 40%） 授業内で、10分程度のテストを行います。 ■ レポート（課題2回 40%） 課題について、所定の書式でレポート作成をします。 ■ パフォーマンス評価（6%） クリティカルシンキング問題について思考し、発言します。 ■ 授業参加状況（14%） 授業内作成物の不備や期限外提出は減点になります。 拡声器の持参忘れは減点対象となります（拡声器は初回の授業で配付します）。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
科目終了時には、以下規準についての点数を個別で一覧表にし返却します。 ■ 筆記試験（小テスト4回 40%） 実施の授業内で、結果を通知します。 ■ レポート（40%） 結果を講評後、結果を通知します。 ■ パフォーマンス評価（6%） 配点の通知をします。そして結果は総合成績として個別返却時に通知します。 ■ 授業参加状況（14%） なお、出席そのものへは加点はありません。			
担当教員からのメッセージ			
初回の授業で、授業概要を詳細に説明し、学生とともに授業進度を最終決定します。 本授業の構成はマスタリーラーニングを基盤に行い、何度か習得状況を確認・評価し、全員が科目目標を達成できるようにしています。難しい内容もステップを踏めば簡単にそして面白く学習できると思います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
フィジカルアセスメント	217	1後	必	1単位 30時間	演習	火5 (水3, 水4)
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○武田貴美子 TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp 5号館3階310 川野道宏 KAWANO, Michihiro m-kawano●saku.ac.jp 5号館3階303 宮原香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara●saku.ac.jp 5号館2階209 黒澤佳代 KUROSAWA, Kayo k-kurosawa●saku.ac.jp 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後まで質問等に対応します。また、随時メールにおいて対応します。 武田：k-takeda●saku.ac.jp 川野：m-kawano●saku.ac.jp						
授業の概要						
対象者のからだの状態を把握するための身体診査技術（問診・視診・触診・打診・聴診など）の手技とアセスメントの方法について学習する。講義、演習、グループワークを通して、看護の視点をもちながら、対象者の身体上の問題について系統的にアセスメントするための基礎的な知識・技術・態度を修得する。						
到達目標						
1. フィジカルアセスメントの意義と目的を説明できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基本的知識・技術について説明できる。 3. 対象者のアセスメントに必要な情報とフィジカルイグザミネーションの方法を考え、説明できる。 4. 得られた情報をもとに対象者のからだの状態をアセスメントすることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本講義は、「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚することができる」（DP3）および「看護学の基本的知識と技術を活用し実践の力へと高める努力ができていく」（DP4）に繋がる科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション（科目の到達目標・授業内容・学習方法等について）	講義	武田			
2	看護におけるフィジカルアセスメントの概要について学ぶ	講義	武田			
3	バイタルサインについて学ぶ	演習	武田・全員			
4	バイタルサイン測定について演習を通して学ぶ	講義	川野			
5	頭頸部・神経系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	川野			
6	感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	川野			
7	運動器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ	演習	川野・全員			
8	頭頸部・神経系・感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系・運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ①	演習	川野・全員			
9	頭頸部・神経系・感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系・運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ②	講義	武田			
10	胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	武田			
11	胸部（循環器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	講義	武田			
12	腹部（消化器系・泌尿器・生殖器）のフィジカルアセスメントについて学ぶ	演習	武田・全員			
13	胸部（呼吸器系・循環器系）/腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ①	演習	武田・全員			
14	胸部（呼吸器系・循環器系）/腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ②	演習	武田・全員			
15	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する①	演習	武田・全員			
	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する②	演習	武田・全員			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・授業の関連内容について指定図書やオンラインツールで事前学習を必ず行ってください。（30分程度） ・授業内容に関連した事前課題に取り組んだうえで講義・演習に参加してください。（30分程度） ・講義・演習で修得した知識・技術が活用できるように事後課題に取り組んでください。（30分程度） ・形態機能学Ⅰ・Ⅱで修得した知識が必要になります。随時、復習を行ってください。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>【テキスト】</p> <p>医療情報科学研究所編(2019), 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント. メディックメディア</p> <p>【参考図書】</p> <p>菱沼典子(2017), 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版. 日本看護協会出版会</p> <p>Bickley. L. S. (2015). ベイツ診察法第2版. 福井次矢ほか監修. メディカル・サイエンス・インターナショナル</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験 (60%)</p> <p>課題レポート (40%)</p> <p>総合演習で取り組む事例のフィジカルアセスメントに関する課題レポートを評価する。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題は授業中に活用します。 ・課題レポートはコメントを記載して返却します。
担当教員からのメッセージ
<p>対象の身体は今どのような状態にあるのか、今後どのように変化するのか、についてアセスメントすることは看護ケアを展開するうえでとても重要です。さまざまな手技を用いて対象の身体状態をアセスメントするための知識・技術を習得していきましょう。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

看護学部 2 年次配当科目

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
実践英語 I	320	2前	自	1単位 30時間	演習	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
<p>The class will be filled with speaking and speaking activities.</p> <p>You will learn different strategies to build and continue conversations, to express yourself better, and to communicate even when you need help or don’ t understand.</p> <p>The goal of the course is to review English you have studied and use that to build conversation skills.</p> <p>We will use many pair and group activities, story building exercises, short worksheets and fun activities to practice and solidify understanding.</p>						
到達目標						
<p>1. 英語を話すことに自信を持つことができる。</p> <p>2. 自分の意見を英語で表現できるようになる。</p> <p>3. 英語での会話に積極的になる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	Responding and Pronunciation	演習	Mark			
2	Follow-up questions					
3	Keeping or killing the conversation					
4	Getting a response					
5	Describing and Item					
6	Responding with Details					
7	Soliciting details					
8	Story Building					
9	Story Building					
10	Clarification with questions					
11	Reported Speech					
12	Making a group decision					
13	Discussion connectors					
14	Short discussion exercise					
15	Talking about movies and music					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回の授業で習った会話対策を模擬会話のできるまで練習しておくこと。						
1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
no text class materials will be provided with each lesson
成績評価の方法・基準
attendance and class participation (30%) short discussion exercise (30%) final exam (40%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
I will work hard to make this class fun and effective. I' m looking forward to speaking English with you, seeing you improve, and helping you grow over the course.
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
実践英語Ⅱ	321	2後	自	1単位 30時間	演習	木3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○Mark Cox						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
We will apply the conversation strategies from the first semester to different medical situations. You will learn some useful medical vocabulary and practice them in role-play scenarios and fun speaking activities. The goal is to be able to communicate to your patients important medical information, but also be able to talk to your patients casually and naturally as well.						
到達目標						
1. 看護の場において英語で話すことに自信を持つこと。 2. 医療行為を英語で行えるようになること。 3. 健康状態や治療などについて英語で説明できるようになること。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1	Hospital introduction ; In a patient' s room				演習	Mark
2	Talking about hospital departments					
3	Health problems					
4	Getting a patient' s information					
5	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
6	Taking a patient' s temperature, pulse, and blood pressure					
7	Taking a patient' s blood sample					
8	Taking a patient' s blood sample					
9	Giving a patient a shot					
10	Giving a patient a shot					
11	Medications					
12	Giving a patient medication					
13	Giving a patient medication					
14	Presenting a patient					
15	Presenting a patient					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
毎回の授業で習った単語を復習して、医療場面の会話が出来るまで練習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
no text class materials will be provided with each lesson
成績評価の方法・基準
attendance and class participation (30%) speaking activity (30%) final exam (40%)
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【基本教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
情報管理法	322	2前	自	1単位 30時間	演習	木1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 1号館3階1317						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
情報の収集、加工、蓄積、利用、廃棄などの情報管理の手法について学修する。特に収集した情報を整理、加工する二次情報の作成とデータベース検索による情報検索の手法についての基礎的な知識を習得する。また、データソフトSPSSの使い方を習得する。						
到達目標						
1. 情報やデータに関する知識を学び、適切な管理方法を習得する。 2. 統計について学び、適切なデータのまとめ方ができるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
生涯を通して自己研鑽する自律的学修姿勢をもつことができる。（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション、データの管理について			講義	朴	
2	SPSS（統計ソフト）の使い方、代表値（平均・分散・中央値・パーセントタイル）			講義・演習		
3	検定の意味、代表値の推定（信頼区間）			演習		
4	2群間の比較（対応のないt検定）			演習		
5	2群間の比較（対応のあるt検定）			演習		
6	2群間の比較（順位和検定）			演習		
7	2群の関連分析（カイ2乗検定）			演習		
8	2群の関連分析（リスク比・オッズ比）			演習		
9	2群間の関連分析（散布図・相関分析）			演習		
10	3群以上の関連分析（偏相関分析）			演習		
11	2群の関連の推定（回帰分析）			演習		
12	3群間以上の比較（分散分析）			演習		
13	課題分析①			演習		
14	課題分析②			演習		
15	まとめ			講義・演習		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業した内容については、よく復習をしておくこと。 なお、1回の授業について1時間程度復習を行うこと。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。						
成績評価の方法・基準						
○授業参加状況（30％） ○課題 （70％）						

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
成績評価の方法・基準の「課題（70%）」とは、グループワークによる課題への分析結果の提出資料を指します。提出資料が成績評価の中心となりますので、積極的にグループワークに参加するようにしてください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
遺伝と健康	330	2後	自	2単位 30時間	講義	火3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司 IMAFUKU, Yuji						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
人間における遺伝の仕組み、病気や健康の問題に遺伝はどう関わるのか。DNA、ゲノム、染色体とは何か、その発現の仕組みについて学習する。遺伝病から生活習慣病まで、病気と遺伝との関わりについて理解し、家族性の疾患や遺伝に関わる諸問題について理解する。また、その前提となる生物学について学ぶ。						
到達目標						
1. メンデル遺伝学を説明できるようになる。 2. 染色体及び遺伝子の異常による疾患についての理解を深めることができる。 3. 病院・地域で健康支援を推進する際に必要な「遺伝と健康の関係」についての知識を習得できる。 4. 生物学の基礎について理解を深める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	遺伝概説、代謝総論			講義	今福	
2	栄養素の構造（1）					
3	栄養素の構造（2）					
4	糖質代謝					
5	脂質代謝					
6	核酸、ヌクレオチド代謝					
7	エネルギー代謝の統合と制御					
8	遺伝子					
9	遺伝病と遺伝形式					
10	常染色体劣性遺伝病					
11	常染色体優性遺伝病					
12	X染色体連鎖劣性遺伝病					
13	癌、生活習慣病と遺伝子					
14	遺伝子診断、治療、カウンセリング					
15	まとめ					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『ナーシンググラフィカ 臨床生化学』メディカ出版
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
臨床検査専門医である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。（今福裕司）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅰ	331	2前	必	2単位 60時間	講義	火3, 火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○今福裕司 IMAFUKU, Yuji						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 成人期、老年期に多い疾患を群に分け下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚症状、検査所見、治療、予後を学ぶ。						
到達目標						
成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-4	循環器疾患 （虚血性心疾患 心臓弁膜症 心筋症 心不全 大動脈解離 大動脈瘤 高血圧）	講義	今福			
5-8	呼吸器疾患 （肺炎 間質性肺炎 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 肺がん 気胸 肺結核肺梗塞）					
9-12	消化器疾患Ⅰ （逆流性食道炎 食道がん 胃潰瘍 十二指腸潰瘍 胃がん 大腸がん イレウス 炎症性腸疾患）					
13-16	消化器疾患Ⅱ （肝炎 肝硬変 肝がん 食道・胃静脈瘤 胆石 胆嚢炎 胆管炎 胆管がん 膵炎 膵がん）					
17-20	内分泌・代謝疾患Ⅰ （糖尿病 肥満：メタボリック症候群・脂質異常症）					
21-22	内分泌・代謝疾患Ⅱ （下垂体疾患 甲状腺疾患 副腎の疾患）					
23-26	血液疾患 （血友病 白血病 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 播種性血管内凝固症候群）					
27-30	腎・泌尿器疾患 （腎炎 腎不全 ネフローゼ症候群 腎盂腎炎 尿路感染症 排尿障害 前立腺肥大症 前立腺がん）					

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：『病気がみえる vol.1 消化器』メディックメディア 『病気がみえる vol.2 循環器』メディックメディア 『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌』メディックメディア 『病気がみえる vol.4 呼吸器』メディックメディア 『病気がみえる vol.5 血液』メディックメディア 『病気がみえる vol.8 腎・泌尿器』メディックメディア 『病態・治療論 [1] 病態・治療総論』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社
成績評価の方法・基準 筆記試験（90%） 授業参加状況（10%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ 疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅱ	332	2通	必	2単位 60時間	講義	(前) 木3 (後) 月1, 月2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
今福裕司 IMAFUKU, Yuji 奥泉宏康 OKIZUMI, Hiroyasu						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 特に、成人期、老年期に多い疾患を脳神経、運動器、皮膚、感覚器、腎・泌尿器、婦人科、免疫群に分け下記疾患の疫学、成因、病態生理、自覚症状と他覚所見、検査所見、治療、予防などを学ぶ。						
到達目標						
成人期、老年期に多い疾患の疫学・症状・病因・診断・治療・予防について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。(DP1)						
授業計画						
回数	授業内容				授業方法	担当教員
1-16 (前期)	①感覚器疾患-1 （白内障 緑内障 網膜剥離 屈折・調節異常 結膜炎など） ②感覚器疾患-2 （難聴 耳鳴 鼻出血 味覚異常 中耳炎 メニエール病 顔面神経麻痺など） ③皮膚疾患 （皮膚炎 蕁麻疹 膿疱症 熱傷 褥瘡 皮膚腫瘍 蜂窩織炎 白癬 帯状疱疹など） ④自己免疫・アレルギー疾患-1 （関節リウマチ SLE その他の膠原病） ⑤自己免疫・アレルギー疾患-2 （花粉症 HIV と免疫不全）				講義	今福
17-30 (後期)	①脳神経疾患-1 （脳血管疾患、頭部外傷、認知症、パーキンソン病、ALS など） ②脳神経疾患-2 （筋ジストロフィー、重症筋無力症、脳腫瘍、てんかん、髄膜炎など） ③運動器疾患-1 （骨折・脱臼、脊椎疾患、上肢・手の疾患、下肢・足の疾患、末梢神経麻痺など） ④運動器疾患-2 （運動器感染症、関節リウマチ、小児の整形外科、骨軟部腫瘍、骨粗鬆症など） ※詳細な授業計画は、初回授業時に提示する。				講義	奥泉

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義前にテキストの該当する箇所を熟読し、必要なら図書館で資料を参照すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症』メディックメディア 『病気がみえる vol.7 脳・神経』メディックメディア 『病態・治療論 [9] 運動器疾患』南江堂 『病態・治療論 [11] 皮膚／耳鼻咽喉／眼／歯・口腔疾患』南江堂 『これならわかる！整形外科の看護ケア』ナツメ社 『病態・治療論 [1] 病態・治療総論』南江堂 参考文献：『病理学 第1版』医学芸術社
成績評価の方法・基準
筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
疾患と治療の理解は、患者を理解し、看護を実践するために重要となります。 学習を深めることは将来の看護につながるので頑張りましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
健康障害と治療Ⅲ	333	2後	必	2単位 60時間	講義	集中
担当教員（○印＝科目責任教員） 奥山秀樹 OKUYAMA, Hideki 今井幸充 IMAI, Yukimichi 小口 治 OGUCHI, Osamu 小諸高原病院 精神科医師 佐久総合病院佐久医療センター 小児科・放射線診断科・放射線治療科 医師						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要 健康障害を持つ人々の状況を適切に把握し、療養生活の支援をすることができる基礎的な知識について学習する。 歯科・口腔疾患の症状、診断、治療について学ぶ。認知症及び精神疾患の基本的症状と診断、治療について学ぶ。 小児特有の症候と疾患、検査、治療について学ぶ。女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療について学ぶ。 放射線による診断とその治療について学ぶ。						
到達目標 歯科・口腔疾患、認知症、精神疾患、小児・女性特有の疾患の症状・病因・診断・治療・予防及び放射線による診断と治療について理解し、診療の補助、療養上の世話に役立てることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
成人 1-4	歯・口腔疾患の症状、診断、治療	講義	奥山			
老年 1-2	認知症の病態の理解と治療（薬物療法を含む）	講義	今井			
精神 1-7	精神疾患の基本的症状と診断、治療	講義	精神科医師			
小児 1-10	小児特有の症候と疾患、検査、治療	講義	小児科医師			
母性 1-3	女性生殖器に関する疾患、症候の診断、治療	講義	小口			
放射線 1-4	放射線による診断とその治療	講義	放射線診断科・ 放射線治療科 医師			
	※全 30 回をオムニバス方式で行う。 詳細な授業計画は初回授業時に提示する。					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 講義前にテキストの該当する箇所を熟読すること。 テキスト、配布資料、補助教材を再読し、知識の定着に努めること。 1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：『病態・治療論 [9] 運動器疾患』南江堂 『病態・治療論 [11] 皮膚／耳鼻咽喉／眼／歯・口腔疾患』南江堂 『新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護』メヂカルフレンド社 『系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論』医学書院 『系統看護学講座 成人看護学[9]女性生殖器』医学書院 『病態・治療論 [1] 病態・治療総論』南江堂</p> <p>その他、必要に応じて資料を配布する</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（90％） 授業参加状況（10％）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>授業時に説明する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>患者を理解し、看護を実践するために、疾患と治療の学習は重要です。 学習を深めることは将来の看護につながります。しっかり学習してください。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
<p>該当なし</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
薬理薬剤学	334	2前	必	2単位 30時間	講義	木5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○栗林正彦 KURIBAYASHI, Masahiko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
薬物が生体に及ぼす作用について理解し、その化学構造に由来する作用機序の類似性を学ぶ。薬物の投与経路・投与方法の違いによる作用の違い、薬物の吸収・分布・代謝・排泄の違いを学ぶ。看護の場で注意すべき薬物の取り扱い方法（用量、投与方法、投与速度等）を学ぶ。実際にヒトに投与された医薬品の効果・有害作用と、薬物が本来持っている薬理作用との間にある乖離の原因を学ぶ。						
到達目標						
1. 基本的な薬理学的系統名を理解し、その特徴的な作用・効果・副作用などを理解する。 2. 使用目的により、剤形や用法・用量が異なることを理解する。 3. 薬の危険性を理解し、安全な薬物治療が行えるようになる。 4. web上に存在する良質な医薬品情報を理解し、必要な場合に自分で利用できるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。(DP1)」						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	薬理学総論(1) 薬理学を学ぶにあたって			講義	栗林	
2	薬理学総論(2) 薬理学の基礎知識					
3	薬理学各論(1) 抗感染症薬					
4	薬理学各論(2) 抗がん薬					
5	薬理学各論(3) 免疫治療薬					
6	薬理学各論(4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬					
7	薬理学各論(5) 末梢での神経活動に作用する薬物					
8	薬理学各論(6) 中枢神経系に作用する薬物					
9	薬理学各論(7) 心臓・血管系に作用する薬物					
10	薬理学各論(8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物					
11	薬理学各論(9) 物質代謝に作用する薬物					
12	薬理学各論(10) 皮膚科用薬・眼科用薬					
13	薬理学各論(11) 救急の際に使用される薬物					
14	薬理学各論(12) 漢方薬					
15	薬理学各論(13) 消毒薬、輸液製剤・輸血剤					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：吉岡充弘他『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
正しい薬の知識は、看護業務で利用するだけではない。自分自身のみならず、親、子や周りの人たちにも必要な知識であることを認識して、正しく理解・判断できるようになることを望む。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
薬剤師である教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

【専門基礎科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限		
運動と健康	335	2前	選 (養) 必	2単位 45時間	講義 演習	金1, 金2		
担当教員（○印＝科目責任教員）								
○朴 相俊 PARK, Sangjun s-park●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1317								
オフィスアワー／連絡先と連絡方法								
原則、授業終了後に教室で質問を受け付ける。 質問は、メールでもよい（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である。								
授業の概要								
子どもや中高年者における健康と運動との関連を多面的に理解し、健康の保持増進、疾病や障害の予防と回復に関する運動実践方法の基本を理解する。さらに、実技・演習を通して運動を日常生活に楽しく実践するためのプログラムについて学ぶ。								
到達目標								
1. 健康（心と身体）と運動に関する知識を養い、運動が健康に与える影響について理解できるようになる 2. 運動の基本的な知識や理論を説明できるようになる 3. 対象の特性にあわせた運動プログラムを体験することで、その特性を理解できるようになる 4. 自らの健康づくりのために、楽しく安全な運動習慣を身につけるようになる								
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連								
豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。（DP1）								
授業計画								
回数	授業内容			授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、健康と運動の疫学について学ぶ			講義	朴 他			
2-3	球技スポーツ①（バドミントン）＋自由種目			実技				
4-5	球技スポーツ②（バレーボール）＋自由種目			実技				
6-7	球技スポーツ③（バスケットボール）＋自由種目			実技				
8-9	球技スポーツ③（スポンジテニス）＋自由種目			実技				
10-11	子どもの運動遊び＋自由種目			実技				
12-13	ボッチャ＋自由種目			実技				
14-15	文部科学省新体力テストについて学ぶ＋自由種目			実技				
16-17	健康づくり運動実践① スクエアステップについて学ぶ			実技				
18-19	健康づくり運動実践② エアロビクスについて学ぶ			実技				
20-21	健康づくり運動実践③ 集団スポーツについて学ぶ			実技				
22	授業のまとめ			実技				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間								
週23エクササイズ（メッツ・時）の身体活動（運動・生活活動）を生活で実施すること。								

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
○テキスト：指定しない。 ○参考文献：講義の中で提示する。
成績評価の方法・基準
○授業参加状況（50%） ○授業終了時のミニレポート （20%） ○課題レポート （30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に指示する。
担当教員からのメッセージ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
社会福祉学	340	2前	必	2単位 30時間	講義	木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤嘉夫 SATO, Yoshio yo-sato●saku.ac.jp 研究室1号館3階1320						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
社会福祉の基礎と基本について学び、今日の福祉課題の中における看護と社会福祉の重なりや役割分担について理解を深め、看護ケアにおいて、社会福祉の価値、方法・技術とサービス資源の活用を意識した実践ができるような知識、能力を習得する。						
到達目標						
1. 社会福祉と社会保障の役割と違いについて説明できる。 2. 新聞等で報道されている福祉問題の背景・原因等を理解できる。 3. 医療・看護ケアにとって社会福祉がなぜ必要か説明できる。 4. 看護実践に活用、応用できる社会福祉の方法や技術を書き出すことができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	現代社会と社会福祉 ・ 社会保障	講義	佐藤			
2	社会福祉とはなにか：歴史・思想	講義				
3	社会福祉の対象 ・ 対象の捉え方とその変遷	講義				
4	社会保障と社会福祉 ・ 仕組みと役割の違い	講義				
5	社会保障と社会福祉 ・ 社会サービスの視点から	講義				
6	社会福祉と社会保障 ・ 医療サービス・医療福祉と医療保障	講義				
7	社会福祉の基本：原理、方法、領域	講義				
8	社会福祉の領域：子ども、障害のある人、高齢者、女性、貧困者 etc	講義				
9	少子高齢化と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習				
10	現代家族と社会保障、社会福祉	講義 ミニ演習				
11	福祉臨床学の基礎 ・ ソーシャルワークとソーシャルケア	講義				
12	福祉臨床と看護ケア ・ 病院の中の社会福祉	講義				
13	福祉臨床と看護ケア ・ 地域医療・地域包括ケアと社会福祉	講義				
14	社会福祉の機能と専門職の役割	講義				
15	ケアの科学としての社会福祉学と看護学	講義				
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
1. 人権思想が芽生えた啓蒙期の思想を辿ってみる。 2. 現代の生存権・憲法24条と関連する条項を読んでみる。（配布資料） 3. 新聞・テレビのニュース等で報道された具体例をみて、医療保障の課題をメモしてみる。 4. 現代社会ではなぜ社会福祉や社会保障が不可欠なのを考えてみる。（ミニ・レポート） 5. 看護と福祉はなぜ互いを必要不可欠としているか整理してみる。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキストは使用しない。授業ごとにレジメを配布する。</p> <p>参考文献：系統看護学講座『社会保障・社会福祉』医学書院</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験又はレポート 80%</p> <p>ミニ・レポート 10%</p> <p>授業の参加状況 10%</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験やレポートの概況、コメントを一括してメールで配信する。 2. 個別のコメント等を希望する受講生には、メール又は面談にてコメントを行う。
担当教員からのメッセージ
<p>専門職者が、人の痛みや苦しみ、悲しみに沿って行う「ケア」あるいは「ソーシャル・ケア」という概念でくくると、看護と社会福祉は極めて親近性があるものであることがわかります。できるだけ具体的な課題にそって講義を進めたいと思いますので、受講生の皆さんも、現実の問題に大いに興味をもって、講義に臨んでください。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
保健医療福祉行政論	341	2後	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小岩和枝 KOIWA, Kazue 坂戸千代子 SAKATO, Chiyoko 1号館1階社会連携・研究支援センター						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について、歴史的背景を踏まえて現在の問題と将来の課題について学ぶ。また、地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性についても学ぶ。						
到達目標						
1. 保健・医療・福祉制度をめぐる法と政策について理解し、現在の問題と将来の課題について説明できる。 2. 地域における保健・医療・福祉制度の現状、課題、各種施策の方向性について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」を身につける授業科目である。（DP1）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 保健医療福祉行政のめざすもの	講義	小岩 他			
2～5	2. 保健医療福祉制度の変遷 1) 公衆衛生の基盤形成 2) 政策の充実と転換	講義・演習				
6, 7	3. 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ 1－1) 国・都道府県の行政のしくみと役割 1－2) 市区町村の行政のしくみと役割 2) 行政における保健師の役割と活動 3) 保健医療福祉の財政 4) 公衆衛生に関する国際的な活動	講義				
8～10	4. 社会保障制度 1) 社会保障制度の理念としくみ 2) 医療提供体制 3) 介護保険制度 4) 社会保障・社会福祉の制度	講義				
11	5. 地域保健の体系 1) 地域保健に関する公的機関 2) 関係機関との連携	講義				
12, 13	6. 保健医療福祉の計画と評価 1) 地方公共団体の保健医療福祉計画 2) 保健計画の策定プロセス 3) 保健計画の推進と評価 4) 保健事業の立案とプロセスを学ぶ	講義				
14, 15	まとめ	グループワーク 講義				

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキストを用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：藤内修二他『標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） レポート（10%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習・グループワークの取り組みも評価する。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
行政保健師として勤務経験がある教員が、その実務経験を活かした授業を行います。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
疫学・保健統計	342	2前	選 (保) 必	2単位 30時間	講義	水3, 水4
担当教員（○印＝科目責任教員） ○今村晴彦 IMAMURA, Haruhiko haruhiko.imamura●med.toho-u.ac.jp 朴 相俊 PAKU, Sanjun s-park●saku.ac.jp 1号館3階1317 那須野順子 NASUNO, Junko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法 授業日の授業終了後から放課後 授業日以外の日はメールで受け付ける。						
授業の概要 集団としての健康の指標に関する基本的な知識を学び、数量的な分析とその意味について理解する。また、保健統計を活用し、人間集団を対象に疾病の発生状況と発生要因を解明する過程を理解し、予防対策に結び付けていく疫学の基本的な原理、方法論を学ぶ。						
到達目標 1. 疫学的調査研究の成果と保健統計の意味を理解し、集団の健康事象及びその要因を考えられるようになる。 2. 疫学的調査研究を組み立てられるようになる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連 「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身につける授業科目である。(DP5)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	疫学の概念とその歴史	講義	今村			
2	疾病頻度の指標	講義	今村			
3	疫学的研究とその考え方 (1)観察研究 i 記述研究・生態学的研究・横断研究	講義	今村			
4	(2)観察研究 ii コホート研究	講義	今村			
5	(3)観察研究 iii 症例対照研究	講義	今村			
6	(4)介入研究	講義	今村			
7	(5)因果関係・バイアス・交絡	講義	今村			
8	スクリーニング 演習その1	講義・演習	今村			
9	保健統計調査	講義	今村			
10	保健統計学（統計学と疫学）	講義	今村			
11	主な疾患の疫学 (1)慢性疾患、悪性新生物、生活習慣病の疫学	講義	今村			
12	主な疾患の疫学 (2)感染症の疫学	講義	今村			
13	主な疾患の疫学 (3)精神疾患の疫学	講義	朴			
14	保健統計と保健師業務の実践	講義	那須野			
15	演習その2 授業のまとめ	講義・演習	今村			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 この授業で扱う内容は、継続的な復習がもっとも大切です。予習は特に求めません（必要な場合は適宜指示します）。 毎回の授業後、テキストで該当する章の練習問題を解いて、理解できていない箇所がないか確認してください。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：①浅野嘉延『看護学生のための疫学・保健統計（改訂3版）』南山堂</p> <p>②『国民衛生の動向』厚生労働統計協会</p> <p>参考文献：牧本清子他『標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学』（第3版）』医学書院</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験（80%）</p> <p>授業参加状況（20%）</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>授業時に説明する。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>疫学的研究の「楽しさ」と「必要性」について理解を深めてもらうための授業内課題をいくつか予定しています。積極的に参加してください。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名		授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
生活援助論Ⅱ（診療の補助技術）		350	2前	必	2単位 60時間	講義 演習	月3, 月4, 水5
担当教員（○印＝科目責任教員）							
○宮原 香里	MIYAHARA, Kaori	k-miyahara	●saku.ac.jp	5号館2階209			
武田 貴美子	TAKEDA, Kimiko	k-takeda	●saku.ac.jp	5号館3階310			
内山 明子	UCHIYAMA, Akiko	a-uchiya	●saku.ac.jp	5号館2階206			
二神 真理子	FUTAGAMI, Mariko	m-futagami	●saku.ac.jp	5号館2階210			
黒澤 佳代	KUROSAWA, Kayo	k-kurosawa	●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
森本 彩	MORIMOTO, Aya	a-morimoto	●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法							
月曜日授業終了後～17時30分 質問は随時メールやmanabaでも受け付けます。オフィスアワー以外の面談はメールで予約をしてください。							
授業の概要							
健康課題を持つ人間の、生活援助に必要な基本的看護技術を取り上げ、安全や安楽に配慮しつつ科学的根拠に基づく看護技術を提供する意義と方法について学ぶ。 健康課題を持つ人間の診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸等に関する援助について講義、演習を通して学ぶ。 様々な状況にある患者への生活援助法を検討し、対象の個別性や置かれている環境に応じて、適切に看護を実践する意義と方法について学ぶ。							
到達目標							
1. 健康課題を持つ人間の、診療の補助に必要な基本的技術として、感染予防・与薬に対する援助、経管栄養・導尿、浣腸、電法、酸素療法、口腔鼻腔内吸引等に関する技術について、科学的根拠を理解することができる。 2. 上記1で取り上げる看護技術を、安全や安楽に配慮してシミュレータで実施できる。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連							
さまざまな健康状態にある対象者の医療・看護における課題を発見し、解決に取り組むことができる。（DP3）							
授業計画							
回数	授業内容			授業方法	担当教員		
1・2	1. オリエンテーション、診療の補助とは 感染予防を推進する技術 滅菌・消毒、無菌操作、滅菌手袋の着け方・外し方、滅菌物の取り扱い			講義	宮原		
3	2. 皮膚・創傷を管理する技術 創傷の管理：創傷処置、包帯法 褥瘡の管理：褥瘡発生の予測と評価、褥瘡の分類			講義	二神		
4・5	3. 感染予防を推進する技術：滅菌手袋の着け方・外し方、滅菌物の取り扱い 皮膚・創傷を管理する技術：創傷処置、包帯法			演習	宮原／二神		
6	4. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その1） 与薬における法的根拠、与薬のための基礎知識、与薬のための援助技術 注射のための援助技術：注射の準備、皮下注射、筋肉内注射			講義	宮原		
7・8	5. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その1） 注射の準備、皮下注射、筋肉内注射			演習	宮原		
9	6. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 検査における看護師の役割、生体検査（生理学的検査）、検体検査			講義	宮原		
10・11	7. 検査・治療を安全かつ正確に行う技術 検体検査（静脈血採血）			演習	宮原		
12	8. 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術（その2） 注射のための援助技術：点滴静脈内注射 輸血のための援助技術、与薬における安全管理			講義	武田		

13・14	9. 与薬を安全かつ正確に行う技術（その2） 点滴静脈内注射（翼状針、サーフロー留置針）	演習	武田
15	10. 苦痛の緩和、安楽確保の技術 電法の実際：冷電法、温電法	講義	宮原
16	11. 呼吸を整える技術 呼吸の生理学的メカニズム、呼吸のニーズに関するアセスメント 呼吸を整える援助：吸入療法、酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引	講義	二神
17・18	12. 呼吸を整える技術 吸入療法、酸素療法、口腔内・鼻腔内吸引	演習	二神
19	13. 排泄を促す技術 排便の援助：浣腸、摘便	講義	二神
20・21	14. 排泄を促す技術 排便の援助：腰背部の温電法、グリセリン浣腸	演習	二神
22	15. 排泄を促す技術 排尿の援助：導尿（一時的・持続的）	講義	宮原
23・24	16. 排泄を促す技術 導尿（一時的・持続的）	演習	宮原
25	17. 食事・栄養摂取を促す技術 食事・栄養に関する援助の実際：経管栄養法（経鼻胃カテーテル法、瘻管栄養法）、非経腸栄養法（中心静脈栄養法）	講義	内山
26・27	18. 食事・栄養摂取を促す技術 経管栄養法（経鼻胃カテーテル法）	演習	内山
28	19. 上記授業内容の技術項目確認前課題	演習	宮原
29	20. 上記授業内容の技術項目確認	実技試験	教員全員
30	21. 上記授業内容の技術項目のふりかえり	講義	宮原
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 授業に関連する内容は、毎回テキストや指定したオンラインツールを事前活用してください（30分程度）。 2. 事前に事例を提示する場合があります。その場合は、テキスト等を用いながら援助のイメージをつかみ、授業に臨んでください（60分程度）。 3. 本授業では、多くの医療用物品を使用します。実習室にある物品には高価なもの、操作を誤ると事故につながる恐れのあるものが含まれていますので、丁寧に、かつ確実な手順で取り扱うようにしてください。また、室外への持ち出しを禁じる物品もあります。詳細は、随時お伝えします。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
志自岐康子, 松尾ミヨ子, 習田明裕, 金壽子(2018). ナーシング・グラフィカ基礎看護学③基礎看護技術. メディカ出版. 医療情報科学研究所編(2018). 看護がみえるvol.1 基礎看護技術. メディックメディア. 医療情報科学研究所編(2018). 看護がみえるvol.2 臨床看護技術. メディックメディア.			
成績評価の方法・基準			
■ 筆記試験（40％） 定期試験で評価します。 ■ 実技試験（40％） 技術の到達度を確認します。試験前にオリエンテーションを行います。 ■ 小テスト（10％） 授業出席者対象に授業内で7分程度の小テストを行います。 実施日と実施時間、テスト範囲は初回のオリエンテーションで伝えます。 ■ 授業参加状況（10％） ふりかえりはデブリーフィングシート（manaba）を使用します。提出状況の評価します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
小テストはmanabaを使用します。実技試験の結果は担当教員からフィードバックをします。			
担当教員からのメッセージ			
実技試験は1回で合格できることを期待しています。再試験は1回までとします。 演習の際はユニフォームとナースシューズを着用し身だしなみを整えて基礎成人看護学実習室に集合してください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護倫理学	353	2後	必	2単位 30時間	講義	火4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 八尋 道子 YAHIRO, Michiko m-yahiro●saku.ac.jp 研究室 5号館 2階 R205 宮原 香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara●saku.ac.jp 研究室 5号館 2階 R209 二神 真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami●saku.ac.jp 研究室 5号館 2階 R210						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 八尋道子 毎週火曜日 5 時限 宮原香里 二神真理子 まずはメールで。 *質問はメールやmanabaで随時お待ちしております。オフィスアワー以外の面談予約もメールで可能です。						
授業の概要						
この授業は、倫理教育の目的は倫理的能力の促進であるという立場をとります。看護の倫理の本質は人間の尊厳を可能な限り維持、保護、促進するために人間の脆弱性に対応するケアを提供することです。そこで、まず看護専門職に必要な倫理に関する基本的な知識と倫理的意思決定を行うための枠組みについて学びます。さらに、看護を実践する状況の中で自分の価値と他者の価値を吟味し、倫理的観点からその諸価値のもつ意味を考察することにより、倫理的感受性を高めます。はじめて臨地実習を体験している履修生のために、医療の現場に生じる倫理的課題について同時進行で学ぶことができるよう、多くの生きた事例を教材として使用します。						
到達目標						
修了時に以下の5つの学修成果を得ることをゴールとします。以下の5つは倫理的能力の構成要素です。 1)看護倫理の基礎知識と看護実践に関わる基本的な法律を学び、これらの知識が看護師になぜ必要かを述べることができる。（倫理的に「知ること」を学ぶ） 2)倫理的感受性を高め、多くの生きた事例から看護実践における現代の倫理的課題を認識することができる。（倫理的に「見ること」あるいは知覚することを学ぶ） 3)倫理的意思決定を行うための枠組みを理解し、倫理課題に直面したとき専門職としてどう対応するかを自分の問題として捉え、看護実践に活かしていく基本的な考え方を4ステップ事例検討用紙に記述することができる。（倫理的に「行うこと」を学ぶ） 4)よい看護とは何か、よい看護師とはどのような人かについて、自分自身の考えを言葉と行為で表現することができる。（倫理的に「あること」を学ぶ） 5)他者の声に積極的に耳を傾け、継続的な対話の姿勢を持つことができる。（倫理的に「ふりかえること」を学ぶ）						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
専門職として必要な「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目であり、また「豊かな人間性と高い倫理観を養い、人々の生命を尊重し、尊厳と権利を擁護できる」（DP1）にも関連します。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 大切なものは何ですか？：自分の価値を知ろう 倫理の基礎を学ぼう 【ピーターのケースとキャンパスの樹】 倫理と価値 価値の対立 倫理と道徳 「よく生きる」	講義	八尋・ 宮原・二神			
2	看護倫理の基礎知識 1：看護倫理の歴史を学ぼう なぜ看護師に倫理の知識が必要か？ 【ユニーのケース（タスキギー事件）】 倫理的感受性 基本的人権 個人の尊厳 徳の倫理	講義				
3	看護にかかわる法的原則と倫理：看護職の責任 倫理と法 【保健師助産師看護師法 医療法】	講義				
4	専門職の責務と倫理綱領 1：インフォームドコンセントとアカウンタビリティ 【ICN看護師の倫理綱領 JNA看護者の倫理綱領】	講義				
5	看護倫理の基礎知識 2：倫理的ジレンマ 倫理的意思決定 原則の倫理 【看護に係る倫理原則：無害 善行 自律の尊重 公正・正義 誠実・忠誠】	講義				
6	専門職の責務と倫理綱領 2 守秘義務 個人情報保護 コンフィデンシャリティ 【嵐のケースと実習記録の取り扱い】 専門職の責務と倫理綱領 3	講義・演習				

7	バルネラビリティ アドボカシー アドバンス・ケア・プランニング ケアの倫理【曜一のケースとリスボン宣言】	講義・演習	八尋・宮原・二神
8	実習で遭遇したケースを描く 1 ケースの書き方 ナラティブ 道徳的不確かさ 道徳的苦悩	講義・個人演習	
9	実習で遭遇したケースを描く 2：倫理的意思決定の枠組みを学ぼう ケアの要素を取り入れた4ステップ 事例検討用紙の紹介 事例検討の例	講義・演習	
10	よい看護へのアプローチ 1：実習のケースをふりかえる① ナラティブを読む クラス全員で検討するケースを選ぶ	チーム学修	
11・12	よい看護へのアプローチ 2：実習のケースをふりかえる② プレゼンテーションと討論会（ケースA）	チーム学修	
13・14	よい看護へのアプローチ 3：実習のケースをふりかえる③ プレゼンテーションと討論会（ケースB）	チーム学修	
15	総合ディスカッション：よい看護師とはだれか？ 【チーム医療の倫理を学ぼう】 チームワーク 協働 同僚関係	講義・演習	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<ul style="list-style-type: none"> 予習：予習を重視します。指定された事前学修をすませて授業に臨んでください。テキストを読み、毎回30分程度の予習をしましょう。 小テストについて：合計4回授業の最初に行います（小テスト①②③④）。おもにその日の授業内容について指定範囲から出題します。 復習：毎回、その日のうちに、15分でよいので、ノート整理をしながらふりかえりをしてください。 チーム学修の時間は授業外でも必要になります。メンバーとの時間調整もチームワークの実践の一つです。 期末レポートについて：評価基準も含めコースガイダンス時に説明します。レポートには授業以外で120分ほどの学修が必要です。 			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
1) 小西恵美子編（2021）. 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ、改訂第3版、南江堂。 2) メヂカルフレンド社編集部（2020）. 看護学生必携資料集、メヂカルフレンド社。 その他、授業のたびに次の予習ができるよう授業資料を事前に配付します。			
成績評価の方法・基準			
総合成績で上位のグレードが得られるように、下記の基準を参考にしてください。			
1. 授業参加状況（10%） ① 出欠席が成績評価に反映されます。小テストの日以外の欠席は－5%・遅刻/早退は－2% ② 授業参加状況の客観的指標として、質問や意見交換の際の自発的な発言を評価します。			
2. 筆記試験（小テスト4回 40%） 授業のなかで小テストを行い（小テスト①～④）、筆記試験の成績評価とします。（したがって、小テストの日に欠席すると1回につき－10%になります。）			
3. プレゼンテーションと討論会（20%） ケースに基づき、チーム学修を行い、チームで発表します。詳細は、第4回授業で説明します。発表（プレゼンテーション）時間は、10分を予定しています。			
4. 期末レポート（30%） 4ステップ 事例検討用紙を用いてケーススタディを行い個人レポートとして提出します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
小テスト①②③④は、その日の授業内で結果がわかります。期末レポートの結果は、個別に問い合わせが可能です。プレゼンテーションでは、それぞれの発表に対して各チームの投票が得点化されます。			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> この授業では間違った答えはありません。自由な対話の場所としての教室をみんなで作り上げてほしいです。 チーム学修では、チームの成果が最大化できるようなチームワークと協働にひとりひとりが努力されることを期待します。 メールや manaba で問い合わせると次の授業までにフィードバックを受けることができます。ただし、疑問や不明な点は履修生全員で共有すると有効ですので、なるべくその日の授業のなかで解決しましょう。 			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
感染看護論	354	2前	必	2単位 30時間	講義	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂木晴世 SAKAKI, Haruyo 和田孝子 WADA, Takako 武田由美 TAKEDA, Yumi 宮田貴紀 MIYATA, Takanori 窪田志穂 KUBOTA, Shiho						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業内容の質問・相談は、原則各担当教員の授業終了後に対応します。						
授業の概要						
感染を予防するための看護活動ならびに病棟や病院における感染制御のあり方を学習する。国内外における感染症の変遷や現代の感染症の特徴を理解して、感染防止のための知識、技術、感染管理のための知識、技術を習得する。						
到達目標						
感染看護の基礎及び根拠に基づいた感染防止技術を理解し、臨床での看護実践の基盤とする。 1. 感染看護の基礎を理解できる。 2. 感染防止技術の基本を理解できる。 3. 根拠に基づいた感染防止技術による看護を理解できる。 4. さまざまな臨床場面における感染看護を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス 感染看護の基礎1：感染症と感染制御における最近の動向	講義 〃	坂木			
2	感染看護の基礎2：感染症と倫理	〃	坂木			
3	感染看護の基礎3：生態防御機構と感染／感染症のフィジカルアセスメント	〃	武田			
4	感染看護の基礎4：感染症における薬物療法：抗菌薬の適正使用	〃	武田			
5	感染防止技術の基本1：標準予防策	講義・演習	宮田・窪田			
6	感染防止技術の基本2：感染経路別予防策	〃	宮田・窪田			
7	感染防止技術の基本3：職業感染対策	〃	窪田・（宮田）			
8	感染防止技術の基本4：洗浄・消毒・滅菌	講義	坂木			
9	感染防止技術の基本5：ファシリティマネジメント	〃	坂木			
10	感染防止技術1：尿道カテーテルと尿路感染 感染防止技術2：血管内留置カテーテルと血流感染	〃 〃	宮田 〃			
11	感染防止技術3：人工呼吸器と肺炎 感染防止技術4：周手術期と手術部位感染	〃 〃	宮田 〃			
12	感染看護の実際1：地域における感染対策	〃	和田			
13	感染看護の実際2：易感染者（高齢者・化学療法・移植など）の感染予防	〃	〃			
14	感染看護の実際3：救急・集中ケア	〃	武田			
15	感染看護の実際4：感染症のチーム医療における看護師の役割	〃	武田			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
講義資料を基に必ず復習しておくこと。 なお、1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：指定しない 参考文献：適宜紹介する
成績評価の方法・基準
筆記試験（70%） 授業参加状況（30%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習時は実習着着用の上、身だしなみを整えて臨んでください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
感染症看護専門看護師として実践している教員が、その経験を生かした授業を行います。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
フィジカルアセスメント	355	2前	必	1単位 30時間	演習	火5, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○武田貴美子 TAKEDA, Kimiko		k-takeda●saku.ac.jp	5号館3階310			
川野道宏 KAWANO, Michihiro		m-kawano●saku.ac.jp	5号館3階303			
二神真理子 FUTAGAMI, Mariko		m-futagam●saku.ac.jp	5号館2階210			
森本 彩 MORIMOTO, Aya		a-morimoto●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後から放課後まで質問等に対応します。また、随時メールにおいて対応します。 武田：k-takeda●saku.ac.jp 川野：m-kawano●saku.ac.jp						
授業の概要						
インタビュー、視診、触診、打診、聴診を用いて対象の健康状態（病状）を把握する方法を理解し、看護における患者観察の方法、正常・異常の判別の仕方などを、具体的な演習によって習得する。 患者観察におけるフィジカルアセスメントの重要性、基礎的知識・技術について理解する。						
到達目標						
1. フィジカルアセスメントの意義と目的を理解し、説明できる。 2. 看護実践のためのフィジカルアセスメントの必要性を理解し、説明できる。 3. フィジカルアセスメントの基本技術（バイタルサインの測定、問診、視診、触診、聴診・打診）を理解し実施できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本講義は、「看護実践能力の基盤」となる科目である。保健医療福祉チームの一員として、自己の役割を理解し、健康課題を捉えることができる。（DP6）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション（科目の到達目標・授業内容・学習方法等について）			講義	武田	
	看護におけるフィジカルアセスメントの概要について学ぶ					
2	バイタルサインについて学ぶ			講義	武田	
3	バイタルサイン測定について演習を通して学ぶ			演習	武田・全員	
4	胸部（呼吸器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	武田	
5	胸部（循環器系）のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	武田	
6	腹部（消化器系・泌尿器・生殖器）のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	武田	
7	胸部（呼吸器系・循環器系）/腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ①			演習	武田・全員	
8	胸部（呼吸器系・循環器系）/腹部（消化器系）のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ②			演習	武田・全員	
9	運動器系のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	武田	
10	頭頸部・神経系のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	川野	
11	感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系のフィジカルアセスメントについて学ぶ			講義	川野	
12	頭頸部・神経系・感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系・運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ①			演習	川野・全員	
13	頭頸部・神経系・感覚器系・外表皮系（皮膚）・リンパ系・運動器系のフィジカルアセスメントについて演習を通して学ぶ②			演習	川野・全員	
14	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する①			演習	武田・全員	
15	総合演習 事例からフィジカルアセスメントを学習する②			演習	武田・全員	
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・授業の関連内容について指定図書やオンラインツールで事前学習を必ず行ってください。（30分程度） ・授業内容に関連した事前課題に取り組んだうえで講義・演習に参加してください。（30分程度） ・講義・演習で修得した知識・技術が活用できるように事後課題に取り組んでください。（30分程度） ・形態機能学Ⅰ・Ⅱで修得した知識が必要になります。随時、復習を行ってください。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>【テキスト】</p> <p>医療情報科学研究所編(2019), 看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント. メディックメディア</p> <p>【参考図書】</p> <p>菱沼典子(2017), 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版. 日本看護協会出版会</p> <p>Bickley. L. S. (2015). ベイツ診察法第2版. 福井次矢ほか監修. メディカル・サイエンス・インターナショナル</p>
成績評価の方法・基準
<p>筆記試験 (60%)</p> <p>課題レポート (40%)</p> <p>総合演習で取り組む事例のフィジカルアセスメントに関する課題レポートを評価する。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題は授業中に活用します。 ・課題レポートはコメントを記載して返却します。
担当教員からのメッセージ
<p>対象の身体は今どのような状態にあるのか、今後どのように変化するのか、についてアセスメントすることは看護ケアを展開するうえでとても重要です。さまざまな手技を用いて対象の身体状態をアセスメントするための知識・技術を習得していきましょう。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
リハビリテーション看護論	356	2後	必	1単位 30時間	講義	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○太田浩和 OHTA, Hirokazu 丸山陽一 MARUYAMA, Youichi 滝澤貴恵 TAKIZAWA, Taka)						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
リハビリテーションの概念と体系、リハビリテーションの必要な対象と実施状況について学んだ上で、看護上必要なリハビリテーションのためのアセスメント、ADL訓練などについて学習する。						
到達目標						
1. リハビリテーション看護の考え方を理解する。 2. リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護援助を考えることができる。 3. 現場におけるチームアプローチ及び看護師の役割を理解する。 4. 演習を通し、ボディメカニクスを考慮したADL訓練の実際を学ぶ。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「看護実践能力の基盤」となる授業科目である						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	リハビリテーションの理念・定義とその目的について	講義	丸山			
2	障害者の定義、変遷・リハビリテーションを必要とする対象者の特徴と理解	〃	丸山			
3	経過別リハビリテーションの考え方	〃	太田			
4	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート1	〃	太田			
5	リハビリテーションを必要とする方への看護援助 パート2	〃	太田			
6	機能障害別リハビリテーション看護 パート1	〃	滝澤			
7	機能障害別リハビリテーション看護 パート2	〃	滝澤			
8	リハビリテーション看護の実際 パート1（演習）	演習	太田・丸山			
9	リハビリテーション看護の実際 パート2（演習）	〃	太田・丸山			
10	機能障害別リハビリテーション看護 パート3	講義	太田			
11	リハビリテーション医療におけるチーム活動と看護の役割	〃	太田			
12	リハビリテーション看護における倫理と福祉制度・社会資源について	〃	太田			
13	機能障害別リハビリテーション看護 パート4（演習）	演習	太田・丸山			
14	機能障害別リハビリテーション看護 パート5（演習）	〃	太田・丸山			
15	これからのリハビリテーション看護について	講義	太田			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
テキスト、講義資料を用いて学習したことを整理し、必ず復習しておくこと。 1回の授業について、2時間程度復習を行うこと。 講義終了時に次回実施する講義内容を指示するので、テキストを用いた事前学習を1時間程度行うこと。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：酒井郁子 他著『リハビリテーション看護』改訂第3版 南江堂 参考書：落合芙美子監修・栗生田友子編『リハビリテーション看護』第2版 メヂカルフレンド社 中西純子・石川ふみよ編『リハビリテーション看護論』 ヌーヴェルヒロカワ
成績評価の方法・基準
筆記試験（80%） 授業参加状況（20%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業時に説明する。
担当教員からのメッセージ
演習の際は実習着を着用の上、基礎看護実習室へ集合すること。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

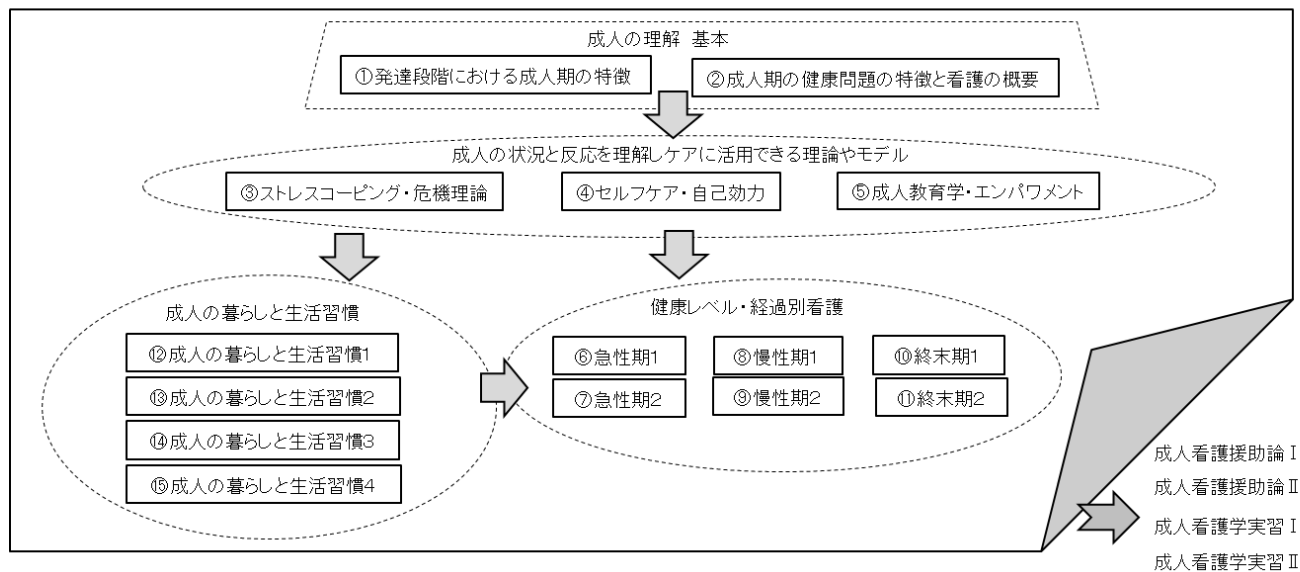
【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学概論	360	2前	必	2時間 30単位	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○水野照美 MIZUNO, Terumi t-mizuno●saku. ac. jp 5号館2階203 松下由美子 MATSUSHITA, Yumiko y-matsushita●saku. ac. jp 5号館2階教員室 吉岡恵 YOSHIOKA, Megumi、 m-yoshioka●saku. ac. jp 5号館2階210 喜多村定子 KITAMURA, Sadako s-kitamura●saku. ac. jp 5号館2階207 阿藤幸子 ATO, Sachiko s-ato●saku. ac. jp 5号館2階209 塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko t-shioiri●saku. ac. jp 5号館2階助手室 櫻井真智子 SAKURAI Machiko m-sakurai●saku. ac. jp 5号館2階助手室 桐生由美子KIRYU, Yumiko y-kiryu●saku. ac. jp 5号館2階助手室 成田千春 NARITA, Chiharu、 c-narta●saku. ac. jp 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義の後、教室で質問を受けます。別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。						
授業の概要						
成人期にある対象の身体・精神・社会的な健康上の特徴を理解し、対象の成長・発達を促す成人看護の中心概念とその理論について学ぶ。また、成人期にある人々の主要な健康上の諸問題を学び、援助のあり方、健康的な生活習慣の理解など成人に対する看護活動の基本について学ぶ。						
到達目標						
1. 成人の発達段階における特徴および健康問題の特徴を説明できるようになる 2. 成人の健康レベル（急性期、慢性期、終末期）の特徴と必要な看護の概要を説明できるようになる 3. 成人の健康上の問題解決に活用できる理論やモデルの概要がわかる 4. 健康障害による生活調整が必要な成人の体験と反応を説明でき、看護について考察できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
この科目は、「専門教育科目」の「看護の展開」のなかでも2年次前期に配置され、最も早く始まる科目です。「成人看護学」という幅広い（講義科目も実習科目も複数あり、単位数が多い）領域の基盤となる科目です。 カリキュラムマップでは、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の項にあり、各領域の概論のなかでスタートとも言える配置になっています。この科目は、「成人看護…」という名称の複数科目の基盤であるという関係から、「Ⅴ 多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」の項にも重要なかわりを持ちます。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション、発達段階における成人期の特徴	講義	水野			
2	成人期の健康問題の特徴と看護の概要	講義	松下			
3	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル1. ストレスコーピング、危機理論	講義	水野			
4	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル2. セルフケア、自己効力	講義	水野			
5	成人の状況と反応を理解しケアに活用できる理論やモデル3. 成人教育学、エンパワメント	講義	水野			
6	急性期1：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
7	急性期2：健康状態が急激に変化する／した成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
8	慢性期1：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族の状況と看護	講義	松下			
9	慢性期2：健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする成人とその家族の状況と看護	講義	吉岡			
10	終末期1：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	水野			
11	終末期2：健康状態の維持回復が困難な成人とその家族の状況と看護	講義	特別招聘講師			
12	成人の暮らしと生活習慣1	演習	成人教員			
13	成人の暮らしと生活習慣2	演習	成人教員			
14	成人の暮らしと生活習慣3	演習	成人教員			
15	成人の暮らしと生活習慣4	演習	成人教員			
15回の授業の構造は、右ページの図へ						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間 看護の科目の学習は、単に暗記ではなくて、既習の科目とのつながりをつけて理解し、将来は実際に活用する覚悟をもつ必要があります。たとえば実習において、患者さんや看護師さんに根拠や理由を伝えられなければ、学生の皆さんへの理解や信頼は得られません。このため、選択式で正答したとしても、根拠や理由を自分の言葉で説明できるように意識して取り組みましょう。 ・予習・復習：テキストの当該範囲、紹介された参考文献に目を通す（1時間×15回＝15時間） ・小テストまたは課題：（2時間×5回＝10時間） ・模擬体験前：事前に、既習科目（「健康障害と治療」「食と健康」）・高校までの「家庭科」等を振り返る。サブテキスト「なにをどれだけ食べたらいいの？」や、生活習慣・食事に関する図書や資料を確認する（10時間） ・模擬体験：1週間継続。実施した内容を記録し、「大人の健康」について考察する。サブテキスト参照。（10時間） ・レポート作成：構成を検討する。一度論述する。読み直してわかりにくい部分を書き直す×2回。（15時間）
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：小松浩子（2018）. 系統看護学講座 成人看護学総論. 医学書院 香川明夫（2020）. なにをどれだけ食べたらいいの？第4版. 女子栄養大学出版社 参考文献：授業内で紹介
成績評価の方法・基準 ■ 筆記試験（50%） ■ その他（小テストまたは課題30%） ■ レポート（15%） ■ 授業参加状況（5%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ・小テスト終了後に解答を公開します。解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います。 ・小テストの達成度が十分でない場合は、やり直しのレポート課題を課すことがあります。 ・レポートは、コメントをつけて返却します。 ・定期試験の結果についての問い合わせに応じますが、原則開示はしません。
担当教員からのメッセージ ・講義と演習を組み合わせるため、学習の順序と日程は初回授業にて説明します。 ・成人看護学は、看護学実習や国家試験準備の基盤となる領域です。この「概論」では、成人看護学へのイントロダクションとして、身近な題材をきっかけにして「成人（おとな）の暮らし」と健康とのつながりを考えましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

「成人看護学概論」15回分の授業の構造

四角で囲まれているのは1コマの授業 ○付き数字は、左ページの授業回数に対応



【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅰ（急性期）	361	2後	必	2単位 60時間	講義 演習	水4, 水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○喜多村 定子	KITAMURA, Sadako	s-kitamura●saku.ac.jp	5号館2階207			
水野 照美	MIZUNO, Terumi	t-mizuno●saku.ac.jp	5号館2階203			
吉岡 恵	YOSIOKA, Megumi	m-yoshioka●saku.ac.jp	5号館2階210			
阿藤 幸子	ATOU, Sachiko	s-ato●saku.ac.jp	5号館2階209			
塩入 とも子	SHIOIRI, Tomoko	t-shioiri●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
櫻井 真知子	SAKURAI, Machiko	m-sakurai●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
桐生 由美子	KIRYUU, Yumiko	y-kiryu●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
成田 千春	NARITA, Chiharu	c-narita●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
喜多村 定子、水野 照美 いずれも授業日の授業終了後 17:50～18:30（講義室または研究室） メールにて質問ならびに面談の予約は常時受け付けます。						
授業の概要						
成人期における主要な疾病の病態や症状、徴候、経過、侵襲の治療や検査等を理解し、看護過程を展開するために必要な知識や技術について学習する。対象とその家族に対する生命の維持・回復に向けた看護の基礎的知識と看護援助方法について学習するとともに、健康増進対策など保健活動についても学ぶ。						
到達目標						
1. 侵襲の治療（主に手術侵襲）による身体機能の変化についてのメカニズム、生命や生活に及ぼす影響や心理社会的反応を考え、理解し説明できるようになる。 2. 手術を受ける対象の生命の維持、回復の促進、健康的な日常生活への移行のために必要な具体的な看護についての考えを、その対象の家族も視野に入れて示すことができるようになる。 3. 身体機能に急激な変化が起こった急性期の成人の生命と生活を支えるための看護について考えることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「生命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」での学びをベースにして、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を養い、実習や将来の看護実践につなげるための授業です。（DP1, DP6）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	授業ガイダンス 侵襲の大きい治療（概要・周手術期にある患者の看護）			講義	喜多村	
2	侵襲の大きい治療（麻酔について）			講義	喜多村	
3	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術前）			講義	喜多村	
4	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術中）			講義	特別講師	
5	侵襲の大きい治療（周手術過程に応じた看護 術後）			講義	喜多村	
6-8	手術侵襲と生体反応 ・小テスト①			講義	喜多村	
9	侵襲の大きい治療（化学療法 放射線治療を受ける患者の看護）			講義	水野	
10	循環機能障害のある患者の看護Ⅰ			講義	特別講師	
11	循環機能障害のある患者の看護Ⅱ			講義	喜多村	
12	呼吸機能障害のある患者の看護Ⅰ			講義	特別講師	
13-14	グループワーク 1. 2			演習	喜多村	
15	呼吸機能障害のある患者の看護Ⅱ			講義	塩入	
16	グループワーク 3			演習	喜多村	
17	消化機能障害のある患者の看護 ・小テスト②			講義	水野	
18	グループワーク 4			演習	喜多村	
19	救急救命処置が必要な対象とその家族への看護Ⅰ			講義	特別講師	
20	救急救命処置が必要な対象とその家族への看護Ⅱ			講義	喜多村	
21-22	演習（BLS）＋グループワーク 5			演習	成人教員	
23	脳神経機能障害のある患者の看護 ・小テスト③			講義	水野	
24	グループワーク 6			演習	喜多村	
25	女性生殖機能障害のある患者の看護			講義	水野	
26	運動機能障害のある患者の看護			講義	櫻井	
27	生体防御機能障害、感覚機能障害のある患者の看護 ・小テスト④			講義	水野	
28	グループワーク 7			演習	喜多村	
29-30	グループワーク発表及び講評			演習	喜多村	

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
授業時間内のみで講義内容を理解するのは難しいです。毎回の講義内容に関する既習科目（「形態機能学」「感染・免疫学」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」など）で習得内容について必ず予習・復習をしてください。さらに、既習科目で学んだことを看護実践で生かせる知識にするためには、「調べる・覚える」レベルから「理解して自分の言葉で説明できる」レベルにすることが必要です。例えば、疾患ごとに出現する症状や徴候などについて、「なぜそのような症状が出現するのか」まで考え、理解していくための学習方法を工夫してください。またグループワークは全て授業時間内で行いますが、個人の学習につなげていくようにしてください。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト：雄西智恵美・秋元典子（2015）. 周手術期看護論 第3版. ヌーヴェルヒロカワ 鎌倉やよい・深田順子（2008）. 周術期の臨床判断を磨く. 医学書院 参考図書：「健康障害と治療」で用いた「病気が見える」 他、授業の中で紹介します。
成績評価の方法・基準
1. 定期試験：50％ 2. 小テスト（4回）：20％ 3. 課題（授業における課題提出3回）：15％ 4. 課題レポート（看護過程）：15％ グループワークで取り組む課題とリンクしたものを、個人で行う時間外学修として提示をします。それを「課題レポート」とみなし、授業最終日に提出してもらいます。 ※グループワークには個人で取り組んだものを持ち寄り、お互いの考えを出し合った上でグループとしての見解を導き出すこと、個人ワークの内容がグループワークの成果物に反映されることが必要です。さらに、グループワークの内容や解説内容を個人ワークに反映させて、自分なりの学修のプロセスや成果を、可視化することが望ましいです。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
・定期試験の結果についての問い合わせには応じますが、原則試験問題の開示はしません。 基本的に小テストは正解/不正解だけでなく、問われた内容の理解度を深めるためのツールの1つとして活用して下さい。解答について授業中に詳しい解説はしませんが、授業資料と既習科目をつなげることで理解できる内容です。 ・グループワークで取り組んだ課題内容に関しては、授業内でフィードバックします。
担当教員からのメッセージ
・3年次の領域別実習、国家試験、将来の臨床実践等に大きく関わる科目です。 ・急性期にある患者が日常生活に戻れるように看護を展開するためには、専門教育科目で学んだ「成人看護学概論」、専門基礎科目の「形態機能学」「感染・免疫」「病態生理学」「健康障害と治療」「薬理薬剤学」等の知識の統合が必須です。 ・主体的に学ぶ姿勢を持ち予習・復習を心がけて、丁寧に学習を積み重ねてください。 ・講義とグループワークを組み合わせて進めていくため、学習の順序と日程については初回の授業にて説明します。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
老年看護学概論	370	2後	必	2単位 30時間	講義	水1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○安川揚子 YASUKAWA, Yoko y-yasukawa●saku.ac.jp 5号館3階302 小野美香子 ONO, Mikako m-ono●saku.ac.jp 1号館3階1323						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12:10-12:50、17:00-17:50 他の時間も歓迎します。事前にメール等で確認ください。						
授業の概要						
老年期における生理的、心理的、心理精神的、社会的特徴を理解し、健康と生活との関連を理解する。加齢による健康上の変化、援助の必要性、社会的役割の変化について理解を深める。様々な健康レベルにおける看護援助のあり方を理解し、老年期にある対象の援助方法を学ぶ。						
到達目標						
1. 老年期を生きる高齢者の生活史を知る意味を説明できる。 2. 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を説明できる。 3. 高齢社会における人口、受療に関する保健統計の特徴、ならびに主な社会保障制度を説明できる。 4. 高齢者の権利擁護を説明できる。 5. 高齢者のヘルスプロモーションについて説明できる。 6. 高齢者に対する看護の役割を説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」に位置付けられていますが、本科目は自分と異なる文化や生活背景を持つ人々の理解、健康レベルに関わらずヒトの加齢変化を学ぶことなどが含まれており、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」の涵養にも関連します。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	老年期を生きるとは 高齢者が歩んできた人生の背景となる文化や生活を知る。 高齢者のライフヒストリーを知る方法とその意味を学ぶ。	講義	安川			
2	老年看護学の歩みと未来 人口の高齢化に伴う社会の変化に伴う高齢者の保健医療福祉制度の変遷、老年看護学の誕生とその歩み、また未来について学ぶ。	講義	安川			
3	高齢者の理解：高齢者の身体的特徴 加齢と老化、特に身体機能の加齢変化について学ぶ。	講義	安川			
4	高齢者の理解：高齢者の精神的・社会的特徴 老いの自覚、喪失体験などをきっかけとする高齢者の心理、認知機能の加齢変化、および高齢者の就労、社会参加について学ぶ。	講義	安川			
5	高齢者のヘルスプロモーション 高齢者にとっての健康増進の意味を知り、支援方法を学ぶ。	講義	小野			
6	高齢者をとりまく社会：高齢者を支える制度 介護保険制度、社会資源、地域包括ケアについて学ぶ。	講義	小野			

7	高齢者をとりまく社会：高齢者の生活と家族 高齢者をとりまく家族、高齢者虐待について学ぶ。	講義	安川
8	高齢者看護の基本：高齢者のアセスメント・バイタルサインの特性 バイタルサインに現れる加齢変化や生活機能のアセスメント方法について学ぶ。	講義	安川
9	高齢者看護の基本：高齢者の権利擁護 エイジズム、高齢者虐待、身体拘束、高齢者虐待防止法、成年後見制度について学ぶ。	講義	安川
10	高齢者とのコミュニケーション コミュニケーションを促す要素と阻害要因、コミュニケーション技術について学ぶ。	講義	安川
11	高齢者と犯罪 統計から高齢者と犯罪の関連について学ぶ。	講義	小野
12	高齢者のセクシュアリティ 性に関する課題とケアについて学ぶ。	講義	小野
13	高齢者をとりまく社会：高齢者の住まい 高齢者の心身社会機能に応じた住環境のあり方、高齢者向けの多様な住宅について学ぶ。	講義	安川
14	人生の最終段階にある高齢者の看護：エンド・オブ・ライフケア 老年期の終末期看護の考え方、高齢者が生を全うすることを支えるということについて考える。	講義	安川
15	倫理的な課題 倫理的ジレンマを生じやすい事例について意見交換する。	演習	安川 小野
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：テキストの関連箇所を精読し、各講義前に提示する事前課題に取り組む。 復習：授業内の資料や、テキストの関連箇所を精読し、ノートにまとめ整理する。不明な点はその都度確認する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：堀内ふき他編著『高齢者の健康と障害』第6版 メディカ出版 2021 堀内ふき他編著『高齢者看護の実践』第5版 メディカ出版 2021 参考文献：日本福祉文化学会 監修：現代日本の高齢者生活年表 1970-2007、日本エディタースクール出版部、2008			
成績評価の方法・基準			
筆記試験、レポート、授業への参加状況により総合的に評価する。 ・筆記試験（60%） ・レポート・授業への参加状況、事前課題の取り組み状況（40%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・筆記試験の結果は、希望者に対して面接し説明します。 ・各講義前に取り組んだ事前課題について講義中にフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
「生活者」である高齢者の発達の側面に着目し、想像力を発揮して、高齢者に対するイメージを豊かにしていきましょう。高齢者を取り巻く社会状況の変化に関心を向けましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護学概論	380	2後	必	2単位 30時間	講義	火5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○坂江千寿子 SAKAE, Chizuko	chi-sakae●saku.ac.jp	研究室	5号館3階309			
柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako	m-kakizawa●saku.ac.jp	研究室	5号館2階204			
東 修 AZUMA, Osamu	o-azuma●saku.ac.jp	研究室	1号館3階1318			
井手段幸樹 ITEDAN, Kouki	k-itedan●saku.ac.jp	研究室	1号館3階1334			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、授業日の午後（13:00-15:00）。質問は、メールでもよい（常時）。連絡先は上記参照。 面談の予約はメールで可能である。						
授業の概要						
精神的健康の保持増進及び精神的疾病の予防に関する因子を理解し、心の働きとメカニズムを知り、行動に示される心の表れを理解する。精神疾患患者の看護の多様な役割について理解する。また、精神に障害のある方の人権や福祉、地域での生活のあり方等について、家族支援を含めて理解を深める。						
到達目標						
1. 乳幼児から高齢者までの生涯にわたるこころの発達過程、心を理解するための諸理論を説明できる。 2. 精神保健看護の理念、現代における社会現象や、社会的問題を精神看護の視点から理解できる。 3. 対象者- 医療者との治療的関係の成立のために必要とされる、自己を活用したコミュニケーション方法を理解し活用できる。 4. あらゆる人々の心の健康、ストレス、危機のメカニズムを基に、セルフマネジメントについて理解できる。 5. 精神障がい者を取りまく環境及び歴史的変遷を学び、精神障がい者の立場を多角的な視点から検討できる。 6. あらゆる疾患患者の治療過程に関与する精神看護の役割と専門性を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」、「看護実践能力の基盤」として必要な能力を培う科目である。3年次以降の「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展していく。（DP1、DP3、DP6）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	1. 精神の健康を保持増進するための看護を学ぶ こころの健康とは何か、精神看護の対象と目的、現代の精神疾患の位置づけと医療体制について説明できる。	講義	坂江			
2	2. 精神と身体との密接な関係、精神看護の機能と役割を学ぶ 心身相関に関する理論、こころの働きをセルフチェックする方法が説明できる。	講義	坂江			
3	3. 精神看護における対人コミュニケーションの重要性と方法を学ぶ コミュニケーションの重要性、コミュニケーションの種類、看護におけるカウンセリングの活用、主要な技法について説明できる。	講義・演習	坂江			
4	4-1 ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ① フロイトの精神分析学を基に、心の構造仮説とは何か、防衛機制/適応機制を説明できる。 これまでの経験の一つを防衛機制の視点からふりかえり、説明できる。	講義	柿澤			
5	4-2. ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ② ピアジェ、マロー、スターン、エリクソン、マズローの理論を基にして、乳幼児期から成人期までの人間の発達を説明できる。	講義	坂江			
6	4-3. ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ③ ピアジェの理論を基にして、幼児期から思春期までの人間の発達を説明できる。 発達障害の種類、児童の特徴、関わり方のポイントを説明できる。	講義	坂江			
7	4-4. ライフサイクルに応じた人間の精神的な発達過程を学ぶ④ 青年期から老年期までの人間の発達の特徴、精神的な危機の種類、依存症について説明できる。	講義	坂江			
8	5. 現代社会におけるメンタルヘルスの重要性を学ぶ 新聞記事を用いて、現代社会の出来事を、精神看護の視点から説明できる。 記事の現象を一つ取り上げて検討し、グループで、メンタルヘルスの課題改善のために提案できる（グループワーク）。 <u>事前学習、提出課題あり</u>	講義・演習	坂江ほか			
9	6-1. こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ① こころの危機状態とは 危機の種類と過程、介入方法について説明できる。	講義	東			

10	6-2. こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ③ 心の健康と運動の関係を理解し、自律訓練法、リラクゼーションの方法を用いてセルフケアができる ストレスとストレスコーピングの方法を説明できる。	講義	東
11	6-3. こころの健康を保つための理論と技術を学ぶ④ セルフコントロールの方法、自己の振り返りとしてのリフレクションについて説明できる。	講義	坂江
12	7-1. 精神医療福祉の現状と課題を学ぶ ① 諸外国（欧米）と日本の精神医療・看護の歴史的変遷を比較し、日本の精神看護における課題が説明できる。	講義	井手段
13	7-2. 精神医療福祉の現状と課題を学ぶ ② 精神疾患患者と家族の理解、精神科病棟の治療環境	講義	坂江
14	8. 精神医療と看護学精神保健福祉法と看護者の役割について学ぶ 精神障がい者に関わる法律、精神保健福祉法を理解し、障害者の回復プロセス、患者の権利を擁護するものとしての看護者の役割と責任を説明できる。	講義	外部講師 弁護士
15	9. 精神看護における専門性について学ぶ 精神専門看護師とは何か、リエゾン精神看護の役割と機能、看護師のメンタルヘルスへの支援について説明できる。	講義	東cns
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>1年次に履修した科目の中でも特に「人間存在と道德意識」「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」と関連している科目です。したがって、本授業に臨む際には、予習と事前の学習準備をして臨んでください。授業後は、3年次で活用できる配布資料の整理や知識の定着をはかる重要事項ノートの作成など、工夫が必要です。授業中は短時間での意見交換を行います。できるだけ多くの学生の意見交換できるように組み合わせを工夫し、ランダムな席順をその都度、指示します。</p> <p>【予習】 各授業前に、テキストの当該箇所を一読し、理解できない用語を調べて、疑問個所に付箋を付ける等の事前学習のために毎回1時間を必要とします。</p> <p>・8回目の事前課題は1時間を要します。精神看護に関する新聞記事課題：1. その記事を選んだ理由、2. 記事の情報、記事のタイトル等、3. 記事の概要、4. その記事に関して調べた内容（テキスト参照） ※ 新聞記事は、2021年1月1日～掲載された記事を対象とします。</p> <p>【グループワーク】 授業内の演習・グループワークは、ディスカッションの時間です。各自が責任を持って準備して取り組んでください。</p> <p>【復習】 授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫して自分で分かりやすいようにまとめましょう。 疑問個所に付箋を付ける等の事前学習を行った場所を理解できたかどうか確認し、まとめるために20分を要します。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用して、疑問を解決しましょう。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト 岩崎弥生 編(2020). 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社. 岩崎弥生 編(2020). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社. 参考文献 授業内で適宜紹介する。</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1. 筆記試験（80%） 定期試験1回で評価する。全範囲から出題する。合計点の80%を評価する。</p> <p>2. 提出課題（20%） 新聞記事のレポート課題。授業時に課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。 他の科目の課題も考慮し、計画的に課題を遂行する。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
定期試験は返却しません。MANABAでの授業後の質問や感想には、次の授業でフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
こころの健康は、誰にとっても、いつでも、大事な問題です。本授業では、個々の授業内容を自分のこととして、自分に引きつけて、考える努力をしてみましょう。授業中は短時間での意見交換を行いますので、主体的に参加してください。また、疑問や質問はそのままにしないで解決して、理解を深めてください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
小児看護学概論	390	2後	必	2単位 30時間	講義	火1
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi y-hashimoto●saku.ac.jp 研究室 5号館3階308 鈴木千衣 SUZUKI, Chie c-suzuki●saku.ac.jp 研究室 5号館3階307 小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi m-kobayashi●saku.ac.jp 研究室 5号館2階201 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya t-ishizaka●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1334						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○橋本佳美 原則授業日 12：10-12：50 13：00-14：30（研究室）別途メールで相談 鈴木千衣 原則授業日 12：10-12：50 （研究室）別途メールで相談 小林 睦 金曜日 14：40-16：10 （研究室）別途メールで相談 石坂俊也 金曜日 14：40-16：10 （研究室）別途メールで相談 質問や面談は、実習に出ていますので、メールで予約をとるようにしてください。オフィスアワー以外の時間でも調整します。						
授業の概要						
小児の概念および子ども観、小児医療や小児看護の歴史的変遷を学ぶとともに、小児各期の発達と課題を深め、生活環境が子どもの成長発達に及ぼす影響を理解する。また、保健医療における小児看護の理念と役割を理解し、小児保健および小児看護に関する知識や理論を学ぶ。						
到達目標						
1．小児看護の対象としての「子ども」とはどのような存在か、自分の考えを表現できる。 2．小児看護の理念を理解し、小児看護の役割と対象について説明できる。 3．小児保健医療および小児看護の変遷を踏まえ、これからの小児看護における課題について考察できる。 4．子どもの成長発達と成長発達の評価方法を理解し、実際にその評価方法を使用し評価できる。 5．各発達段階における子どもに必要な養護を理解し、子どもと家族に対して必要な援助を考察できる。 6．最近の子どもの日常生活と健康にかかわる問題について課題を検討できる。 7．学修課題に自主的に取り組むことができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」となる力を身につける授業科目です。「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な科目であり、「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」にも関連します。（DP1, DP3, DP5）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	オリエンテーション：この授業の進め方、授業を理解するためのワークブック、レポート課題、グループワーク課題とその進め方について説明する。 子どもとは：ビデオから子どもの持っている力を分析し時間内にレポートする。			講義	橋本	
2	小児看護の理念と役割/子ども観の変化 小児の特徴を学び小児看護の役割を考える。 個人ワークの準備：小児期各期の健康にかかわる問題について書かれた新聞記事、文献を提示し、各課題を検討し課題を明確にする。			講義/グループワーク	橋本	
3	小児保健医療の変遷/過去から現在を捉え、今後の小児看護の課題を考える。 子どもに関する法律の制定や国の動き、そのもととなる基本的なデータから検討する。			講義	鈴木	
4-5	子どもと遊び：遊びを体験し、子どもにとっての遊びの意義を考える。 実際に体を動かし、子どもが遊びの中で感じる事、学ぶことについて考える。 現代の幼児の生活、遊びの講義から、子どもにとっての遊びの意味を考える。			演習/講義	外部講師	
6	子どもと生活 子どもを取り巻く環境と健康問題：各Gの課題を明確にし検討計画を立案する。			グループワーク	橋本	

7	子どもの成長発達と評価/子どもの成長発達評価の実際を学ぶ。 子どもの成長発達の評価の実際：事例を提示し、実際に評価方法を用いて評価する。	講義/演習	鈴木
8-9	子どもの成長発達と健康生活 乳児期 1, 2 子どもが出生後、母胎外生活に適応するために起こる生理的变化について知り、その生理的变化が子どもの基本的な生活行動をどのように変化させるのか考える。 乳児の日常生活を整えることが、その後の子どもの健康生活の基盤となることを学ぶ。また、乳児期の成長発達と養育上の問題（事故、虐待、感染など）、乳児期の健康診査のポイントと親子に必要な支援について考える。	講義	橋本
10-11	子どもの成長発達と健康生活 幼児期 1, 2 幼児期の子どもの成長発達の特徴と養護について学ぶ。 幼児期の生活と健康上の問題、基本的な生活行動（睡眠、食事、排泄、清潔）を身につけるための具体的な支援について考える。	講義	橋本
12-13	子どもの成長発達と健康生活 学童・思春期 1, 2 学童・思春期の子どもの成長発達の特徴と養護について 健康生活に必要な基本的生活習慣の確立ができるようになる重要な事項と現状について 起こりやすい健康問題とその背景	講義	小林
14	子どもと家族の権利を考える	GW/講義	橋本
-15	まとめ：子どもを取り巻く環境が子どもの基本的な生活行動や健康生活にどのような影響を及ぼしているのか検討する。課題の検討を通して、小児看護の対象と役割についての理解を深める。また、子どもは成長発達にあった援助方法が必要であることを理解し小児看護援助論につなげる。		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業の開始時に小児看護学概論学習内容・手引きを配付します。これを熟読してください。さらに各授業ごとに課題を提示しながら授業を進めます。配付されたワークブックの課題をまとめ、それを参考に学修を深めてください。資料や文献は必ず読んでから授業に出席してください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
参考図書：奈良間美保 系統看護学講座 小児看護学概論小児看護学総論 小児看護学① 医学書院 最新版 参考文献：その都度提示する。 国民衛生の動向を使用することがあります			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（小テスト15%、定期試験50%） 65% 2. レポート（30%）レポート課題1, 2, 3はそれぞれ10%です。 3. 課題3自己評価（5%）自己評価表を提示します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
①小テストについては、授業中に解説をします。質問や相談には随時お応えします。あわせて学修方法の相談にもあります。 ②レポートは、小児看護援助論の時にコメントをつけて返却します。			
担当教員からのメッセージ			
子どもの成長発達はダイナミックであり、興味深いものです。また、私たちが含めた子どもを取り巻く環境が子どもと家族の生活に大きく影響します。そのため、ニュースや新聞記事などに子どもの問題がどのように取り上げられているのか関心をもってみてください。授業に関する図書、文献、ビデオは、文献リストに挙げていますので活用してください。文献リストは小児看護援助論の時に使います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
母性看護学概論	400	2後	必	2単位 30時間	講義	月4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○湯本敦子	YUMOTO, Atsuko	a-yumoto●saku.ac.jp	5号館3階301			
櫻井綾香	SAKURAI, Ayaka	a-sakurai●saku.ac.jp	5号館2階207			
中田覚子	NAKATA, Satoko	s-nakata●saku.ac.jp	5号館3階208			
宮澤香代子	MIYAZAWA, Kayoko					
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了時あるいは放課後。質問はメールでも可能です（随時）。面談の希望は事前にメールで連絡ください。						
授業の概要						
女性のライフサイクルと役割・機能の変化について学習する。各ライフステージにおける母性とその家族の特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え、母性の育成や母子関係、親子関係の形成等について多面的に理解し、母性保健および看護活動について学習する。						
到達目標						
1. 母性看護の対象・目的・役割・意義について説明できる。 2. 母性看護の中心となる概念、およびリプロダクティブ・ヘルスについて説明できる。 3. ライフサイクルからみたリプロダクティブヘルスに関する健康課題・健康問題と看護について説明できる。 4. 我が国における母性看護の対象を取り巻く社会の変化、母子保健統計および母性看護に関する法律や施策について説明できる。 5. ひとの生殖に関する形態・機能的特徴、妊娠の成立・胎児の発育とその付属物・性分化について説明できる。 6. 母性看護にかかわる倫理的課題を説明でき、考察することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
DP2「多様な価値観や生活背景を持つ人々を幅広く理解し、援助的対人関係を形成できる」DP3「さまざまな健康状態にある対象者の医療・看護における課題を発見し、解決に取り組むことができる」能力を培うための基礎となる力を身に付ける授業科目である。母性看護領域の基本的な対象理解と看護の基本を学ぶ科目である。						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	ガイダンス・イントロダクション 母性看護の対象と目的、理念について説明できる。 リプロダクティブヘルス・ライツについて説明できる。			講義	湯本	
2	生殖の形態と機能 1 男・女生殖器の形態、性ホルモン 男女生殖器の名称と構造を正しく述べることができ、各器官の役割・機能を説明できる。性ホルモンの種類をあげ、分泌器官とはたらきを説明できる。			講義	湯本	
3	生殖の形態と機能 2 女性の月経周期 女性の月経周期に伴う視床下部-下垂体-卵巣の調節機序、卵巣・子宮内膜の周期的変化を説明できる。			講義	湯本	
4	性と生殖の健康問題 1 月経障害 月経に関する健康課題と健康障害とそのケアについて理解し説明できる。			講義	湯本	
5	性と生殖の健康問題 2 女性のがん、更年期～老年期女性の健康課題 男女の更年期の原因と特徴とケアについて述べるができる。 女性特有のがんについて、特徴・症状・診断・治療について説明できる。			講義	湯本	
6	性と生殖の健康問題 3 性感染症 性感染症の動向と各感染症の特徴・検査・治療について説明できる。性感染症の予防法について説明できる。			講義	櫻井	
7	性と生殖の健康問題 4 暴力 子どもの虐待、ドメスティックバイオレンス、性暴力の概念を理解し、支援に関する基本的知識を説明できる。			講義	櫻井	

8	ヒューマン・セクシュアリティ セクシュアリティの概念と性の多様性について説明できる。セクシュアリティの発達について理解し、健康な性とは何かを考察できる。	講義	櫻井
9	我が国の母子の健康と母子保健統計 我が国の母子保健統計の指標をあげて定義し、それらの動向を説明できる。	講義	櫻井
10	我が国の母子の健康と母子保健施策(法律を含む) 我が国における母子保健に関連する法律や規定、および母子保健施策を説明することができる。	講義	櫻井
11	生殖の形態と機能3 受精・妊娠の成立、胎児の発育 受精・妊娠の定義、妊娠の成立過程および胎児の発育を説明できる。	講義	櫻井
12	生殖の形態と機能4 配偶子の形成・遺伝・性分化 配偶子の形成、遺伝の仕組み、性分化のメカニズムを説明できる。	講義	櫻井
13	性と生殖の健康問題3 家族計画・不妊 家族計画の目的を理解し、各種避妊方法について説明できる。 不妊の原因・治療の概要について説明できる。	講義	湯本
14	不妊カップルの理解と看護	講義	宮澤 (外部講師)
15	母性看護領域における倫理的課題・まとめ 母性領域に関連する倫理的課題について考察できる。	講義	湯本

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

事前・事後課題について

- ・毎回、初回ガイダンスで示すテキストの該当ページについて読んでくること。授業後ノートにまとめるなどして復習すること。（1時間）
- ・授業によってmanaba小テスト機能を利用しホームワークを課すので、自己学習し解答すること。
- ・ワークブックを初回ガイダンス時に配布するので、計画的にワークブックの課題を完成すること。
- ・課題レポートについて、自主的、計画的に進めること。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：森恵美, 他（2021）. 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学①母性看護学概論(第14版). 医学書院.
森恵美, 他（2021）. 系統看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学②母性看護学各論(第14版). 医学書院.
末岡浩, 他（2019）. 系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学⑨女性生殖器(第15版). 医学書院.

参考文献：母子衛生研究会編集（2020）わが国の母子保健平成31年. 母子保健事業団.
病気が見えるvol.9 婦人科・乳腺外科 メディックメディア

成績評価の方法・基準

1. 定期試験：筆記試験80% 課題レポート20%
2. 課題レポート：母性看護に関するテーマを選択し、書籍および雑誌の総説あるいは研究論文等を読み、要旨とそのテーマに関する自分の考えを1200字～1600字程度（A4サイズ、Word）にまとめる。
表紙を付けること（テーマ・学籍番号・氏名）。読んだ文献および引用・参考文献リストを本文の後に必ず記載すること。
留意事項：テーマ・提出期限等はガイダンス時に提示する。
レポートは、要旨が簡潔にまとめられ、自分の考えが論理的に述べられていること。評価外として：①期限に提出がない ②1000字に満たない ③剽窃がある
3. 毎回の授業における20分以上の遅刻、早退は欠席とする。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・毎回の授業の学びについて、授業終了時にmanaba上でアンケートに記載し提出する。
- ・質問はオフィスアワーに直接来訪する、あるいはメールで問い合わせることも可能である。できる限り次の授業までにフィードバックします。
- ・小テストは定期試験前までに返却する。

担当教員からのメッセージ

ひとの生涯を通しての性と生殖に関する健康課題や健康問題を扱います。男性女性を問わず、みなさんも、実は母性看護学の対象になります。看護職の基本的知識として学ぶ内容ですが、患者さんのこととしてだけではなく、皆さん自身の今とこれから一生に亘る自分自身のからだ、こころ、性の健康課題としても、じっくり考えてほしいと思っています。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護学概論	410	2後	必	2単位 30時間	講義	水2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子	HOSOYA Takiko	t-hosoya●saku.ac.jp	5号館3階教員室			
佐藤美由紀	SATO Miyuki	m-sato●saku.ac.jp	5号館3階304			
鶴岡章子	TSURUOKA Shoko	s-tsuruoka●saku.ac.jp	5号館3階305			
藤井千里	FUJII Chisato	c-fujii●saku.ac.jp	1号館3階1323			
川口桂嗣	KAWAGUCHI Keiji	k-kawaguchi●saku.ac.jp	5号館3階1334			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
水曜日12：30－13：00及び放課後／						
授業の概要						
地域における看護活動の概念を、地域看護の対象と機能および活動の場から理解し、人々が地域生活の中で直面する健康問題を、個人・家族・地域の問題として解決・改善するプロセスと看護職の役割、それを支える制度と仕組みについて学ぶ。						
到達目標						
1. 地域看護職の活動する職場、役割と公衆衛生看護の歴史の流れを理解できる。 2. 人々の健康とライフステージ、生活の場、保健福祉サービスとの関連を理解できる。 3. 地域の人々の健康を維持し疾病や障害の発症や悪化を予防するための援助の方法を理解できる。 4. 地域ケアシステムを説明できる。 5. 地域における結核管理活動を理解できる 6. 学校保健、産業保健における看護活動を理解できる。 7. 地域診断の必要性、定義、実施方法を理解し、学生の居住地域について地域診断できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
看護実践能力の基盤を形成するための授業内容とする。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	＊地域看護学で何を学ぶか ①地域で活動する看護職の仕事と役割 ②在宅看護と公衆衛生看護 ③公衆衛生看護と予防 ③ポピュレーション・ハイリスクアプローチ ④プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション			講義	細谷	
2	＊地域看護活動の歴史と発展 ①公衆衛生看護の歴史 ②イギリス・アメリカの初期公衆衛生看護 ③日本の公衆衛生看護の歴史とその特徴			講義	細谷	
3	＊県と市町村の生涯にわたる保健福祉サービス ① 日本の社会保障制度 基本的人権、公的責任、権利擁護 ② 県と市町村の保健福祉サービス 保健師の職業倫理			講義	細谷	
4	＊地域看護学の対象：個人・家族の生活と集団・地域の健康 ①個人、家族、集団、地域の健康 ②地域の健康と支援 地域の様々な場における看護活動：			講義	川口	

5	＊在宅看護における訪問看護活動 ①在宅ケアの概念 ②在宅ケアの対象と援助 ③ 在宅ケア実施機関と職種 ④在宅療養者の事例	講義	藤井
6	＊在宅ケアと地域の看護活動 ①在宅ケア制度とシステム ②在宅ケアマネジメントと担う職種 ③在宅ケアにおける看護職の役割 地域看護の展開方法と地域看護職の支援方法	講義	鶴岡
7	＊地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう） ①地域域診断の必要性 ②地域診断の定義と目的 ③地域診断の方法	講義	佐藤(美)
8	＊地方自治体の保健計画と保健事業における地域看護職の役割 ①保健計画策定プロセス ②保健計画策定・実施事例	講義	細谷
9	＊市町村（行政機関）における看護活動 ①佐久市の保健師活動の実際	講義	佐久市健康 づくり課
10	＊地域における結核管理活動 ①結核とは ②なぜ今結核対策が必要か ③結核対策の実施方法	講義	細谷
11	＊ICF(国際生活機能分類)、地域の社会資源 ①ICFの概要 ②ノーマライゼーション	講義	細谷
12	＊事業所における産業保健活動 ①事業所における産業保健看護活動の実際	講義	産業保健師
13	＊学校保健における養護教諭の活動 ①小中学校の養護教諭の保健看護活動の実際	講義	養護教諭
14	＊医療機関における健康管理活動 ①健康管理部の看護職の役割と保健予防活動	講義	依田
15	わたしの住んでいる市・町・村の地域診断（グループワーク） ①地域診断課題の発表 ②地域の課題、強みのアセスメント	演習	佐藤(美)・ 細谷 川口

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容を事前にシラバスで見て、保健福祉行政論、生活習慣と健康などすでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。
授業後に、該当する内容を教科書や参考書で調べ、確認して、その都度確実な知識を積み上げていく。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：『公衆衛生看護学. Jp 第5版』インターメディカル社
参考文献：『国民衛生の動向』厚生労働統計協会
『国民の福祉と介護の動向 2020/2021』厚生労働統計協会
『最新保健学講座 1 公衆衛生看護学概論』メヂカルフレンド社

成績評価の方法・基準

- 筆記試験（80%） ■ レポート（10%）
- 授業参加状況（10%）

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験範囲はすべての講義内容とする。
地域診断のレポート課題は講義「地域特性と健康問題の把握（地元を知ろう）」において詳細を説明し、課題を演習の時間に発表し、意見交換することで学びを深める。

担当教員からのメッセージ

・12月―1月に学生各自の実家や居住地域の特性について、地域診断を実施するので、行政から各世帯に配布されている広報誌（人口構成、予算、行政方針、地域の社会資源が掲載されている）やパンフレットなどは情報源として役にたつので保管しておくとうい。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護研究方法	430	2後	必	2 単位 30時間	講義	木4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鈴木千衣 SUZUKI, Chie c-suzuki●saku.ac.jp 研究室 5号館3階307 武田貴美子 TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp 研究室 5号館3階310 中田覚子 NAKATA, Satoko s-nakata●saku.ac.jp 研究室 5号館2階208 二神真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami●saku.ac.jp 研究室 5号館2階210 佐藤有妃 SATOH, Yuki（司書） lib●saku.ac.jp 6号館図書館						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○ 鈴木千衣 武田貴美子 中田覚子 二神真理子						
オリエンテーション時にお知らせします。						
*オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
看護研究の意義を理解し、看護研究論文を今後の学修活動や看護活動に生かすための基礎的な能力（看護文献の検索方法の理解、文献を正しく読み取る力）を養う。さらに、看護研究のプロセス（テーマの抽出、研究方法、分析、まとめ、発表方法）を理解し、学生自身の関心事をもとに、文献検討し、テーマの抽出を行い、事例研究の研究計画書の作成を経験する。						
到達目標						
1. 看護研究の意義を理解し、看護研究論文の活用の重要性がわかる。 2. 文献活用の基本的な能力として、文献の検索方法を理解するとともに、文献を正しく読み取る（目的、意義、方法、結果結論、強調点、長所、短所）ことができる。 3. レポートの記載にあたって、文献の用い方を正しく理解できる。 4. 看護研究の一連のプロセスがわかる。EBN実習を通して、興味を持った看護現象から、明らかにしたい疑問を抽出し、さらに文献検討を通してResarch qestionを導き出すことができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
専門職として必要な「学問を深め真理を探究していく態度・能力」身につける授業科目であり、また「看護実践能力の基盤」にも関連します。（GP5）						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1	コースオリエンテーション／研究とは、看護研究とは、看護研究の必要性和意義			講義	鈴木	
2	文献活用1（文献の活用の意義、文献の種類／研究論文の構成）			講義	鈴木	
3	文献活用2（文献を検索してみよう① 文献検索の方法）			講義	佐藤	
4	文献活用3（文献の整理方法と実際、文献カードの作成）			講義	二神	
5	文献活用4（文献を読む①;クリティーク①）			講義 演習	武田	
6	文献活用5（文献を検索してみよう②）			講義 演習	佐藤	
7	文献活用6（文献を読む①;クリティーク②）			講義 演習	武田	

8	看護研究の実際1(看護研究の意義と必要性／研究のプロセス／研究疑問と研究方法)	講義	鈴木
9	看護研究の実際2（Research quwstion を明らかにしよう）	講義 演習	鈴木他
10	看護研究の実際3（看護研究の方法－事例研究を中心に－）	講義	鈴木
11	看護研究の実際4（Research quwstion を明らかにしよう）	演習	鈴木他
12	看護研究の実際5(研究計画書の書き方1)	講義	中田
13	看護研究の実際6（Research quwstion を明らかにしよう）	演習	鈴木他
14	研究と倫理	講義	二神
15	研究論文の書き方／発表のしかた	演習	中田
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習：テキストの関連事項を読み、毎回30分の予習をしましょう。わからないところについては、目印をつけておいて、授業内に疑問を解消すること。		復習：配付した資料には目を通して、重要事項はノートにまとめておきましょう。	
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：坂下玲子，宮芝智子，小野博史(2016)．系統看護学講座別巻 看護研究．医学書院。 参考文献：早川和生編著(2012)．JJNスペシャル 看護研究の進め方 論文の書き方 第2版．医学書院。 齊藤裕之，佐藤健一編(2010)．JJNスペシャル 医療者のための伝わるプレゼンテーション．医学書院。			
成績評価の方法・基準			
下記の基準を参考にしてください。 1．小テスト(30%) 2．課題 55% 各自研究計画書を作成し提出する。 3．グループワークへの参加状況の振り返りによる自己評価(15%) 本授業を通して、自分のGWへの参加度を15点満点で評価します。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際には、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。 試験等の結果は、問い合わせが可能です。			
担当教員からのメッセージ			
授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。 文献を読むことは、これからの学修にとって基本です。文献の活用の仕方をよく学んで、他の授業にも活用できるようにしましょう。さらに、この授業は、4年生の看護学研究（卒業研究）につながる授業です。しっかり、看護研究のプロセスを理解し、4年生に繋げてください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

看護学部 3 年次配当科目

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護援助論Ⅱ（回復・慢性期）	362	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金1, 金2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡恵 YOSIOKA, Megumi m-yoshioka●saku.ac.jp 5号館2階210 水野照美 MIZUNO, Terumi、 t-mizuno●saku.ac.jp 5号館2階203 松下由美子 MATSUSHITA, Yumiko y-matsushita●saku.ac.jp 5号館3号館教員室 阿藤幸子 ATO, Sachiko s-ato●saku.ac.jp 5号館2階209 喜多村定子 KITAMURA, Sadako s-kitamura●saku.ac.jp 5号館2階207 塩入とも子 SHIOIRI, Tomoko t-shioiri●saku.ac.jp 5号館2階助手室 櫻井真智子 SAKURAI, Machiko m-sakurai●saku.ac.jp 5号館2階助手室 桐生由美子 Yumiko, Kiryu y-kiryu●saku.ac.jp 5号館2階助手室 成田千春 NARITA, Chiharu c-narita●saku.ac.jp 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の授業終了後などに、講義室または各担当教員の研究室で面談 質問ならびに面談の予約は、メールにて受けます						
授業の概要						
成人看護援助論Ⅰを踏まえて、成人期における健康障害を有する対象とその家族に対する援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。成人期において発症しやすい、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの疾患に対する看護を理解し、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 各種機能（呼吸・循環・代謝・脳神経・運動・感覚・腎・消化・生体防御・造血）障害が生命や生活へ及ぼす影響と回復・慢性期の成人とその家族の身体的及び心理・社会的反応を理解し、説明できる。 2. 各種機能障害をもつ回復・慢性期の成人の生命と生活を支える看護について、看護過程を用いて考察し、必要な援助を述べることができる。 3. 演習と事前事後の学習を通して、機能障害をもつ患者に必要な看護技術の一部ができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ、成人期における健康障害を有する対象者とその家族に対する看護展開を実施していくための授業科目である。また、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連している。（DP6）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-3	オリエンテーション 呼吸機能障害(慢性閉塞性肺疾患、肺炎など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	吉岡 吉岡・塩入 外部講師			
4-6	循環機能障害(高血圧、心筋梗塞、心不全など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	吉岡・阿藤 外部講師			
7-8	看護過程(基本情報、情報の整理)進捗状況の確認、共有、指導	演習	全員			
9-10	腎機能障害(腎臓病、透析など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	喜多村・吉岡			
11-12	看護過程(関連図)進捗状況の確認、共有、指導	演習	全員			
13-14	代謝機能障害(糖尿病など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	外部講師			
15-16	運動機能障害(変形性関節症など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	松下・櫻井			
17-18	造血機能障害(白血病など)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	外部講師			
	看護過程(看護計画)進捗状況の確認、共有、指導	演習	全員			
19-20	消化機能障害(肝硬変、大腸がんなど)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	喜多村・阿藤			
21-23	脳神経(脳梗塞など)・感覚機能障害(メニエールなど)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	講義・課題	水野・吉岡			
24-27	技術演習（周手術期ケア・吸引・心電図・血糖測定など）を通じて各項の実際を学ぶ	演習	櫻井・吉岡			
28-29	技術演習の振り返りと実習オリエンテーション 生体防御機能障害(アレルギーなど)をもつ患者とその家族への看護を学ぶ	演習 講義・課題	全員 水野			
30	機能障害(腎臓病など)とともに生きる成人の生活と必要な看護を学ぶ	講義	外部講師			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
1. 到達目標 1 への対応（各種機能障害）（1時間×12回＝12時間程度）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト等を読み予習をしてから授業に臨みましょう。各種機能障害に関連した形態機能学や健康障害と治療、フィジカルアセスメントなどの既習範囲を予習しておく、課題（授業前の既習内容確認など）に役立ち、当日の授業の内容の理解が深まります。 ・課題が返却されたら、理解度を確認して学習方法を振り返り、その課題を具体化して、実習準備につながるようにしていきましょう。定期テストにも役立てましょう。 ・模擬体験は、患者・家族の生活体験・気持ちの理解を深めて、看護を考えることを目指しています。率直な感想を書き留めて、学生同士で共有しましょう。患者の生活のつらさを感じ、看護の役割を考えるきっかけになります。
2. 到達目標 2 への対応（事例展開演習）（16時間程度）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種機能障害のコマの4～5月は「情報収集・アセスメント」、6月は「関連図」、6～7月は「看護計画」に焦点を当てた事例解説をします。この事例解説は、「個人レポート」作成へのヒントです。予復習として実際に書いてみると、さまざまな機能障害患者の病態が頭に入るので、「個人レポート」作成や実習時に活用できます。 ・事例をグループに分かれて記録用紙に沿って看護展開します。グループワークは事前に各自で課題に取り組み、それを持ち寄り空き時間などに検討します。グループワークで検討したことを参考に、個人でまとめ、レポートとして提出してください。
3. 到達目標 3 への対応（技術演習）（2時間程度）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に配付される課題に取り組み、技術演習へのシミュレーションをしておきましょう ・技術演習では、領域別実習において必要な事前学習を振り返り、自分が実習で技術を実施することを意識して丁寧に取り組みましょう。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等	
テキスト：鈴木久美他(2019)．慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 改訂3版．南江堂． 参考文献：浅野浩一郎ら(2019)．系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器．医学書院． 吉田俊子ら(2019)．系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器．医学書院．	
成績評価の方法・基準	
1. 定期試験：30％ 2. 小テストまたは、課題(各機能障害で)：40％ 3. 看護過程の個人レポート：20％ グループワークで学んだ事例の看護過程を、記録用紙に沿って、各自でまとめて提出します。 4. 周術期・慢性期看護演習成果(準備・実践・振り返り)：10％	
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	
定期試験の結果についての問い合わせには応じます。定期試験問題の開示は致しません。 講義前課題や小テストを実施した場合は、講義中に解説します。 看護過程の記録は、コメントし返却します。グループワークは担当教員の指導を受けながら進めましょう。	
担当教員からのメッセージ	
領域別実習・国家試験・将来の臨床実践に大変関わりのある広い範囲と深い内容を持つ科目です。 応用的思考が必要となりますので、各自で既習科目の内容が身についているか確認しながら学びましょう。 質問や相談は、事前にアポイントをとると確実です。	
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）	

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
老年看護援助論	371	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	月4, 月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小野美香子 ONO, Mikako m-ono@saku.ac.jp 1号館3階1323 安川揚子 YASUKAWA, Yoko 5号館3階302						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
質問ならびに面談の予約は、随時メールにてご連絡ください。						
授業の概要						
加齢に伴う特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法等を学び、高齢者及びその家族を対象とした看護援助の方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。 また、様々な健康レベルにある高齢者についての理解を深め、効果的な看護を展開するための知識・技術・態度を修得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化および老年期に多い疾患や症候、治療・看護を説明できる。 2. 高齢者および家族の「できる能力(強み)」に着眼し、その人らしく生きることを支える看護過程を展開できる。 3. 高齢者の治療・療養の場の特徴、その場における看護の役割について説明できる。 4. 高齢者の尊厳と意思を尊重した「人生の最終段階におけるケア」について、自分の考えを説明できる。 5. 高齢者とその家族を取り巻く環境および倫理的課題について検討することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護職として必要な「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」や「看護実践能力の基盤」とも関連する。(DP1, DP3, DP6)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	科目ガイダンス 高齢者の理解：加齢に伴う変化 身体機能、認知機能、心理・社会的変化による生活への影響について復習する	講義	小野			
2	高齢者の生活を支える看護：活動と休息／睡眠 運動機能、廃用症候群、活動と休息、睡眠のケアについて学ぶ	講義	小野			
3	高齢者の生活を支える看護：食生活 食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養や食生活のケアについて学ぶ	講義	小野			
4	高齢者の生活を支える看護：排泄 排泄機能について復習し、高齢者の排泄機能の特徴とケアについて学ぶ	講義	小野			
5	高齢者の生活を支える看護：清潔・皮膚／感染症 皮膚の加齢変化、褥瘡、感染症の原因とそのケアについて学ぶ	講義	小野			
6	治療を受ける高齢者の看護：入院・退院 入院に伴う生活・環境の変化、退院支援について学ぶ	講義	小野			
7	治療を受ける高齢者の看護：診察・検査／手術療法 診察・検査・手術を受ける高齢者のケア、合併症予防について学ぶ	講義	小野			
8	治療を受ける高齢者の看護：薬物療法・放射線療法・化学療法 薬物動態、各種療法の有害事象と治療に伴う安全安楽なケアについて学ぶ	講義	小野			
9	治療を受ける高齢者の看護：リハビリテーション 経過別リハビリテーションについて学ぶ	講義	小野			

10	高齢者の治療と看護：リスクマネジメント 高齢者に起こりやすい事故が生じる原因とそのケアについて学ぶ	講義	安川
11-13	高齢者に特有な疾患と看護：認知症・うつ病・せん妄 認知症の病態や症状、ケアについて学ぶ。うつ病やせん妄とケアについて学ぶ	講義	小野
14	高齢者に特有な疾患と看護：パーキンソン病、パーキンソン症候群 パーキンソン病の病態や症状、ケアについて学ぶ	講義	小野
15	高齢者の生活を支える看護：家族への看護・倫理的課題 高齢者と介護する家族を包括的に捉える支援について学ぶ	講義	小野
16	高齢者の生活を支える看護：介護保険施設・地域密着型サービス 各施設やサービスの特徴や看護の役割について学ぶ	講義	小野
17	高齢者の生活を支える看護：人生の最終段階におけるケア 臨死期にある高齢者とその家族への看護、多職種連携について学ぶ	講義	安川
18	老年看護における家族支援： 高齢者を介護する家族の思いについて学ぶ	講義	特別講師
19-30	老年看護過程の展開 生活機能からみた老年看護過程	講義・演習	全員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習：科目ガイダンス時に、各授業におけるキーワードを提示する。調べたこと、学習したことは、科目ガイダンス時に配布する「事前学習用紙」に記載し、該当授業時に提出する。</p> <p>また、各授業内容の該当箇所について、教科書を精読し、重要なところはマーカーで印をつけ、疑問や意見は付箋をつけて授業に臨む。</p> <p>復習：授業内で配布したレジュメ・資料をもとに、教科書を精読したうえで、重要事項をノートにまとめ整理する。</p> <p>さらに、予習時の疑問は解決したのかを確認する。新たな疑問やわからないことは、オフィスアワーを活用して質問する。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>テキスト：堀内ふき他(2017)．高齢者の健康と障害．第5版．メディカ出版 堀内ふき他(2017)．高齢者看護の実践．第4版．メディカ出版 奥宮暁子他(2019)．ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程．第2版．医歯薬出版 日本老年学会編(2019)．改訂版 健康長寿診療ハンドブック．第2版．メジカルビュー社</p> <p>参考文献：山田律子他(2020)．生活機能からみた老年看護過程．第4版．医学書院 岩田充永(2010)．高齢者救急—急変予防&対応ガイドマップ．医学書院 鈴木みずえ(2017)．認知症の看護・介護に役立つ よくわかるパーソン・センタード・ケア．池田書店 本田美和子他(2014)．ユマニチュード入門．医学書院 水野裕(2008)．実践パーソンセンタードケア．ワールドプランニング</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1) 筆記試験 (60%) 2) 看護過程 (30%) 3) 事前学習・授業レポート (10%)</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
レポート・提出物は、提出から2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
担当教員からのメッセージ			
<p>詳細なスケジュールは初回授業で説明します。</p> <p>老年期にある人は、さまざまなライフステージを経て「今」を生きています。既習のすべての学びを統合しながら学びましょう。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護援助論	381	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	金4, 金5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako : m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階204 坂江千寿子 SAKAE, Chizuko : chi-sakae●saku.ac.jp 5号館3階309 東 修 AZUMA, Osamu : o-azuma●sau.ac.jp 1号館3階1318 井手段幸樹 ITEDAN, Kouki : k-itedan●saku.ac.jp 1号館3階1334 林 裕枝 (HAYASHI, Hiroe) : hiro-hayashi●saku.ac.jp 1号館3階1321						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
オフィスアワー ・原則、授業日の授業終了から放課後 連絡先と連絡方法 ・連絡先は上記参照 ・質問は、メールでもよい（常時） ・オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能である						
授業の概要						
精神障害のある方の生活を理解するとともに、精神障害の病態と徴候、症状、経過、治療法等を学び、精神の健康上の問題に直面している方とその家族に対する看護援助方法並びに援助技術、対応方法について看護過程を展開しながら学ぶ。また、精神障害のある方やその家族とのかかわり方など、効果的な看護を展開するための技術を習得し、実践へつなげていく。						
到達目標						
1. 精神科看護における看護師の役割やコミュニケーション技術を理解し説明できる。 2. 精神医療保健福祉に関連する法的根拠を基に、精神科看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 3. 精神症状による患者の状態をセルフケアの視点からアセスメントし、その人の生きる力を支える援助について理解できる。 4. 患者家族が受ける影響を理解し、家族支援について説明できる。 5. 事例を用いて対象者の看護過程を展開できる。 6. 対象者が地域で生活するために必要とされる支援と課題について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を身につける講義・演習の授業科目であり、「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」に発展する。（DP1, DP3, DP6）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コース オリエンテーション・心の働きと精神症状・状態像について学ぶ	講義	柿澤			
2	精神障害をもつ人と「患者－看護師関係」の構築について学ぶ	講義	柿澤			
3	「患者－看護師関係」の構築：演習	演習	全員			
4	精神疾患／障害をもつ患者の看護を学ぶ①：双極性障害・うつ病	講義	井手段			
5	小テスト①／双極性障害・うつ病：演習	演習	全員			
6	精神疾患／障害をもつ患者の看護を学ぶ② 強迫性障害・摂食障害・パーソナリティー障害・強度行動障害	講義	柿澤			
7	強迫性障害・摂食障害・強度行動障害：演習	演習	全員			
8	精神疾患・障害をもつ患者の看護を学ぶ③：物質関連障害および嗜癖性障害群	講義	柿澤			
9	アルコール依存症・パーソナリティー障害：演習	演習	全員			
10	精神疾患・障害をもつ患者の看護を学ぶ④：統合失調症	講義	東			
11	小テスト②／統合失調症：演習	演習	全員			
12	精神科病棟における安全について学ぶ	講義	東			
13	精神に障害をもつ人の理解を深める：当事者のメッセージから	講義	特別講師			
14-22 (15)	精神障害をもつ人への看護援助の展開を学ぶ：事例を用い看護過程を展開する 小テスト③	講義・演習	全員			

23	精神科看護と倫理的課題について学ぶ 精神科看護と倫理的課題	講義	坂江・井手段
24	精神科看護と倫理的課題：演習	演習	全員
25	小テスト④／精神障害をもつ人とともに生活する家族とその支援について学ぶ	講義	東
26	精神障害をもつ人の地域における生活への支援を学ぶ ①福祉に視点をあてる	講義	特別講師
27	精神障害をもつ人の地域における生活への支援を学ぶ ②病院と地域をつなぐ	講義	柿澤
28	精神障害をもつ人の地域における生活への支援を学ぶ ③精神科訪問看護	講義	特別講師
29	小テスト⑤／ 精神科看護と精神看護学実習（実習に関するオリエンテーション含む）	講義	柿澤
30	災害時のこころのケアについて学ぶ	講義	特別講師

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【予習】

- ・テキストの当該授業の関連箇所を読み、重要なところにはマーカーをし、理解できないところには付箋を付け、授業内で疑問を解決する。理解が不十分な場合は、オフィスアワーやメールを活用し疑問の積み残しをしない。
- ・図書館＞OPACトップページ＞映像配信サービス【VISUALEARN CLOUD】＞医学＞精神疾患・障害の基礎知識を視聴し、疾患・障害に関する既習の知識の確認をして授業に臨む。
- ・演習はチーム学習やディスカッションの時間である。各自が責任を持って課題に取組み、積極的に授業に参加する。
- ・初回授業のコースオリエンテーションにて、授業毎の課題は別途提示する。

【復習】

- ・授業をふりかえり、重要事項をノートに工夫してまとめる。また、課題等を加筆修正する。

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等

テキスト：

- 岩崎弥生 編(2019). 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社.
 岩崎弥生 編(2019). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.

参考文献：

- 浅香山病院看護部 編. はじめての精神科看護－カラービジュアルで見てわかる！. メディカ出版.

成績評価の方法・基準

1. 筆記試験（50%）
manabaを用いて小テストを5回行う。（配点は、各回10点。）
定期試験・追試験は原則実施しない。
2. 提出課題（45%）
1) 看護過程の展開（40%）；授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。
2) 倫理的課題の検討（5%）；授業内で課題内容、評価方法、提出期限、提出先を示す。
3. 演習におけるチームに対する貢献度（5%）
チームへの貢献度をピア評価する。チーム学修の最終回に評価票に基づき各自評価する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・小テストはmanabaを利用する。
- ・提出課題については、原則コメントを記述して返却する。

担当教員からのメッセージ

既習の知識を活用し、特に「人間心理と人間行動」「人間関係とコミュニケーション」「健康障害と治療Ⅲ」「社会福祉学」「看護展開論」「精神看護学概論」をベースに、知識をより深め、看護実践能力を身につけましょう。演習では、事例を用いて、チームで対応やかかわりについて深めます。積極的な授業参加を求めます。

実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
小児看護援助論	391	3前	必	2 単位 60時間	講義 演習	火 1, 火 2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○鈴木千衣 SUZUKI, Chie c-suzuki●saku.ac.jp 研究室 5 号館 3 階 307 小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi m-kobayashi●saku.ac.jp 研究室 5 号館 2 階 201 橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi y-hashimoto●saku.ac.jp 研究室 5 号館 3 階 308 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya t-ishizaka●saku.ac.jp 研究室 1 号館 3 階 1334						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○鈴木千衣 毎週火曜日 12：10 ～ 12：50（研究室） 小林 睦 毎週水曜日 14：40 ～ 16：10（研究室） 橋本佳美 毎週水曜日 14：40 ～ 16：10（研究室） 石坂俊也 毎週水曜日 14：40 ～ 16：10（研究室） 質問は、メールでもお待ちしております（常時）。オフィスアワー以外の面談の予約もメールで可能です。						
授業の概要						
健康な小児各期の特徴に応じた生活と養護について理解した上で、健康障害が子どもの成長発達や家族に及ぼす影響を学ぶ。さらに、健康障害をもつ子どもの健康上の問題をアセスメントし、子どもと家族を援助するために必要な知識・技術を修得する。						
到達目標						
1. 子どもや家族がおかれた状況（苦痛を伴う処置や入院）を考慮し、子どもや家族の反応からその思いを理解できる。 2. 子どもと家族のもっている力を引き出すための援助方法が考えられる。 1) 子どもと家族の状況を把握するための情報収集の方法が理解できる。さらに、それを基に収集した情報をアセスメントして援助方法が考えられる。 2) 子どもと家族が自身の思いや考えを表出することができるような方法を理解できる。 3. 子どもと家族の力を育てるために、健康教育や治療への参加などの援助方法を理解できる。 4. 医療における子どもや家族の権利を考え、権利を擁護する重要性和方法が考えられる。 5. 自主的に学修する態度を身につける。 6. 学生同志グループとなって、自己の役割を理解し、協働しながら学修が進められる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践の能力の基盤」「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身につける授業科目であり、また「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「様々の領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関連します。（DP3, DP5, DP6						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1・2	オリエンテーション／子どもと健康障害	講義	鈴木			
3・4	子どもと入院／症状と子どもの看護	講義	鈴木 小林・石坂			
5・6	子どもと外来看護① / 治療・検査を受ける子どもの看護	講義	鈴木 小林			
7・8	小児のアセスメント①／ハイリスク児の看護	講義 演習	鈴木 小林			
9・10	看護技術演習オリエンテーション（自己学修）／アセスメント	演習 自己学習	石坂他			
11・12	看護技術 / アセスメント	講義 自己学習	石坂他			
13・14	手術を受ける子どもの看護／子どもと外来看護②	講義・演習	小林 小林他			
15・16	病児と遊び①②	講義	特別講師			

17・18	子どもと外来看護（チームスで）／プレパレーションと患者・家族への指導	演習	小林 鈴木
19・20	障害児と看護①②	講義・演習	橋本他
21・22	小児のアセスメント(事例展開)／小児と救急	講義	鈴木 小林
23・24	子どもと虐待／小児看護の動向と課題	講義・演習	橋本 特別講師
25・26	病気とともに生活する子どもの看護／障害児と教育	講義	鈴木 特別講師
27・28	子どもと死　／障害児の在宅支援	講義・演習	鈴木 特別講師
29・30	発表：プレパレーションと患者・家族への指導	講義	鈴木他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
予習： ①テキストの関連箇所を読み、毎回 30 分の予習をしましょう。重要などころには、マーカーで印をつけておくこと。また、十分理解できない箇所には付箋をつけておいて、講義の中で疑問を解決できるようにしましょう。講義を聞いてもわからない箇所は、授業終了後、あるいはオフィスアワーの時間に質問してください。疑問を積み残さないようにしましょう。		復習 ①授業で配付したレジメ・資料を基に、もう一度テキストの関連箇所を読んで、ノートの重要必要事項をまとめてください。 ②自己学習・グループワークの時間も授業内に設けていますが、学習の時間は授業外でも必要になります。うまく時間調整して行ってください。	
＊2種類のワークブックを配付します。復習予習の参考にしてください。また、文献リストには、看護技術のDVDの紹介も行っていますので、それらを用いて自己学習を進めておいてください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
考書：小児看護学概論で購入したものを使用してください。 参考文献：小児看護技術に関する文献は、小児看護概論で配付した「文献リスト」の中でいくつか紹介してあります。自分が一番見やすいものを購入してください。			
成績評価の方法・基準			
1．筆記試験　（50%） 全範囲から出題をします。合計点の50%を評価の対象とします。 2．課題（35%） レポート課題は3題あります。初回のオリエンテーション時に課題内容、提出締め切り、提出先をお知らせします。他の科目の課題の提出期限も考慮して、計画的に課題を行ってください。レポート点は各10点です。課題3のプレゼンテーションに対する自己評価5点です。 4．外来と看護のパフォーマンス　（15%） グループで事例をもとに、外来看護におけるトリアージを行ってもらいます。そのパフォーマンスを採点します。成果物評価10%及び自己評価5%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関するご質問は、授業終了時、オフィスアワー時に受け付けます。これ以外の時間に研究室をお訪ねの際には、必ずメールでアポイントを取ってください。また、メールで問い合わせてください。メールあるいは直接お会いしてコメントいたします。課題のレポートについては原則コメントを書いて返却いたします。 試験等の結果は、問い合わせが可能です。			
担当教員からのメッセージ			
授業の詳細は、初回のオリエンテーションで説明します。小児看護学概論のオリエンテーション時に配付した「レポートの書き方」「小児看護学　参考文献リスト」を初日に忘れずに持参してください。 小児看護学概論をよく復習しておいてください。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			
本科目を担当する全教員は小児看護の臨床経験を有しており、実践を生かした授業を行う。			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
母性看護援助論	401	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	木1, 木2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○櫻井綾香 SAKURAI Ayaka a-sakurai●saku.ac.jp 5号館2階207						
中田覚子 NAKATA Satoko s-nakata●saku.ac.jp 5号館2階208						
湯本敦子 YUMOTO Atsuko a-yumoto●saku.ac.jp 5号館3階301						
柴田香菜子 SHIBATA Kanako 他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後、教室で質問を受け付ける。 ＊オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能。						
授業の概要						
妊娠、分娩、産褥期の生理及びその生活上の課題を理解し、正常と異常の判別、障害の病態と治療法等を通して、母性とその家族を対象とした看護援助方法並びに援助技術について看護過程を展開しながら学ぶ。また、母性特有の健康障害、その症状や徴候、経過、検査、治療法等について学習し、必要な看護法や技術を学習し、効果的な看護を展開するための方法を習得し、実践へつなげていく力を養う。						
到達目標						
1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の身体的・心理社会的・生理的变化を説明できる 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の正常経過からの逸脱時の診断・治療・看護について説明できる 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期に特有の基礎的な看護技術を習得できる 4. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族の変化を全体像を捉えてアセスメント・計画立案できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
母子とその家族に関わる看護職として必要な「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」となる力を身に付ける授業科目である。（DP3）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1 2 3 4 5	オリエンテーション 母性看護過程の特徴 妊娠の基本知識と妊娠の維持・胎児発育のための生理的变化 受精、着床、胎児、胎盤、ホルモン環境変化について説明できる 妊娠経過に伴う母体の全身変化と妊娠期各期の心身の特性 妊娠に伴う心身の変化、家族の変化について説明できる 妊婦の健康状態をアセスメントする為に必要な情報 妊婦健康診査および妊婦の基本的ニーズの変化とその支援方法について説明できる 妊娠中に起こりえる正常からの逸脱と看護 妊娠中における異常とその要因、看護について説明ができる	講義	櫻井			
6	妊娠期 事例を用いた看護過程の展開 【課題あり】 妊娠期のアセスメントの実際を理解できる	講義 演習	櫻井			
7 8	産婦・胎児の健康状態をアセスメントする為に必要な情報 分娩期のアセスメントに必要な用語、分娩の3要素、分娩機転について説明できる 正常分娩の経過と産婦・胎児のアセスメントの視点と看護 分娩が母児に及ぼす影響、母児の状態が分娩に及ぼす影響と正常な分娩経過への援助について説明できる 分娩中に起こりえる正常経過からの逸脱と看護 分娩中における異常とその要因、看護について説明できる 産科処置時の看護について説明できる	講義	湯本			
9 10 11 12 13 14 15 16	【中間試験 妊娠期・分娩期】 （出題範囲 1～8回講義内容）（45分） 産婦の健康状態をアセスメントする為に必要な情報と健康課題への支援 産婦の心身の変化とその看護について説明できる 母乳育児支援 乳汁分泌メカニズム、母乳育児が母子に及ぼす影響について説明できる 母乳育児支援へのアセスメント視点と看護について説明できる 産褥中に起こりえる正常からの逸脱と看護 産褥中における異常とその要因、看護について説明できる	講義	中田			

17	新生児の健康状態をアセスメントする為に必要な情報と健康課題への支援 新生児の体外生活への適応過程とその看護について説明できる 早期新生児の生理的変化と病理について説明できる	講義	中田
18 19 20 21 22 23	産褥期・新生児期 事例を用いた看護過程の展開 【課題あり】 DVDから情報収集をし、情報を整理することができる 産褥期・新生児期のアセスメントの実際を理解できる 看護計画を立案できる	講義 演習	中田
24 25 26 27	妊娠期の看護技術演習 腹囲・子宮底の測定、レオポルド触診法、胎児心音聴取法を習得できる 妊婦体験を通じて、妊婦の日常生活行動の実際を知る 産褥期・新生児期の看護技術演習 産褥期の看護技術（乳房・子宮退縮・外陰部・肛門部及びその周囲の観察）、 新生児期の看護技術（全身の観察、沐浴）を習得できる	演習	櫻井 中田 湯本 柴田 西沢
28	帝王切開術を受ける女性の看護・低出生体重児の看護 帝王切開術時の看護を説明できる 低出生体重児の特徴、看護を説明できる	講義	湯本
29 30	産褥期の看護計画の発表および看護計画の評価方法 記述したアセスメントを基に、情報のつながりを理解でき、全体像を捉えら れる 実習オリエンテーション	講義 演習	中田
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
毎回の授業内容について、テキストの該当箇所を予習・復習すること（30分～1時間） そのほか、以下の課題を課すので、計画的に学習すること。課題については初回に提示します。 〈妊娠期〉 ①自分の食生活の振り返り ②妊娠期の看護過程 〈産褥期・新生児期〉 ①産褥期・新生児期の看護過程 〈看護技術演習〉 ①演習前に、指定するテキストの該当箇所を熟読し、技術手順書に必要事項を書き入れ、技術ができるように予 習すること。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：森恵美編．系統看護学講座 母性看護学各論，医学書院。 荒木奈緒，中込さと子，小林康江編．ナースングラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術．メディカ出版。 参考文献：井上裕美，竹内正人，木村正，他．病気がみえるVol.10 産科．MEDIC MEDICA. 有森直子編．母性看護学Ⅱ．医歯薬出版株式会社。 大平光子．母性看護学Ⅱ マタニティサイクル，南江堂。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験 75% ①中間試験は再試験を実施しない。 ②看護技術演習は必ず出席すること。 2. 課題評価 25% ①指定された提出時間を厳守すること。やむを得ない事情により提出が遅れる場合は、事前に教員に相談すること。 事前の連絡なく、課題の提出が遅れた場合は評価の対象としない。 ②指定された用紙を使用すること（必要な用紙は、該当する授業日に配布する） ③表紙（科目名、課題名、提出日、学籍番号、氏名）をつけて提出する。ただし、教務課の表紙は不要。 ④レポートの最後には使用した文献（引用文献、参考文献）を必ず明記すること。 ⑤レポートはすべて手書きとする。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
課題については、ルーブリック評価表で評価し返却する。			
担当教員からのメッセージ			
・学習内容が多岐にわたりますので、必ず予習・復習を行ってください。 ・本科目で妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の一連の流れが分かると、実習での学びが深まります。 ・実習へ向けて、計画的に学習しましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名		授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅰ（在宅看護）		411	3前	必	2単位 60時間	講義 演習	水1, 水2
担当教員（○印＝科目責任教員）							
○鶴岡 章子	TSURUOKA, Shoko	s-tsuruoka●saku.ac.jp	5号館3階305				
藤井 千里	FUJII, Chisato	c-fujii●saku.ac.jp	1号館3階1323				
坂江 千寿子	Chizuko, Sakae	chi-sakae●saku.ac.jp	5号館3階309				
安川 揚子	YASUKAWA, Yoko	y-yasukawa●saku.ac.jp	5号館3階302				
嶋崎 八恵子	SHIMAZAKI, Yaeko	y-shimazaki●saku.ac.jp	1号館1階1321				
オフィスアワー／連絡先と連絡方法							
授業終了後30分間、教室または研究室 質問および面談の予約はメールで受け付けます。							
授業の概要							
地域で疾病や障がいを抱えて生活する個人とその家族の希望や強みに寄り添って看護を展開する方法を、制度や医療機関及び地域の仕組みと関連させて理解する。さらに、訪問看護師を含む在宅ケアチームにおけるケアマネジメント、多職種連携と看護師の役割、必要なサービス資源開発の方向性等、地域ケアシステムと在宅看護の関連性について学ぶ。							
到達目標							
1. 在宅看護が必要とされる背景、歴史、基盤となる制度、ケアシステムなどについて説明できる。 2. 在宅看護の対象である療養者とその家族の特徴について理解し、生活の場で行われる看護の役割について説明できる。 3. 保健・医療・福祉を中心とした多職種との連携および看護の継続性について説明できる。 4. 在宅看護の展開に必要な看護技術を理解し、在宅療養者とその家族に向けた適切な看護援助の基本を修得する。							
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連							
・多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力 (DP1) ・地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力 (GP4)							
授業計画							
回数	授業内容				授業方法	担当教員	
1	科目オリエンテーション、在宅看護の目的と特徴、在宅看護が求められる背景				講義	鶴岡	
2	在宅看護の対象理解①				講義	鶴岡	
3	在宅看護の対象理解②				講義	鶴岡	
4	在宅看護に関する制度①（訪問看護の歴史と現行の制度）				講義	藤井	
5-6	在宅看護に関する制度②（介護保険制度と地域包括ケアシステム）				講義	藤井	
7	在宅ケアマネジメントとケアマネージャーの役割、多職種連携				講義	鶴岡	
8	在宅看護における看護師の役割				講義	藤井	
9-10	訪問看護の実際				講義	外部講師	
11	家族介護の実態と家族への支援				講義	鶴岡	
12	介護保険の実際（地域包括支援センターの活動）				講義	外部講師	
13	在宅看護における看護過程の展開方法、紙面事例の紹介				講義	藤井	
14	在宅看護におけるアセスメント、関連図				講義 演習	藤井	

15-17	訪問看護事例の展開（アセスメント、関連図、看護の焦点化）	演習	在宅教員
18-19	訪問看護事例の展開（看護計画立案、実施、評価）	演習	在宅教員
20	在宅における終末期ケアの実践（在宅での看取りとグリーフケア）	講義	安川 （老年）
21	在宅看護技術① 初回訪問（訪問マナー、バイタルサイン測定を含む）	講義 演習	藤井
22	在宅看護技術② フィジカルアセスメント	講義 演習	藤井
23-24	在宅看護技術③ フットケア	講義 演習	坂江 （精神）
25-26	在宅看護技術④ 呼吸の援助 / 在宅酸素療法と在宅補助換気療法	講義 演習	外部講師
27-28	在宅看護技術⑤ 訪問時のマナー、フィジカルアセスメント 相手の価値観や性格を理解するための質問力・効果的な傾聴力	演習	在宅教員
29	在宅高齢者（療養者）の健康維持・増進のための支援	講義	鶴岡
30	在宅・地域看護学実習について	講義	藤井
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 授業内容に合わせて、事前にテキストの当該箇所を読み予習をする。他科目で学修した事項は確認しておく。 わからない箇所について印をつける（1時間）。授業内に疑問を解消する。 2. 授業後、レジュメや資料を基に、授業内容について復習する。重要事項をノートに工夫して整理する（1時間）。 3. 演習内容は在宅看護実習に必要な看護技術であるため、根拠をふまえて実施できるように準備しておく（2時間）。 4. 提示するレポート課題は、テーマに関連する体験記、新聞記事、雑誌、文献、学生自身の体験などをとおして 学修を深め、レポートを作成する（各5時間）。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：河原加代子他(2019)．在宅看護論，医学書院． 参考文献：石垣和子他(2017)．在宅看護論，南江堂． 臺有桂他(2019)．在宅看護論① 地域療養を支えるケア，メディカ出版． 臺有桂他(2019)．在宅看護論② 地域療養を支える技術，メディカ出版． 正野逸子他(2014)．在宅看護過程，メヂカルフレンド社． 他、授業内で紹介する。			
成績評価の方法・基準			
・筆記試験（60％） ・看護過程/演習時ワークシート（30％） ・レポート（10％）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・定期試験等の結果については、問い合わせに応じる。 ・提出課題は、原則コメントを入れ返却する。			
担当教員からのメッセージ			
・本科目では、在宅看護に関する基本的な知識・技術・態度を学びます。他科目で既に学んだ知識・技術を基に学修を進めていきますので、予習・復習に力を入れましょう。 ・在宅看護の対象は「患者」ではなく「生活者」です。疾病や障がいを持ちながら療養生活をしている「生活者」に提供する看護とはどのようなものか、看護を展開していくために何が重要なのかを一緒に学んでいきましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅱ（地域健康支援）	412	3前	自 （保） 必	2単位 60時間	講義 演習	木3・4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤美由紀 SATO Miyuki、細谷たき子 HOSOYA Takiko、川口桂嗣 Kawaguchi Keiji、嶋崎八重子 SHIMAZAKI Yaeko						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○佐藤美由紀／毎週火曜日13:00～17:00、木曜日9:00～12:00、メールやmanabaでは随時質問を受けます。 佐藤美由紀：m-sato●saku.ac.jp、細谷たき子：t-hosoya●saku.ac.jp、川口桂嗣：k-kawaguchi●saku.ac.jp 嶋崎八重子：y-shimazaki●saku.ac.jp						
授業の概要						
地域で生活する人々の健康障害の予防、健康の保持増進を支援する看護職の活動と役割を理解し、集団の健康ニーズに対応した保健活動の展開方法を理解する。生活習慣病予防、子育て支援、介護予防などのライフステージに即した予防的な健康課題を例に、健康診査-健康相談-健康教育-家庭訪問の方法とそれらをグループ活動-地区組織活動に発展させる保健師の支援方法を学ぶ。						
到達目標						
1．地域で暮らす人々の生活を知り、対象別の健康課題を生活の視点からとらえることができる。 2．対象別（ライフステージ別、課題別）の保健の動向と公衆衛生看護活動について説明できる。 3．公衆衛生看護活動における支援の方法と基本的な知識を理解するとともに、個人・家族・集団・地域的支援を連動させながら地域全体の健康水準を高めていく公衆衛生看護活動の特徴を説明できる。 4．公衆衛生看護活動の過程を理解し、地域診断や公衆衛生看護活動の評価方法を理解できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション・公衆衛生看護活動の特徴	講義	佐藤			
2	公衆衛生看護活動の基盤となる理論（保健行動に関する理論）	講義	川口			
3	母子保健活動(1)母子保健概論(理念・変遷・施策)	講義	佐藤			
4	母子保健活動(2)母子保健活動の実際	講義	佐藤			
5	母子保健活動(3)児童虐待防止の取り組み	講義	佐藤			
6	成人保健活動(1)成人保健概論(理念・変遷・施策)	講義	川口			
7	成人保健活動(2)成人保健活動の実際(特定保健指導等)	演習	川口			
8	成人保健活動(3)グループワーク（事例検討等）	演習	川口他			
9	高齢者保健活動(1)高齢者保健概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷			
10	高齢者保健活動(2)介護予防活動・認知症対策	講義	川口/佐藤			
11	健康増進活動(1)(栄養)	講義	特別講師			
12	健康増進活動(2)(運動)	講義	特別講師			
13	精神保健活動（1）概論（理念・変遷・施策）	講義	細谷			
14	精神保健活動（2）精神保健活動の実際	講義	特別講師			

15	歯科保健活動	講義	特別講師
16	感染症保健活動(1) 感染症保健活動概論(理念・変遷・施策)	講義	細谷
17	感染症保健活動(2) 感染症保健活動の実際	講義	特別講師
18	難病保健活動	講義	特別講師
19	国際保健活動	講義	細谷
20	個別的支援(1) 家庭訪問	講義	佐藤
21	個別的支援(2) 新生児訪問①(アセスメント)	演習	佐藤他
22	個別的支援(3) 新生児訪問②(アセスメント)	演習	佐藤他
23	個別的支援(4) 健康相談	講義・演習	川口他
24	集団的支援(1) 集団健康教育	講義	川口
25	集団的支援(2) グループ・地域組織活動	講義	川口
26	地域的支援(1) 地域診断①	講義	佐藤
27	地域的支援(2) 地域診断②(アセスメント)	演習	佐藤他
28	地域的支援(3) 地域診断③(アセスメント)	演習	佐藤他
29	公衆衛生看護活動の過程(評価を含む)とまとめ	講義	佐藤
30	集団健康教育、地域診断(4年生発表) 保健師活動の実際(卒業生の体験談)	講義	佐藤 特別講師
授業時間外学修(準備学習を含む)の具体的な内容及びそれに必要な時間			
授業の内容を事前にシラバスで見て、保健衛生学、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、健康管理と生活習慣などすでに他科目の授業で学習した事項は確認してから授業に臨む。 復習は該当する教科書のページを読んでください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：荒賀直子他編(2020)．公衆衛生看護学. Jp 第5版. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向 参考文献：E. T. アンダーソン他金川克子、早川和生監訳(2008)．コミュニティアズパートナー 松本千明. 医療・保健スタッフのため健康行動理論の基礎(2002)．医歯薬出版 行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践(2008)．医歯薬出版 他、授業の中で紹介する。			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験(70%)：内訳 授業での知識習得40%＋国試問題30% 2. レポート(20%)：家庭訪問、健康相談、地域診断の演習で取り組む課題 3. 授業参加状況(10%)：グループワークなど演習の参加態度、リアクションペーパーの提出状況			
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
・グループワークやバズセッションを取り入れながら授業を行います。積極的に参加してください。 ・ニュースに関心を持ち、社会情勢や健康問題の把握に努めてください。授業内容とニュースを関連させて健康課題を考えましょう。 ・看護の対象として地域(コミュニティ)を支援していくダイナミックな公衆衛生看護活動の魅力を学びましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目(実務経験と当該授業科目との関連)			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護情報論	435	3前	選択	1単位 15時間	講義 演習	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中嶋智子 NAKAJIMA, Tomoko t-nakajima●saku.ac.jp 1号館3階1319						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後 または、メールにて個別で調整します。						
授業の概要						
情報とは何か。病院、地域医療の活動場面などの医療現場でどのように利用されるようになったのかその経緯を知ることと、医療情報システム（電子カルテ）が有効に機能するための要件について講義する。						
到達目標						
<p>多くの情報がネットワーク化されている時代において、医療現場のさまざまな場面で看護師が情報機器（ICT）を活用し、多職種と情報共有しながらケアしています。医療における情報の倫理的、法的、社会的影響について理解することを目指します。</p> <p>① 情報の定義と特性について理解できる。</p> <p>② 多くの情報のなかから信頼性の高い情報を取捨選択できる。</p> <p>③ 情報の受け手に配慮する意義がわかる。</p> <p>④ 保健医療分野の情報システム化（電子カルテ）の経緯と医療情報ネットワークの現状がわかる。</p> <p>⑤ 多職種との連携において看護情報を共有する意味を理解できる。</p> <p>⑥ 患者の個人情報保護における看護職の責務と倫理的課題がわかる。</p> <p>⑦ 看護の対象者の情報を適切に扱う方法がわかる。また、情報倫理と社会的影響について考えることができる。</p> <p>⑧ 医療情報の将来のあり方について、看護を学ぶ者として自らの考えを明確にできる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「生命を尊重し擁護する責任と役割を自覚する」「多職種との協働において、看護職者としての役割を自覚し行動する」ことを身につけるための授業科目である。（DP1, DP6）						
授業計画						
回数	授業内容	授業教室	担当教員			
1	コースガイダンス：情報とは何か 情報の定義と分類/認知科学と情報	講義	中嶋			
2	医療や健康情報の信頼性 インターネットとヘルスリテラシー 保健統計の見方	講義・演習				
3	視覚情報における配慮 1 色覚バリアフリーとユニバーサルデザイン	講義				
4	視覚情報における配慮 2 相手に届く“ピクトグラム”を考えよう！	演習				
5	医療情報システムと看護 保健医療分野の情報化の経緯と現状 病院情報システムと地域連携における医療情報ネットワーク 遠隔医療と看護★	講義				

6	看護支援システムと看護記録 看護支援システムのしくみ 看護記録の体系化・標準化の必要性	講義	
7	看護情報の倫理的側面と社会的影響 医療機関における個人情報の適切な取り扱いについて 患者の個人情報を守る看護職の責務 災害時の医療情報の管理	講義	
8	まとめ（医療の情報化の将来について）		
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
時間外学修は、授業中に説明します。各回2時間程度（総16時間）必要です。 【第2回課題例】インターネット上に掲載されている健康に関する情報を検索し、正しい情報と怪しい情報を比較する。 【第3-6回課題例】相手にとってわかりやすさとは何かを考えてみよう。視覚特性に配慮した“ピクトグラム”を個人とグループで作成する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：指定しない。授業時に資料を提示しますが、下記の文献参照も推奨します。 参考資料： ① 中山和弘ほか. 系統看護学講座別巻 看護情報学. 医学書院, 2019 年第 3 刷. ② 厚生労働省. 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取り扱いのためのガイダンス.（平成 29 年 4 月 14 日通知、同年 5 月 30 日適用、令和 2 年 10 月一部改正） https://www.mhlw.go.jp/content/000681800.pdf			
成績評価の方法・基準			
レポート 50%（レポート作成要項と評価基準は、授業の最終日に提示する） 課題の成果物 30% 演習やmanabaでの意見交換（レスポンス） 20%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業に関する質問は、毎回manabaで受けます。質問への回答は、翌授業時に行います。 レポート課題は、授業最終回に提示します。 個人レポートのフィードバックは、希望に応じて個別に対応します。			
担当教員からのメッセージ			
出席確認をはじめ、授業中responを使用する場合もあります。 身近な日常の情報から医療情報まで幅広い視点からの話題を扱います。日頃からニュースや新聞等で社会事情に関心をもってください。授業を通じて、みなさんと医療や看護の情報のありかたについて意見交換したいと思います。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

《看護情報論 レポート課題》

テーマ：COVID-19パンデミックにおける遠隔医療と看護

要件1＝第5回★を参考に文献を調べて、新たな視点を加えて考察すること。

要件2＝引用文献の表記方法は、APA（アメリカ心理学会）論文作成マニュアル第6版に準拠すること。

要件3＝本文1200字以上～1600字以内

提出方法：manabaにて提出のこと（manabaによる提出が難しい場合は、事前申告申してください）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
家族看護論	436	3前	選	1単位 15時間	講義	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○安川揚子 YASUKAWA, Yoko y-yasukawa●saku.ac.jp 5号館3階302 柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階204 鈴木千衣 SUZUKI, Chie c-suzuki●saku.ac.jp 5号館3階307 櫻井綾香 AYAKA, Sakurai a-sakurai●saku.ac.jp 5号館3階207						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12：10-12：50、 17:00-17:50 他の時間も歓迎します。事前にメール等で確認ください。 y-yasukawa●saku.ac.jp m-kakizawa●saku.ac.jp						
授業の概要						
家族の形成、家族関係の形成、家族間のコミュニケーション、協力体制等について家族の各過程を踏まえて学習し、健康問題を抱えた家族への援助のあり方について学ぶ。						
到達目標						
1. 家族とは何かを考え、自分の家族に対する価値観を認識するとともに、多様な捉え方があることを理解する。 2. 家族看護学の考え方を学び、家族を援助することの意義を理解する。 3. 家族看護に用いられる理論とアセスメントモデルを理解する。 4. 各期における家族の健康課題や問題とその支援について考えることができる。 5. 家族支援専門看護師の役割を理解し、活動の実際がわかる。 6. 多様な家族のあり様を理解し、自らの家族観を再考する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
社会人として基本的に必要な「豊かな人間性と幅広い教養」を育むための科目であり、さらに「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につけるために必要な授業科目です。(GP1, GP3)						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースオリエンテーション（本科目の進め方） 家族看護学とは ジェノグラム・エコマップの描き方 注)本オリエンテーション内容を十分に把握し、最終的に履修の有無を決定する。 復習：ジェノグラム、エコマップの描き方を復習し、自分の家族のジェノグラム・エコマップを描き、改めて自分の家族をふりかえる（1.5時間）。 Assignment①：ジェノグラム・エコマップ 提出締切：翌週講義前	講義	安川 柿澤			
2	家族について考える（家族とは 家族の機能 家族の健康とは） 本単元では、GW を中心に進めていきます。グループに分かれて、上記のカッコ内の問いについて話し合う。 復習：Assignment②：講義やディスカッションをふりかえり、家族の定義、家族の機能、健康な家族とは何か、自分の考えを800字でまとめる。(1.5時間) 提出締切：翌週講義前	講義 GW①	安川 柿澤			
3	各期における家族の健康課題と支援 ①（家族のはじまりにおける課題） 講義と事例についてグループディスカッションを中心に進める。 復習：Assignment③：本講義の学びや感想を800字でまとめる。(1.5時間) 提出締切：翌週講義前	講義 GW②	櫻井			
4	各期における家族の健康問題と支援 ②（病児とともに生活する家族） 本単元では、DVD 拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～（藤村真弓監、秀行企画）を視聴する。それをもとにGW を行い、講義する。 復習：Assignment④テーマ：「病児のきょうだいについて思うこと」を800字でまとめる。(1.5時間) 提出締切：翌週講義前	講義 GW③	鈴木			

5	各期における家族の健康問題と支援 ③（精神障害者とともに生活する家族） 本単元は、事前課題を基にグループディスカッションを中心に進める。 予習：指定の資料を読み、ワークシートの事前課題をまとめる。（0.75 時間） 復習： <u>Assignment⑤：授業の学びをワークシートにまとめる。</u> （0.75時間） 提出締切：翌週講義前	講義 GW④	柿澤
6	各期における家族の健康問題と支援 ④（高齢者介護を行っている家族） 事例をもとに、グループディスカッションを行い、家族介護者の健康問題と支援について考える。 復習： <u>Assignment⑥：本講義の学びと感想を800字でまとめる。</u> （1.5時間） 提出締切：翌週講義前	講義 GW⑤	安川
7	家族支援専門看護師の役割と活動の実際 家族支援専門看護師の役割・機能 専門看護師がとらえている臨床現場における家族が抱える問題 家族のとらえ方 家族が抱える問題のアセスメントと家族への支援 復習： <u>Assignment⑦：本講義の学びや感想を800字でまとめる。</u> （1.5時間） 提出締切：翌週講義前	講義	招聘講師 今井美佳 （佐久医療センター）
8	家族看護における理論・アセスメントモデル 講義：家族看護実践における理論とモデルを紹介する。 復習： <u>Assignment⑧：「家族看護論」の授業における学びと感想を 800 字でまとめる。</u> （1.5 時間）	講義	招聘講師 今井美佳 （佐久医療センター）
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
上記各回の授業計画の予習・復習の部分に記入してあります。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
参考文献： 鈴木和子，渡辺裕子，佐藤律子(2019)．家族看護学 理論と実践 第5 版，日本看護協会出版会． 山崎あけみ(2008)．家族看護学 19 の臨床場面と 8 つの実践例から考える．南江堂． 上別府圭子，他（2018）． 家族看護学．医学書院． 参考 DVD： 藤村真弓監：拡がる病児のきょうだい支援 ～きょうだいにエールを贈る珠玉のメッセージ集～，秀行企画．			
成績評価の方法・基準			
下記の基準を参考にしてください。 1. GW 参加度(20%) GW 毎（①～⑤）manaba アンケートで自己評価票にそれに沿って自己評価する。 2. 小課題（Assignment）(40%) Assignment を 8 題出します。Assignment①～⑧ manaba アンケートに入力し、期限厳守で提出すること。 評価基準を示します。 3. 最終レポート （40%） <u>8 回の授業および自己学習を通して、あらためて家族について考え、自分の家族観を見つめなおし、あなたの家族観を 1200 字にまとめる。</u> 初回のオリエンテーション時に、評価基準、提出締め切り、提出先をお知らせします。			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
毎回の授業に関することは直接（オフィスアワー利用）あるいはメールで問い合わせると、次の授業までにメールや直接のフィードバックを受けることができます。			
担当教員からのメッセージ			
家族のとらえ方、家族への思いは十人十色です。この科目を通して、様々な家族観、看護観があることを知り、臨床の場で出会う患者・家族を理解し援助できるようにしましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

看護学部 4 年次配当科目

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
地域看護システム論	413	4前	必	1単位 15時間	講義	月3
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○細谷たき子 HOSOYA Takiko	t-hosoya●saku.ac.jp	5号館3階教員室				
橋本佳美 HASHIMOTO Yoshimi	y-hashimoto●saku.ac.jp	5号館3階308				
佐藤美由紀 SATO Miyuki	m-sato●saku.ac.jp	5号館3階304				
川口桂嗣 KAWAGUCHI Keiji	k-kawaguchi●saku.ac.jp	1号館3階1334				
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業日の12：30－13：00及び放課後						
授業の概要						
人々の健康の保持増進、疾病の予防、病気からの回復、誕生と成長、良い死を支援するために、看護職（保健師・助産師・看護師）が地域の様々な活動の場（医療機関・保健福祉機関・学校や労働の場など）において、多様な専門職や住民と連携し、地域ケアシステムの一員として期待される機能を発揮する方法について学ぶ。						
到達目標						
1. 高齢者の介護予防のケアシステムを理解できる 2. 療養が必要な地域住民へのケアシステムを理解できる 3. 障がい児を育てる家族への地域ケアシステムを理解できる 4. 精神障がい者への地域ケアシステムを理解できる 5. 地域で活動する住民の活動状況と役割を理解できる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力の養成に該当する。（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
(1)	高齢者の地域包括ケアシステム（1） ① 介護保険制度に基づく介護予防対策のケアシステムの理念 ② 地域包括支援センターによるサービス、自治体が提供するサービスにどのようなものがあるか。 ③ 住民の地域組織活動：民生委員、保健補導員、食生活改善推進員等の活動	講義	細谷 川口			
(2)	高齢者と地域包括ケアシステム（2） ④ 高齢者・認知症者への地域包括ケアシステムを事例に沿って考える	講義	細谷			
(3)	地域で療養を継続するためのケアシステム ① 退院時に療養者がどのように在宅サービスにつなぐことができるか。 ② 在宅療養において、住民はどのようなケアがうけられるか ③ 在宅で終末期を迎えるための支援	講義	細谷			
(4)	子育て支援と地域ケアシステム ① 現代の子どもがおかれている状況と支援の必要性 ② 医療 機関や施設の中で見出される問題と地域支援の実例 ③ 当事者の力の大きさ ④ 療養が必要な児への病院と在宅サービスの連携 ⑤ まとめ	講義	橋本			
(5)	地域で生活する障がい者への支援 ① 国際生活機能分類（ICF）の生活機能と障害のモデルの理念と概要 ② 精神障がい者への公的サービス/地域で生活するの精神患者の事例	講義	細谷			

(6)	地域で生活する障がい児への支援 ① 障がい児への公的サービスの種類と内容 ② 障がい児を育てる家族事例へ支援	講義	細谷
(7)	地域で生活する認知症者への支援 ① 認知症者への支援システムと公的サービス ② 認知症者の事例検討	講義 演習 (グループワーク)	細谷 佐藤 (美) 川口
(8)	認知症者への支援のグループ発表と情報交換 ワールドカフェ方式の発表会 Q&A, まとめ	演習 (グループワーク)	細谷 佐藤 (美) 川口
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 事例検討では、これまで学習した保健福祉のサービスを勉強しなおしてください。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：『国民の福祉と介護の動向2020/2021』厚生労働統計協会 参考文献：『公衆衛生看護学.jp』 インターメディカル、 『保健医療福祉行政論』 医学書院、 『国民衛生の動向』 厚生労働統計協会、			
成績評価の方法・基準			
試験 80% 事例レポート 10% 授業参加状況（出欠、遅刻、リアクションペーパー）10%			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
認知症者事例への支援についてのレポートを作成する。			
担当教員からのメッセージ			
・オンライン授業を次のように実施します： ① manabaで出席をとる ②ユーチューブ でスライドを映しながら講義、演習を進める ③manabaで小テストを実施する ・2コマの日の授業では、各時限に出席をとり、小テストを実施します。 ・フィードバックペーパーは最後の時限の終了時にmanabaのアンケートに記載をお願いします。 ・小テストの模範解答は、後日、manabaにアップします。 ・質問やコメントは、manabaで送っていただくようにお願いします。 ・これまでの学びを統合・発展させるために事例演習実施し、地域の支援システムを理解することを期待します。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護援助論Ⅲ (地域健康支援システム)	414	4通	自 (保) 必	2単位 45時間	講義 演習	(前)火1, 火2 (後)木1, 木2
担当教員 (○印＝科目責任教員)						
○川口桂嗣 KAWAGUCHI Keiji k-kawaguchi●saku.ac.jp 1号館3階1334 佐藤美由紀 SATO Miyuki m-sato●saku.ac.jp 5号館3階304 細谷たき子 HOSOYA Takiko t-hosoya●saku.ac.jp 5号館3階教員室 嶋崎八恵子 SHIMAZAKI Yaeko y-shimazaki●saku.ac.jp 1号館3階1321						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
○川口桂嗣 毎週火曜日13:00～17:00、メールやmanabaでは随時質問を受けます。						
授業の概要						
地域全体の健康レベルのアセスメントから健康ニーズを明確化する方法、それに基づいて地域住民及び保健・医療・福祉の関係機関と連携して地域保健福祉事業を計画・実施・評価する方法を学ぶ。地域の健康を支えるための政策・施策のシステムを学び、地域特性にあった地域システムの必要性を理解する。集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、公衆衛生看護活動における基礎的支援技術を習得する。						
到達目標						
1. 既存資料や地区視診により地域のアセスメント、健康課題の抽出、対策の検討を通して、実習市町村の特性や健康施策の理解を深めるとともに、保健事業の施策化のプロセスを理解する。 2. 地域特性を踏まえた集団健康教育、保健指導、家庭訪問の演習を通して、基礎的实践力を身につける。 3. 地域における健康課題の解決、組織の目的達成、保健師が専門職として能力を発揮できる労働環境の整備のために必要な公衆衛生看護管理について理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を培う授業科目であり、「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し、協力できる能力」に関連する科目である。 (DP3, DP4, DP6)						
授業計画						
回数	授業内容			授業方法	担当教員	
1 (前期) 2	オリエンテーション／家庭訪問(1)：新生児訪問計画の作成 家族のアセスメント			講義・演習 講義	川口/佐藤美 細谷	
3 4	家庭訪問(2)：新生児訪問の実際 地域診断(1)：地区アセスメント			演習 講義・演習	佐藤美 佐藤美等	
5 6	保健指導：家庭訪問場面での保健指導 地域診断(2)：地区アセスメント			講義・演習 演習	佐藤美等 全員	
7 8	地域診断(3)：地区アセスメント 健康教育(1)：企画書の立案方法			講義・演習 講義	佐藤美等 川口	
9 10	地域診断(4)：地区アセスメント 健康教育(2)：企画立案			講義・演習 講義・演習	佐藤美等 川口等	
11 12	公衆衛生看護管理／地域診断 (5)：情報の統合 健康教育(3)：シナリオ作成			講義・演習 講義・演習	佐藤美等 川口等	

13	地域診断(6)：健康課題の抽出	演習	佐藤美等
14	健康教育(4)：媒体作成	講義・演習	川口等
15	地域診断(6)：発表・討論①	演習	全員
16	地域診断(7)：発表・討論②	演習	全員
17	健康教育(4)：発表①	演習	全員
18	健康教育(5)：発表②	演習	全員
19	健康教育(6)：発表③・評価	演習	全員
20(後期)	公衆衛生看護過程(1)：実習市町村における健康課題の整理	講義・演習	佐藤美等
21	公衆衛生看護過程(2)：保健事業計画の作成	演習	全員
22	公衆衛生看護過程(3)：保健事業計画の発表①	演習	全員
23	公衆衛生看護過程(4)：保健事業計画の発表②	演習	全員
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
1. 地域看護学概論、地域看護援助論Ⅱ、担当する関連する科目を復習しておくこと。 2. 地域診断：地域診断に必要な資料検索・収集、演習の事前・事後課題に取り組む。 3. 保健指導・家庭訪問：演習に必要な知識の学習、演習に向けて事例のアセスメント・計画の作成に取り組む。 4. 健康教育：担当するテーマ（疾患等）についての事前学習、発表に向けた準備（シナリオ作成、媒体準備、デモンストレーション等）を行う。 5. 復習：教科書の該当ページを読み、要点を整理する。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：荒賀直子、後閑容子編（2020）. 公衆衛生看護学. Jp. インターメディカル社 厚生労働統計協会. 国民衛生の動向 2020/2021 参考文献：地域看護学概論及び地域看護援助論Ⅱで使用した参考書、各市町村のホームページ			
成績評価の方法・基準			
1. 筆記試験（50%） 2. 家庭訪問演習（10%）：家庭訪問計画書 3. 健康教育演習（10%）：①健康教育企画書、②媒体、③健康教育の発表 4. 地域診断演習（10%）：①地域診断の各様式、②地域診断の発表 5. 保健事業計画作成演習（10%）：①保健事業計画書、②保健事業計画の発表 6. 授業参加状況（10%）：演習の参加態度			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
・健康教育、地域診断の発表については、授業内でフィードバックする。 ・提出物については評価後コメントをつけて返却する。			
担当教員からのメッセージ			
・看護総合実習と関連した講義・演習ですので、履修は、保健師科目履修生に限ります。 ・健康教育や地域診断の発表は学生同士によるピア評価をします。 ・実習グループで協力しあいながら主体的に取り組みましょう。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護学研究	431	4通	必	3単位 90時間	演習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○ 武田貴美子 TAKEDA, Kimiko k-takeda●saku.ac.jp 研究室 5号館3階310 櫻井綾香 SAKURAI, Ayaka a-sakurai●saku.ac.jp 研究室 5号館2階207 小野美香子 ONO, Mikako m-ono●saku.ac.jp 研究室 1号館3階1323 吉岡恵 YOSHIOKA, Megumi m-yoshioka●saku.ac.jp 研究室 5号館2階210 櫻井真智子 SAKURAI, Machiko m-sakukrai●saku.ac.jp 研究室 5号館2階助手室						
*全専任教員が指導教員になります。						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
武田貴美子 毎週火曜日 12:10～12:50（研究室） 櫻井綾香 毎週木曜日 16:20～17:00（研究室） 小野美香子 毎週月曜日 12:10～12:50（研究室） 吉岡恵 毎週月曜日 12:10～12:50（研究室） 櫻井真智子 前期 毎週月曜日 12:10～12:50 / 後期 毎週月曜日 18:00～18:30（助手室）						
*各指導教員と連絡方法を調整してください。						
授業の概要						
学生自身が関心のある看護の課題や具体的な看護事例を選択し、自ら問題意識を持ってテーマを追求し、科学的根拠を探り、分析、考察して論文にまとめる。この過程を通して看護活動を支える科学的根拠の重要性を理解し、将来、効果的な看護活動を推進していくための基礎的能力を養う。						
到達目標						
1. 関心のある看護現象から研究テーマを決めることができる。（研究の動機） 2. 研究テーマに関連する文献を収集し、クリティークすることができる。（文献検討） 3. クリティークをもとに、研究テーマの背景を述べることができる。（研究背景） 4. 研究の必要性について述べることができる。（研究の意義） 5. 研究目的と課題（リサーチクエスト）を明確に表現することができる。 6. 研究目的に沿った研究方法を考えることができる。（研究方法） 7. 研究を進めるうえでの倫理的配慮を考えることができる。 8. 看護研究の意義とプロセスを理解することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本科目は、主に「学問を深め真理を探究していく態度・能力」を身に着けることをねらいとしている。3年生までの学修のすべてを統合、活用して行う科目である。（GP5）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-43	各領域、担当指導教員の指導のもと、研究計画書を作成する。 配置される看護領域および担当指導教員によって、看護学研究の進め方は若干異なります。それぞれの領域、担当指導教員の指導のもと、ゼミナール形式で進めていきます。 （ 関心ある看護現象の明確化 研究テーマの設定 文献検討 *図書館司書による「文献検索の方法」についての説明会を開催予定です。 研究方法 倫理的配慮 研究計画書および研究計画概要の作成 ）		各担当指導教員 			

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：2年次の「看護研究方法」で使用したテキスト</p> <p>参考文献：各担当指導教員にお尋ねください。</p>
成績評価の方法・基準
<p>下記の内容について評価表を用いて評価します。</p> <p>研究計画書の作成 （85%）</p> <p>研究計画書の作成までの各ステップにおける取り組み状況の評価します。</p> <p>学修姿勢 （15%）</p> <p>自主的に自律的な学修行動について評価します。</p> <p>最終評価は、学生にも評価表を用いて自己評価を行っていただきます。その評価を考慮して、各担当指導教員が評価を行います。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>基本的に個人ないしはグループでのゼミナール形式で展開します。したがって、その都度、各自が学修してきた内容については、各担当指導教員からフィードバックがなされ、さらなる課題が課されます。</p> <p>最終的には、研究計画書（5枚以内）と研究計画書概要（1枚）にまとめて期日までに提出してください。さらに、発表会においてプレゼンテーションします。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>看護学研究の進め方、研究計画書の書き方、提出方法等については、4月のガイダンスにおいて「看護学研究の手引き」をお渡ししますので、各自よく読み、それにしたがって進めてください。また、研究計画書の提出や発表会については、改めてオリエンテーションを行います。進め方、執筆方法、提出方法、発表方法などについて質問のある方は、科目責任教員や担当教員にお尋ねください。また、看護学研究を進めるにあたり、困ったことが生じたときには科目責任教員や担当教員にもご相談ください。</p> <p>必要に応じてオリエンテーションを行いながら進めていきます。オリエンテーションには必ず参加してください。</p> <p>2年次の看護研究方法をよく復習しておきましょう。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護管理論	432	4前	必	2単位 30時間	講義	金3, 金4
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○齋藤順子 SAITOU, Yoriko y-saitou●saku.ac.jp 5号館2階202 内山明子 UCHIYAMA, Akiko a-uchiya●saku.ac.jp 5号館2階206						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
齋藤：授業終了後に教室で受け付けます。質問や面談の予約はメールで可能。 内山：授業終了後に教室で受け付けます。オフィスアワー以外の面談の予約はメールで可能。						
授業の概要						
この授業は、看護活動を効果的に進めるための管理的視点を修得します。医療制度の中で看護が担う役割を理解し、看護ケアを効果的に提供するためのシステムやケアの経済的效果などについての理解を深めます。また、看護活動を組織、運営していくために必要な組織論、リーダーシップ論、チームワークのあり方などについて理解し、リスク感性についての理解と技術についても学修し、最終的に看護管理にかかわる今日の課題について考察していきます。						
到達目標						
1.良質な看護サービスを提供するために、必要な管理の役割・機能を理解することができる。 2.医療チームの一員として良好な人間関係を構築するために必要な知識・スキルについて説明することができる。 3.近年の保健医療福祉政策の動向を踏まえた看護政策や看護経営のありかたを理解することができる。 4.事例検討を通して既習の知識を統合し、自らの看護管理的視点を説明することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
この授業は、これまでの授業・実習を通して身につけてきた知識・スキル・態度の統合をする科目となっています。これまでの「豊かな人間性と幅広い教養」「学問を深め真理を探究していく態度・能力」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」の学びをふりかえり、効果的・効率的および高品質な看護サービスを提供するために必要なマネジメントについて理解を深め、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を学修する授業科目となっています。（GP1, GP3, GP6）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	オリエンテーション	講義	齋藤			
2	人々の生活と看護：看護管理を学ぶ意義、看護の役割と看護活動の場	講義	齋藤			
3	看護管理の基本となるもの①：看護管理とは、看護組織と看護サービス	講義	齋藤			
4	看護管理の基本となるもの②：看護サービスと多職種連携・協働	講義	齋藤			
5	看護の仕事とその管理：看護提供システム、看護管理のプロセス	講義	齋藤			
6	看護の質の向上：看護管理と倫理、医療安全・感染管理、看護の質の評価、 クライシスマネジメント	講義	齋藤			
7	看護管理に求められる能力①：セルフマネジメントスキル 看護管理に求められる能力②：マネジメントに必要なリーダーシップと コミュニケーションスキル	講義	齋藤			
8	看護を取り巻く法律と制度	講義	内山			
9	看護と経営	講義	内山			
10	近年の保健医療福祉と看護の動き	講義	内山			
11	看護職と生涯学習①：看護職の教育	講義	内山			
12	看護職と生涯学習②：キャリア開発	講義	内山			
13-14	看護の場における管理課題と対策について、講義で学んだ知識やスキルを効果的に活用して、課題に取り組む。	演習	齋藤・内山			
15	看護管理の課題と対策についての発表、看護管理論まとめ	演習	齋藤・内山			

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>1. 事前レポート提出 これまでの実習をふりかえり、「私が実習中に体験した看護管理とそこからの学び」と題して、レポートA4・1枚(表紙不要)を提出してください。課題名と学籍番号、氏名はヘッダーに記載してください。レポートは授業初日に提出してください。</p> <p>2. 授業開始後 近年の保健医療福祉政策は激しく変化しています。各自で、どのような変化があるのか、それは何ゆえか、そして今後どのような課題が発生する可能性があるのかを、新聞やニュースで考察しておいてください。また、これまでの既習学習や既習実習で気づいた看護管理に関する疑問をノートにまとめておいてください。授業中に活発に発言することを期待しています。 毎回の授業終了後は、授業内容とテキストを活用し理解を深めてください。テキストは毎回単元に合わせた内容部分を読解し、復習してください。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：ナーシング・グラフィカ『看護管理 第4版』メディカ出版,2018 参考文献：必要時プリント配布</p>
成績評価の方法・基準
<p>下記の基準を参考にしてください。</p> <p>1. 筆記試験（70%） 期末試験においては70%の換算をします。</p> <p>2. グループワークの貢献度（20%） グループワークでの発言、成果物、全体での発表などを評価します。</p> <p>3. レポート（10%） 授業初日に事前レポートが提出でき、内容が課題に沿っているかどうかなどを評価します。</p>
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>1. 毎回の授業に関することは、授業後やオフィスアワーやメールで問い合わせてください。次の授業でフィードバックします。</p> <p>2. 初回レポートについては教員が確認後に各自に返却します。それをグループワークで活用してください。</p> <p>3. グループワークの発表に対しては、その場で教員から評価を伝えます。</p>
担当教員からのメッセージ
<p>看護管理は、看護師が対象者に最適・最良の看護が提供できるように資源を効果的に活用し、成果を出すよう調整を図ります。そのためには、まず皆さんが「看護とは何か」を明確にしておく必要がありますので、文章化しておくことで授業が理解しやすくなります。</p> <p>そして自分たちが目指す看護をどのようにすれば、効果的かつ効率的に達成できるのかを主体的に発言してください。一緒に考えていきましょう。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護リスクマネジメント	433	4後	必	1単位 15時間	講義	火2
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○内山明子／UCHIYAMA, Akiko a-uchiyama●saku. ac. jp 5号館2階206						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
内山：授業終了後、教室で質問を受けます。 質問はメールでも可能です。オフィスアワー以外の面談はメールで予約してください。						
授業の概要						
ヒューマンエラーの定義を学び、人がなぜ間違いを犯すのかを理解し医療安全を学ぶことの意義を認識する。「安全」については、患者の安全と同時に医療を提供する者や施設を利用する人全ての安全について理解する。また、事故防止の考え方を学ぶために、リスクの回避方法の原則について理解を深め、医療現場で起きている事故事例から看護におけるリスクマネジメントについて考察する。						
到達目標						
1. 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を理解することができる。 2. 医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を理解することができる。 3. ヒューマンエラーとマネジメントの考え方を理解することができる。 4. 看護業務における事故対策について説明することができる。 5. 医療事故後の対応と紛争化の防止対策について理解することができる。 6. 事例をもとに医療事故を分析し、発生要因と防止対策を述べることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
本科目は、「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「看護実践能力の基盤」「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を統合し、臨床で活用する「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を養うための必修科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	コースガイダンス：科目の概要と授業の進め方 医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向を学ぶ。 1) 法律と医療安全 2) 国内における医療事故の概要	講義	内山			
2	医療におけるリスクマネジメントの方針と国・組織の安全対策を学ぶ。 1) 医療安全に関する国の取り組み ① 国の医療安全における取り組みの経緯 ② 医療安全対策の考え方 2) 医療機関における安全管理体制 ① 医療安全対策の法的義務付けと実際 ② 診療報酬における医療安全対策の評価 ③ 全員参加の医療安全	講義	内山			
3	ヒューマンエラーとマネジメントを学ぶ。 1) 医療事故発生のメカニズム ① ヒューマンエラーと人間特性 ② ヒューマンファクター工学のモデル 2) 医療事故対策の考え方 ① リスク低減の考え方 ② エラーブリーフ ③ リスクマネジメント	講義	内山			
4	看護業務における事故対策を学ぶ。 1) 看護業務と医療事故発生要因 2) 医療事故の種類、分析と対策 3) 在宅における医療事故と安全対策 4) 専門職としての個々の備え（看護職賠償責任保険制度）	講義	内山			

5	医療事故後の対応と紛争化の防止対策を学ぶ。 1) 医療事故の報告制度 ①医療法における報告体制 ②医療事故情報収集等事業 2) 医療事故調査制度 3) 医療事故紛争化の防止 ①コンフリクトマネジメント ②ADR（裁判外紛争処理）とメディエーション	講義	内山
6	危険予知力を身につける。 1) KYTとは 2) イラストを使用したリスクセンストレーニング（個人ワーク） 3) 動画を用いたKYT（グループワーク）	講義・演習	内山
7-8	事事故例の分析を学ぶ。 1) 事故分析方法の特徴 ①事故発生後の原因分析（SHEL, 4M-4E, RCA） ②危険箇所の特定と事故発生予防分析（FMEA）	講義・演習	内山
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>【予習】</p> <p>1. 授業開始前に新聞報道や文献を参考に、近年の医療事故について概観しておく。（30分程度）</p> <p>2. テキストの関連箇所を読み、理解できない箇所には付箋等を付けておき、授業中に解決できるようにしましょう。（30分程度）また、日ごろから新聞やニュース等で、医療事故などに関心を持ちましょう。</p> <p>【復習】</p> <p>授業で配布した資料と、テキストの関連箇所を読み直して、理解できているかどうかを確認してください。（30分程度）国家試験の過去問を解いてみるなどして、知識の定着を確認してください。</p>			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
<p>【テキスト】</p> <p>松下由美子，杉山良子，小林美雪編（2021）. ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全 第3版. メディカ出版</p> <p>【参考文献】</p> <p>相馬孝博著（2016）. 医療安全BOOKS2 ねころんで読めるWHO患者安全カリキュラムガイド. メディカ出版</p>			
成績評価の方法・基準			
<p>1. 筆記試験（80%）</p> <p>授業終了後試験1回で評価します。全範囲から出題します。</p> <p>2. レポート・演習課題（20%）</p> <p>事前課題レポートを評価対象とします。<u>全国の医療機関で起きた医療事故の『状況、要因、対策』について最低1事例をまとめ、初回授業に提出してください。（表紙不要、A4・1枚程度）</u></p> <p>3. 演習課題については、授業で説明します。</p>			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
事前課題レポートは、提出後評価し7,8回の授業までに返却をします。返却したレポートは、7,8回の演習に使用します。演習時のプレゼンテーションに対しては、その場でフィードバックします。			
担当教員からのメッセージ			
<p>医療安全の基本は「できていて当たり前」でありながら、「当たり前のことを当たり前にする」ことほど難しいものはありません。医療者は「ミスをしたらどうしよう」「どこまで確認すれば大丈夫なのだろう」などの不安や疑問を感じながら、現場で「患者の安全」を守るために日々取り組んでいます。この授業を通して、医療安全がどのように確立されてきたのか、現場ではどのようなエラーがおこっているのか、またその対策はどのように施されているのか、プロフェッショナルとしてどのような力を修得していかなければならなのかなど、「安全に医療を提供するための当たり前のこと」を学ぶ機会としていきたいと思います。</p> <p>「どんな人間でも、間違いからは逃れられない」ことを意識して、真剣に学修を進めていきましょう。</p>			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
災害看護論	434	4前	必	1単位 30時間	講義	火4, 火5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小原真理子 OHARA, Mariko 岩崎弘子 IWASAKI, Hiroko 川口桂嗣 KAWAGUCHI, Keiji 喜多村定子 KITAMURA, Sadako 藤井千里 FUJII, Chisato 成田千春 NARITA, Chiharu						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業終了後に教室で質問を受け付ける。						
授業の概要						
コロナ禍及び災害が人々の健康と生活へ及ぼす影響について学ぶ。その影響とケアは災害サイクルに伴い変化すること、看護職が果たす役割、医療チームにおける他職種との連携についても学ぶ。具体的には、災害直後・初期に発生する被災者の健康・生活上の問題と対応する看護実践の理解、更に被災者にもたらす中・長期的な身体的、心理的、社会的な影響と防災と看護の役割について学ぶ。また災害への備えとして、防災の視点から自助、共助、公助、地域防災と看護の役割についても学ぶ。さらにコロナ禍における病院及び地域における看護の役割について学ぶ。						
到達目標						
・災害時に発生する人々のニーズと健康問題を理解し、災害サイクルに伴い被災者にもたらす急性期、中・長期固有の身体的、心理的、社会的な影響と看護職が果たす役割について説明できる。 ・災害への備えとして、自助・共助（地域防災を含む）・公助の意味と具体策について説明できる。 ・コロナ禍における災害発生時、複合災害への医療対応及び避難生活対応の特性について説明できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
「さまざまな健康状態にある対象者の医療・看護における課題を発見し、解決に取り組む能力を養う」授業科目である。（DP3）また「保健医療福祉チームの一員として、自己の役割を理解し、関わる人々と協働できる能力」をを身につける授業科目である。（DP6）急性期の実践能力として、START式トリアージのスキル等を習得することをねらいとしている。さらにコロナ禍における災害対応と看護の役割について基本的事項を学べる科目である。						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1-2	災害の基本： 開講に当たり、3.11東日本大震災10年目と新型コロナウイルス感染症対応、災害看護とは、災害の種類と疾病構造、感染症とパンデミック、災害関連死、災害サイクルと活動の場、災害看護とその役割 災害発生時における病棟看護職の情報・判断・行動（映像シミュレーション）	講義/演習	小原			
3-4	災害と法律： 災害対策基本法、災害救助法、災害関連死と災害弔慰金関連の法律 被災者特性と看護： 要配慮者とは、要配慮者への支援、災害関連死予防対策、コロナ感染症に関連し避難行動への影響とその対応 要配慮者トリアージシミュレーション		小原			
5-6	災害時の心理的影響とケア： 被災者や援助者に生じる心理的影響、こころのケアとは コミュニケーションスキル、コロナ禍における心理的影響とケア コロナ感染に関連する負の心理的連鎖と対応		小原			
7-8	避難生活の課題とその対策（千曲川氾濫による水害）： 避難所や車中避難における健康・生活上の課題とその対策 中長期支援活動の拠点である仮設住宅、災害復興住宅における看護活動 コロナ禍における避難所の環境対応と生活調整（看護の視点から）		小原			

9-10	災害への備えと看護の役割： 自助・共助・公助との関連、コロナ禍の地域防災と看護職ができること 災害と倫理： 災害における倫理とはなにか、被災者との関係、他職種連携から		小原
11	災害時のトリアージ	演習	岩崎
12	病院における防災対策と災害発生時の体系的対応 病院におけるコロナ対応と看護の役割	講義	岩崎
13	平常時の保健活動と災害対策 地域における災害に備えた保健活動の展開 地域におけるコロナ対応と看護の役割	講義	川口
14-15	避難所における看護支援の実施 避難所生活者への看護活動と役割 コロナ禍における複合災害への対応	演習	喜多村他
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
テキスト及び講義資料を用いて、学習したことを整理し、復習しておくこと。 1回の授業について、1時間程度復習を行うこと。			
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等			
テキスト：『災害看護学 心得ておきたい基本的な知識』第3版、南山堂			
成績評価の方法・基準			
筆記試験（70%） 演習参加状況（30%）			
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法			
授業時に説明する。			
担当教員からのメッセージ			
演習時の服装・持ち物については、授業内で周知する。			
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）			

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
看護教育論	437	4前	選	1単位 15時間	講義	水5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉田文子/ Fumiko Yoshida fy200●saku.ac.jp 5号館306						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
授業後～19時（直接研究室306へ訪問可）						
授業の概要						
看護教育の基本となる教育の目的と役割、看護教育の変遷、看護教育制度、教育課程、学習方法やその意義、効果、評価の方法等について理解し、看護教育の現状と課題について考察する。生涯学習が必要な看護の専門性についての理解を深める。						
到達目標						
以下の5つのCourse outcomesを目標とします。 1. 看護職者における継続教育の意義を述べることができる。 2. これまでの大学生活をふりかえり、自己教育力を高める方法を実践することができる。 3. 将来のキャリア開発に役立つキャリアビジョンを描くことができる。 4. 新人看護師・保健師教育の実態と課題・展望についてディスカッションをすることができる。 5. 4年間で各自が抱えてきた課題を明らかにし、それについてプレゼンテーションをすることができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
（学生便覧参照のこと） 教育目標（卒業時の姿）7つのうちの、「Ⅱ群 学問を深め真理を探究していく態度・能力」を培う科目として位置づけられている。特に出口教育となる卒業期の選択科目であり、受講生それぞれにとって「学問への真理探究的姿勢」をより身につけたいと思う人へ提供したい科目である。授業終了後には、授業前には味わえなかった知的満足度が味わえることでしょう。（GP5）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1	授業目的と学修動機の確認からプロジェクトを考える	講義	吉田			
2	自身が受けている教育：カリキュラムの変遷を通して考える					
3	人はなぜ学ぶのか：教育と学習の観点から考える					
4	キャリア開発1：対象理解と自己理解を作業を通して知覚する					
5	キャリア開発2：看護職者の学習ニーズを学び、自身のありかたを考える					
6	新人看護師への教育：複数の医療施設教育プログラムから自身の将来をイメージ化する					
7・8	まとめ：各自が身につけた力の披露としてのプレゼンテーション					
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
授業での疑問をもとにしたアサインメント（宿題）を課しますので、事前学習が必要です。その詳細は初回授業で提示します。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：指定なし 参考文献：授業内で提示する						

成績評価の方法・基準
<ul style="list-style-type: none"> ■ アサインメント（20%） アサインメントシートを配付します。 ■ プレゼンテーション（40%） 科目独自の評価票を用いて相互評価をします。 ■ ポートフォリオ（40%） 課題に沿って作成していきます。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
<p>全ての評価は、成績とともにアドバイザー一覧表で返却します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ アサインメント（20%） アサインメントシート内にアドバイスします。 ■ プレゼンテーション（40%） 科目独自の評価票の中でアドバイスします。 ■ ポートフォリオ（40%） 今後の学習・キャリアへのアドバイスを含めたフィードバックをシートに記載し返却します。
担当教員からのメッセージ
<p>この授業では、自身が受けてきた看護学教育をふりかえり、そこで課題を見出し、解決できることを目標としています。例：なぜグループワークは必要かなど教育方法に関すること、大卒看護師と専門学校卒看護師との違いなど教育課程に関すること。</p> <p>この授業で扱うことを通して、新人看護師・保健師など入職1年目の不安の解消にもなるかもしれません。</p> <p>受講するか迷った場合は、受講されることをお勧めできます。</p>
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
該当なし

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
国際看護論	438	4前	選	2単位 60時間	演習	月5 集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○東田吉子 TUKADA, Yoshiko y-tsukada@saku.ac.jp 1号館1階 社会連携・研究推進センター 櫻井真智子 SAKURAI, Machiko 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
随時、メールで質問を受け付けます。または、授業終了後に教室で質問を受け付けます。						
授業の概要						
国際的な視点から諸外国の健康問題および心身の健康に影響を与える社会・経済、教育、および文化・伝統的な背景を検討しつつ看護活動のあり方を学ぶ。4年次までに講義・実習を通して日本の看護および看護を取り巻く状況を理解してきた。2021年度はコロナ禍により渡航が困難であるため、チョンブリ県バンセン市、国立ブラパ大学看護学部とオンラインで繋ぎ、タイの保健医療システム、看護教育制度、看護実習の状況、看護を取り巻く状況について学び、日本との違い、共通点を見出す。また、学生らと情報交換をする機会を持つことにより、コミュニケーション能力を高める機会とする。						
到達目標						
事前学習の到達目標： 1. 日本の看護教育システムについて、説明できる。 2. 日本社会の特徴である少子高齢化の課題について、説明できる。 3. タイの文化、保健医療、看護教育システムについて文献により理解する。 オンライン講義による到達目標： 1. 日本とタイの相違点、および類似点について、理解を深め国際的な視野を広げる。 2. ブラパ大学学生との交流、プレゼンテーションを通してコミュニケーション能力を高める。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力」を身につける授業科目である。（DP4）						
授業計画						
回数	授業内容	授業方法	担当教員			
1 2	オリエンテーション：全体の流れについて説明する（4月）。 ・事前学習（4月・5月・6月・7月に月1回）、オンライン集中講義、レポート提出について	講義	東田			
3 4	日本の看護教育、佐久大学の状況、日本の文化について再確認し、自国の状況について、ブラパ大学の学生と情報交換できるように準備する。（5月）	講義、グループ学習	東田			
5 6	日本社会の特徴である少子高齢化の状況、10大疾病、10大死因など、日本の保健医療について学び、タイと比較ができるようにまとめる。（6月）	グループ学習、発表	東田			
7 8	タイの文化、保健医療、看護教育等について文献を通して学習する。（7月）	グループ学習、発表	東田			
9-60	オンライン集中講義：2021年8月17日（火）～26日（水） （オンラインによりブラパ大学学生との相互発表、情報交換を含む） ・集中講義時間：タイとの時差を考慮し、11:00-17:00とする。 必要に応じて佐久大学の担当教員が通訳を行う。	グループ学習	東田			
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
準備はグループで行いますが、その中で各人が分担する部分について調べて、まとめる時間が必要となります。個人差があるものの約10時間ほど必要になると思われます。						

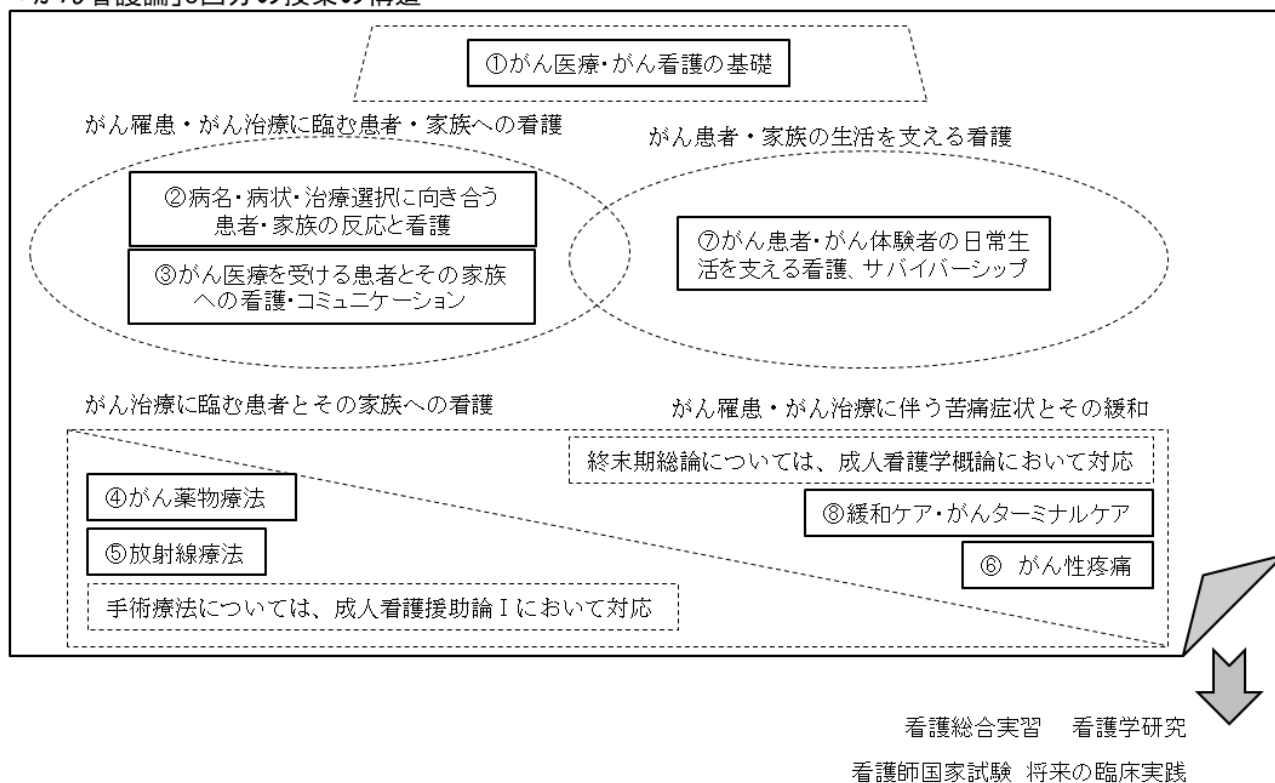
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
随時、講師が資料を配布します。
成績評価の方法・基準
事前学習、オンライン学習に対する参加状況（50%） レポート提出（50%）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
オンライン講義中は、疑問点などを確認するための毎日振り返りの時間を持ちます。 国際看護論は前期科目のため、終了後、9月の中旬をめどにレポートの提出となります。担当教員がレポートに対し、メールでコメントを述べます。
担当教員からのメッセージ
2020年から世界は新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われ、感染対策を取りつつ講義、演習、実習が進められています。2021年度前期はタイへの渡航が困難であるため、タイ、国立ブラパ大学看護学部とオンライン講義を中心に学びます。事前学習として日本の看護・保健状況について、まとめることにより日本の状況について新たな気づきが見つかります。他国の看護を知ることにより視野が広がり、学習への取り組み、自身の看護観、キャリア形成の考え方に刺激を受けます。本学ならではの国際看護論をより多くの学生が履修することを望んでいます。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
がん看護論	439	4前	選	1単位 15時間	講義	月5
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○水野照美 MIZUNO, Terumi t-mizuno●saku.ac.jp 5号館2階203 吉岡恵 YOSHIOKA, Megumi m-yoshioka●saku.ac.jp 5号館2階210						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
講義の後、教室で質問を受けます / 別途面談希望の場合は、対面またはメールで日程調整をします。						
授業の概要						
がんの予防から診断法と最新の治療法、さらに終末期における対象と家族を取り巻く状況について看護の役割を理解する。痛みの緩和法、症状コントロール、薬物療法を含めたがんの治療法を知り、対象の心身両面の苦痛を和らげる緩和ケアについて学習し、がん看護に関する看護の専門性を理解する。						
到達目標						
1. がん患者とその家族のおかれた状況を多面的（身体的・心理社会的・経済的等）に説明できる 2. 癌の特徴、がん治療の特徴、がん罹患とがん治療に伴う苦痛症状の特徴、がん患者の生活状況の特徴等の理解を通して、必要な看護の内容及方法について考えを述べるができる 3. 既習の看護学実習や講義・演習科目などを統合してがん看護における関心領域を探究し、将来の看護実践における課題について述べるができる						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護の発展と探究」区分の最後に置かれている、統合的な科目です。 カリキュラムマップにおいては、「Ⅴ 多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」の項に配置されており、この内容に最も関わります。臨床における看護実践と強いつながりがあります。 この科目は、「がん」という疾患を切り口にして、年代・健康レベル（急性・慢性・回復・終末など）・治療方法の多様性に触れることから、「Ⅳ 看護実践能力の基盤」の確認につながります。加えて、「がん」という病いを通して、「Ⅲ 命の大切さを深く理解し、擁護する能力」「Ⅶ 多様な領域の専門家と連携し、協働できる能力」にも関わります。この科目のレポートに取り組むことで、「Ⅱ 学問を深め真理を探究していく態度・能力」の訓練になります。 (DP1, DP3, DP6)						
授業計画						
回数	授業内容		授業方法	担当教員		
1	オリエンテーション	がん医療・がん看護の基礎	講義	水野		
2	病名・病状・治療選択に向き合う患者・家族の反応と看護		講義・演習	吉岡		
3	がん医療を受ける患者とその家族への看護・コミュニケーション		講義・演習	水野		
4	がん治療に臨む患者とその家族への看護 1	がん薬物療法	講義	特別招聘講師		
5	がん治療に臨む患者とその家族への看護 2	放射線療法	講義	特別招聘講師		
6	がん罹患・がん治療に伴う苦痛症状とその緩和 がん性疼痛		講義	水野		
7	がん患者・がん体験者の日常生活を支える看護、サバイバーシップ		講義・演習	水野		
8	がん患者への緩和ケア、ターミナルケア		講義	水野		
8回分の授業の構造は、右ページの図						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
・授業資料や参考文献を確認して、複数回の時間外学習課題に取り組む（14 時間） ・既習の講義や実習記録の振り返り、読書・TVやネット記事などを通して、がん看護における関心事をつかむ（5時間） ・がん看護における関心事について詳しく調べ、がん看護の役割について論述する。推敲・修正する。（11時間）						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等 テキスト：指定しない（積極的に学びたい場合、下記がお勧めです） 参考文献：小松浩子（2017）．系統看護学講座 別巻 がん看護学 第2版．医学書院 ほか、授業内で紹介
成績評価の方法・基準 ■ 筆記試験（40％） 到達目標 1， 2に該当 「時間外学修」として、課題を複数回課します ■ レポート（50％） 到達目標 2， 3に該当 講義終了後に期日を定めて提出する最終レポートです 課題は複数提示しますので、関心のあるものを選ぶことができます 評価基準 1：形式が整っている（例 期限内提出、課された課題への応答、文献の引用、など） 評価基準 2：丁寧に論述している（例 導入部がある、文章が分かり良い、論理的な展開、剽窃がない） 評価基準 3：がん看護について探究している（例 探究した結果がある、結果に基づく考察である、多面的に考察している、看護の役割が述べられている、トピックに独創性がある） ■ 授業参加状況（10％）
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法 ・時間外学修課題は、内容によってコメントをつけて返却します 解説が必要な場合は、専任教員の担当時間内に行います ・レポートは、コメントをつけて返却します
担当教員からのメッセージ ・日程と学習の順序は初回授業にて説明します ・「看護総合実習」において、がん患者さんと接する可能性のある方はぜひ受講しましょう ・「看護学研究」において、がん患者さんやそのご家族に関するテーマに取り組む場合、ヒントを得ることができます ・看護師国家試験では、領域を超えて広く「がん看護」が出題されますので、準備につながります ・将来、ほとんどの方が、がん患者さんやそのご家族とかかわりをもつと思いますのでぜひどうぞ
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）

「がん看護論」8回分の授業の構造



看護学部実習科目

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
EBN（Evidence-Based Nursing）実習 I	351	2前	必	1単位 45時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○宮原 香里 MIYAHARA, Kaori k-miyahara@saku.ac.jp 5号館2階209						
吉田 文子 YOSHIDA, Fumiko 5号館3階306						
八尋 道子 YAHIRO, Michiko 5号館2階205						
武田 貴美子 TAKEDA, Kimiko 5号館3階310						
内山 明子 UCHIYAMA, Akiko 5号館2階206						
二神 真理子 FUTAGAMI, Mariko 5号館2階210						
黒澤 佳代 KUROSAWA, Kayo 5号館2階助手室						
森本 彩 MORIMOTO, Aya 5号館2階助手室						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
宮原 香里 実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける。随時メールで質問を受け付ける。						
授業の概要						
本実習は最初の看護学実習となるため、臨地実習における学修の仕方の習得をめざす。具体的には対象者を中心とした看護について、事前学修をもとにテーマを決めて新たな自身の学修課題を明確にし追求する。臨地では、医療施設や介護サービス施設において、さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護について理解を深め、EBNについて考察する。						
到達目標						
1. 臨地実習における学修の仕方を習得することができる。 自律性のある学修：経験のふりかえりから課題を出して、それを調べ、経験と統合させる。その内容を相手に説明することができる。 2. 看護職の役割をチームメンバーと協働しながら追求することができる。 3. 健康課題を持つ人々や看護職と対話することができる。 4. 相手を尊重した適切な言葉遣いや態度をとることができる。 5. 自分の考えや思いを他者に表現することができる。 6. 課題に沿って実習をふりかえることができる。（reflection）						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護実践能力の基盤に関連する。（DP6）						
授業計画						
実習方法： 実習1日目 看護の定義をもとにEBNについて事前学修をし学修課題を明確にする。 実習2日目 病院長・看護部長の講義と病院見学を通して、看護の場を知る。 実習3～4日目 さまざまな健康課題をもつ人々や看護職および関連職員と実際に接し対話力を高めながら、看護職の役割について理解を深める。 実習5日目 提示されたクリティカルシンキングの課題について学びを共有する。 EBN実践に向けての課題を明らかにする。						
実習期間： 2021年5月10日（月）～5月14日（金） 5日間						
実習施設： 佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連佐久総合病院佐久医療センター シルバーランドみつい、シルバーランドきしの						
※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
本実習はチームで学修課題を明確にして実習に臨む。そのため、実習開始前までに「事前学修シート（個人）」を記載し、看護について知りたいこと、疑問に思ったことを書き出す。さらに、看護の定義をもとにEBNについて、チームと共有したい学修課題を明らかにする。詳細は、実習開始前のオリエンテーションで説明する。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
特になし
成績評価の方法・基準
EBNⅠルーブリックに従う
課題に対するフィードバックの方法
実習2～4日目の実習日誌はチームごとにまとめ、翌朝担当教員へ提出する。 最終レポートは原則コメントを書いて返却する。実習記録の返却日はmanabaで周知する。
担当教員からのメッセージ
実習開始前にオリエンテーションを行います。日程などの詳細はmanabaで確認してください。 COVID-19の感染拡大の影響により実習内容の一部を変更する場合があります。その際は実習開始前のオリエンテーションやmanabaにて周知します。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として病院等での勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした実習指導を行います。 （宮原 香里、吉田 文子、八尋 道子、武田 貴美子、内山 明子、二神 真理子、黒澤 佳代、森本 彩）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
EBN (Evidence-Based-Nursing) 実習Ⅱ	352	2通	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○二神真理子 FUTAGAMI, Mariko m-futagami@saku.ac.jp 5号館2階210 吉田文子 YOSHIDA, Fumiko 5号館3階306 八尋道子 YAHIRO, Michiko 5号館2階205 武田貴美子 TAKEDA, Kimiko 5号館3階310 内山明子 UCHIYAMA, Akiko 5号館2階206 宮原香里 MIYAHARA, Kaori 5号館2階209 黒澤佳代 KUROSAWA, Kayo 5号館2階助手室 森本彩 MORIMOTO, Aya 5号館2階助手室 他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
二神真理子 ・実習開始前のオリエンテーション終了後に教室で質問を受け付ける ・随時メールで質問を受け付ける						
授業の概要						
実習病院において患者を一人担当し、患者とその家族から生活者としての視点で系統的に得た情報のもつ意味を追求、その患者にとって最善のエビデンスを用いて看護を行う。より良い看護実践になるよう提示される「EBN実習用ルーブリック」を指標にしながら知識・技術・態度の統合をはかる。						
到達目標						
1. 患者に関心を持ち、相手の立場に立ってコミュニケーションをとることができる。 2. 日常生活から気がかりを見出し、患者の個別性を配慮した看護計画が立案できる。 3. 患者の反応をもとに言葉をかけながら援助することができる。 4. 自身が実践した看護について、患者の反応をもとに分析・記録できる。 5. 看護実践のふりかえりを通して、自己の行動特徴を洞察できる。 6. 実習体験から看護の独自性や役割について意見を持つことができる。 7. 必要な知識を探索し、記録上で活用することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」を身につける科目である。(DP6) *先修科目：生活援助論Ⅰ・Ⅱ、EBN実習Ⅰ、フィジカルアセスメント						
授業計画						
1. 実習方法： 成人・老年期で日常生活援助（特に清潔の援助）を必要とする慢性期にある患者1名を担当する。						
2. 実習期間： EBN実習ⅡはEBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②で構成され、①は6月の5日間、②は11月の5日間である。 学生は前半・後半に分かれる。6月に前半だった学生は実習時期の公平性を保つため、11月の実習では後半となる。 EBN実習Ⅱ① 前半 2021年 6月10日（木）～ 6月16日（水）の5日間 ① 後半 2021年 6月17日（木）～ 6月23日（水）の5日間 EBN実習Ⅱ② 前半 2021年11月 4日（木）～11月10日（水）の5日間 ② 後半 2021年11月11日（木）～11月 1日（水）の5日間						
3. 実習施設： 佐久市立国保浅間総合病院、JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター、東御市民病院、 特定医療法人丸山会九子中央病院、日本赤十字社川西赤十字病院						
※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>実習前までに、フィジカルアセスメントおよび生活援助論Ⅰの看護技術について患者に実践できるレベルまで練習しておく。また、看護展開論で学んだ内容についても十分復習しておく。学生配置発表後は、実習病棟の特徴に合わせた事前学修をすすめておく。</p> <p>実習中は、担当患者の主な疾病に関する形態機能、病態生理、主要症状・検査・治療とその一般的な看護について学習するとともに、患者にとっての最善のエビデンスを調べ、計画を立てる（毎日1～2時間程度）。</p> <p>実習後は、提出期限までに文献を用いて最終レポートをまとめる。実習で明らかとなった自身の課題に対し、目標を定め、計画的に行動をする。</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
特になし
成績評価の方法・基準
EBNⅡルーブリックに従う（EBN実習Ⅱ①とEBN実習Ⅱ②の配点が異なるため、必ず確認すること）
課題に対するフィードバックの方法
<p>学生は日々の実習計画を立案し、指導者や実習担当教員が毎朝内容を確認しその場でフィードバックをする。</p> <p>毎日提出する実習日誌への教員からのフィードバックは、口頭もしくは記録上へのコメント、面接等で行う。</p> <p>そのため、毎日の実習日誌は、当日の実習開始時に教員へ提出すること。</p>
担当教員からのメッセージ
実習開始前にオリエンテーションを行います。詳細はmanabaで確認してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
<p>看護師として病院に勤務経験のある教員がその実務経験を活かした臨地実習指導を行います。</p> <p>（二神 真理子、吉田 文子、八尋 道子、武田 貴美子、内山 明子、宮原 香里、黒澤 佳代、森本 彩）</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅰ（急性期）	362	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○塩入とも子	SHIOIRI, Tomoko	t-shioiri●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
喜多村定子	KITAMURA, Sadako	s-kitamura●saku.ac.jp	5号館2階207研究室			
水野照美	MIZUNO, Terumi	t-mizuno●saku.ac.jp	5号館2階203研究室			
吉岡 恵	YOSHIOKA, Megumi	m-yoshioka●saku.ac.jp	5号館2階210研究室			
阿藤幸子	ATO, Sachiko	s-ato●saku.ac.jp	5号館2階209研究室			
桐生由美子	KIRYU, Yumiko	y-kiryu●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
櫻井真智子	SAKURAI, Machiko	m-sakurai●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
成田千春	NARITA, Chiharu	c-narita●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習終了後および学内日またはメールやmanabaで予約 桐生、成田は前期のうちに伝達します						
授業の概要						
成人期（急性期）にある対象を科学的視点でアセスメントする能力を習得し、個々の対象の健康レベルに応じた援助を実践するため、学習した知識や技術を用いて看護過程を展開する能力を養う。						
到達目標						
急性期にある成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の病状や経過に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 急性期にある患者とその家族の理解に基づく看護 2. 急性期の患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 急性期患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態が急激に変化する患者とその家族の看護を探求する態度						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」での学び、さらに「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」として成人看護援助論等で修得した知識・技術を実践に生かしていく実習科目である。 (DP1, DP6) *先修科目：EBN実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ						
授業計画						
実習方法：急性期（主に周手術期）の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する カンファレンスを活用し、相互に学ぶ 一般病棟、手術室、術後集中管理病棟等において看護の継続性を学ぶ 原則として、実習期間中は受け持ち患者1名を決める 継続して受け持つことができない場合は、複数名の患者を受け持つこともある 実習期間：3週間 実習施設：佐久医療センター、浅間総合病院、浅間南麓こもろ医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
既習科目（形態機能学、健康障害と治療、フィジカルアセスメント、成人看護学概論等）、特に成人看護援助論Ⅰでの学習、成人看護援助論Ⅱでの周手術期演習が実習内容に直結します。 受け持ち患者決定から手術までの期間が非常に短い受け持ち患者が決まってからの準備では間に合わないこと、さらに成人看護援助論Ⅰが2年次後期の開講科目であったことも踏まえて必ず準備学習を早期から行うこと（領域別実習開始前、夏季休暇中にある程度の準備をしておくこと）。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献、資料 鎌倉やよい（2011）．周術期の臨床判断を磨く．医学書院 竹内登美子（2019）．周手術期看護1～3、5 第3版．医歯薬出版株式会社 倉橋順子（2010）．はじめての手術看護．メディカ出版
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による
課題に対するフィードバックの方法
事前課題に関しては、オリエンテーションの中で確認を行う予定です。 実習中は、指導者・教員からの助言、実習記録やカンファレンスでのやり取り等を通して、気づいたことや必要なことは都度伝えたいと思います。
担当教員からのメッセージ
本実習は、急性期にある患者が、学生実習を受け入れてくださることで初めて成り立つものです。 急性期で状態が目まぐるしく変化する患者のためになる看護を実施するには、実習開始前からの知識・技術の入念な準備が必要となります。成人看護学援助論Ⅰの講義と周手術期演習をもとに、急性期の看護に必要な基本的知識を整理・理解しておいてください。 3週間の実習の中で、病棟、手術室、術後集中管理病棟と様々な場所で実習を行う予定です。実習を最後まで行うために、自身の心身両面の健康管理と、集中して臨める環境を整えてください。 状況に応じて、実習内容を変更して実習を行う場合があります。オクレンジャーやmanabaでの連絡を各自で確認してください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として、病棟・手術室などで様々な臨床経験のある教員たちが、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。（塩入とも子、喜多村定子、水野照美、吉岡恵、阿藤幸子、桐生由美子、櫻井真智子、成田千春）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目 コード	配当年次 時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
成人看護学実習Ⅱ（回復・慢性期）	364	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○吉岡恵	YOSHIOKA, Megumi	m-yoshioka●saku.ac.jp	5号館2階210研究室			
水野照美	MIZUNO, Terum	t-mizuno●saku.ac.jp	5号館2階203研究室			
阿藤幸子	ATO, Sachiko	s-ato●saku.ac.jp	5号館2階209研究室			
喜多村定子	KITAMURA, Sadako	s-kitamura●saku.ac.jp	5号館2階207研究室			
塩入とも子	SHIOIRI, Tomoko	t-shioiri●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
櫻井真智子	SAKURAI, Machiko	m-sakurai●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
桐生由美子	Yumiko, Kiryu	y-kiryu●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
成田千春	NARITA, Chiharu	c-narita●saku.ac.jp	5号館2階助手室			
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習終了後および学内日またはメール						
授業の概要						
成人期にある人の特性を理解し、受け持ち患者の病態や症状・徴候、経過、治療法などを学び、健康状態に応じた適切な看護ケアを提供できる基礎的知識、技術、態度を養う。また、保健医療チームの機能や役割、看護職としての機能や役割について学ぶ。						
到達目標						
治療を受ける成人患者とその家族に必要な看護を理解し、看護過程を用いて対象の健康状態や生活に合った看護を実践する以下の基本5つを習得する。 1. 治療を受ける患者とその家族の理解に基づく看護 2. 治療を受ける患者を中心とした人間関係の構築に基づく看護 3. 医療チームの一員である自覚 4. 治療を受ける患者の受け持ち看護学生として相応しい倫理・態度 5. 健康状態の変化に伴う生活の調整を必要とする患者とその家族の看護						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
看護の基本で学んだことを踏まえ看護の展開をしていく実習科目であり、また「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連している。（DP3） ＊先修科目（基礎看護学実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、成人看護援助論Ⅱ）を修得、あるいは修得見込みのものが受講できる。						
授業計画						
実習方法： 成人期の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。 カンファレンスを活用し、相互に学ぶ。 病棟・外来・リハビリテーション部門において看護の継続性を学ぶ。 原則として、実習期間中は受け持ち患者を決める。患者1名に学生1名。 実習期間：3週間 実習施設：浅間総合病院、佐久総合病院、佐久医療センター、浅間南麓こもろ医療センター ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前：患者を受け持って看護展開ができるよう事前に担当教員からオリエンテーションを受け、事前学習を行い実習に臨みましょう。（既習科目の形態機能学・健康障害と治療・フィジカルアセスメント・生活援助論Ⅰ・Ⅱ・成人看護学概論・成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で学んだことを復習する） 事後：受け持ち患者に行った看護を実習記録に整理し理解を深め、対象にふさわしい看護を検討していきます。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：指定しない 参考文献：成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ等で活用した文献・資料						

成績評価の方法・基準
<input type="checkbox"/> 筆記試験（ %） <input type="checkbox"/> 口述試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> 授業参加状況（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（実習要項に記載する方法・基準による）
課題に対するフィードバックの方法
実習中は指導者・教員からの助言や実習記録のコメントを受けながら、受け持ち患者に看護を展開し実践していきます
担当教員からのメッセージ
1. 患者を受け持って看護学実習を行うため、実習に集中できる環境を整えておきましょう 2. 3週間、医療施設にて実習を行うため、十分な健康管理をしましょう
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師としての病院での実務経験のある教員が実習指導を担当します(吉岡恵　水野照美　阿藤幸子　桐生由美子 成田千春　喜多村定子　塩入とも子　櫻井真智子)

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
老年看護学実習	372	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小野美香子 ONO, Mikako m-ono●saku.ac.jp 1号館3階1323 安川揚子 YASUKAWA, Yoko y-yasukawa●saku.ac.jp 5号館3階302						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
学内日および個別にメールで対応する。						
授業の概要						
老年期にある対象の特性を理解し、受け持ち患者における必要なニーズを見出して、今まで学習してきた知識、技術を実際の場面を通じて統合し、適切に看護過程を展開できる技術、能力、態度を養う。						
到達目標						
1. 加齢変化や疾病に伴う健康課題をもつ高齢者の看護過程を展開できる。 2. 保健医療福祉チームの中で高齢者とその家族への看護の役割を説明できる。 3. 自己の洞察を深め、課題を明確にする。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
老年看護学実習は、「多様な健康のレベルと個性に対応できる」に位置付けられている科目だが、学位授与の方針のすべてに関わる学びをする。（DP3） ※先修科目：EBN実習Ⅱ、老年看護学概論、老年看護援助論						
授業計画						
実習方法： ・施設に入所、または病院に入院し、生活を送る高齢者を受け持ち、看護過程を展開する。 ・多くの高齢者と関わり、アクティビティ（個別・集団）に参加する。 ・カンファレンスを通じて、高齢者とその家族への看護についての見識をひろげる。 実習期間：2週間 実習施設：4施設のうち1施設で実習する ・佐久総合病院老人保健施設 ・佐久総合病院老人保健施設こうみ ・老人保健施設こまくさ ・鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 ※詳細は実習要項参照						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
事前学習： テキスト・授業資料等をもとに、実習施設の設置基準・特徴について調べる。 病態、症状、疾患による日常生活への影響、加齢変化について調べ、ノート等にまとめる。 ※詳細は実習要項参照						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
老年看護学概論、老年看護援助論で使用・紹介したテキストや資料等。						
成績評価の方法・基準						
実習要項に記載する方法・基準による。						

課題に対するフィードバックの方法
実習中、口頭あるいは実習記録へのコメントにより指導する。 随時、実習終了後に個別面談をする。
担当教員からのメッセージ
保健医療福祉チームの一員であるという認識を持ち、メンバーと協力することで、対象理解とより良いケアの実践につなげていきましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として総合病院・介護老人保健施設等に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
精神看護学実習	382	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○柿澤美奈子 KAKIZAWA, Minako : m-kakizawa●saku.ac.jp 5号館2階204 坂江千寿子 SAKAE, Chizuko : chi-sakae●saku.ac.jp 5号館3階309 東 修 AZUMA, Osamu : o-azuma●saku.ac.jp 1号館3階1318 井手段幸樹 ITEDAN, Kouki : k-itedan●saku.ac.jp 1号館3階1334 林 裕枝 HAYASHI, Hiroe : hiro-hayashi●saku.ac.jp 1号館3階1321						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
原則、実習期間内の学内日および実習終了後 オフィスアワー以外の面談予約はメールで可能である。						
授業の概要						
精神看護の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を展開するための知識、技術、態度を統合する。治療的コミュニケーションの技法やその他の精神療法について理解を深め、精神疾患をもつ方への看護援助の実際を学ぶ。						
到達目標						
1. 患者―看護師関係の成立過程を理解し、治療的コミュニケーションの基礎的能力を身につけることができる。 2. 急性期・回復期あるいは慢性期にある患者を受け持ち、精神症状によって影響されているセルフケア能力や生活上の困難に視点をあて、看護過程を用いて対象に応じた看護の実践ができる。 3. 社会復帰に関する諸活動に参加して、現在の精神障がい者の置かれている立場を理解し、保健医療福祉チームの一員として、果たすべき役割を論述することができる。 4. 看護場面で生じる倫理的な課題を患者中心の視点から認識し、自己の倫理観を育成することができる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「豊かな人間性と幅広い教養」「命の大切さを深く理解し、養護する能力」「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康レベルと個性性に対応できる看護実践能力」を身につける授業科目であり全て実習という授業形態である。「様々な領域の専門家と連携し協働できる能力」の行動の基盤となる。(DP1, DP3, DP6) *先修科目：EBN実習Ⅱ、精神看護学概論、精神看護援助論						
授業計画						
実習方法： 〈病棟〉 1. 看護過程を用いて受け持ち患者の看護を実践する。 2. 治療プログラムに参加し働きかけの実際を学ぶ。 3. 看護場面の再構成を記述し、コミュニケーションの傾向を自己評価する。 4. 看護場面における倫理的な課題をとりあげアサーションを意識しながら検討する。 〈精神科デイケアまたは就労継続支援B型事業所〉 1. 精神科デイケア等のプログラムに参加し、当事者が地域生活を維持するための支援や課題を考察する。 実習期間：2週間 実習施設： 〈病棟〉 北アルプス医療センターこころのホスピタル、小諸高原病院、佐久総合病院、千曲荘病院 〈精神科デイケアおよび就労継続支援B型事業所等〉 各病院精神科デイケア 佐久の泉共同作業センター、ワークポート野岸の丘、等 ※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
効果的に実習ができるよう事前学習を十分しておく。 日々の実習をよくふりかえり、自己の成長につなげる努力をする。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
<p>テキスト：</p> <p>岩崎弥生 編(2019). 精神看護学① 精神看護学概論／精神保健. メヂカルフレンド社.</p> <p>岩崎弥生 編(2019). 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護. メヂカルフレンド社.</p> <p>参考文献：</p> <p>精神看護学概論、精神看護援助論で使用した資料等</p> <p>浅香山病院看護部 編. はじめての精神科看護－カラービジュアルで見てわかる！. メディカ出版.</p>
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による。
課題に対するフィードバックの方法
実習中は、カンファレンスを含め、口頭で指導者・教員から助言する。また、実習記録へコメントする。 事前課題やレポート、記録等は実習評価後、コメントして返却する。
担当教員からのメッセージ
医療にかかわるものとしての自覚と責任を持って実習に臨みましょう。臨地指導の方々や教員を活用しながら、精神看護について、感じ考え学び合いましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師として精神科に勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。 （柿澤美奈子、坂江千寿子、東修、井手段幸樹、林裕枝）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
小児看護学実習	392	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi 5号館2階201 橋本佳美 HASHIMOTO, Yoshimi 5号館3階308 鈴木千衣 SUZUKI, Chie 5号館3階307 石坂俊也 ISHIZAKA, Toshiya 1号館3階1334						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習期間内の学内日 相談があるときはメールで連絡して下さい。						
授業の概要						
健康障害を持つ子どもと家族のおかれている状況を理解し、個々の発達段階と健康レベルに応じた看護実践に必要な基礎的能力を養う。子ども(対象者)が医療およびケアを受けているそれぞれの場で、子どもやその家族および支援者と積極的にかかわりながら、援助ができるための能力を育む。さらに、それぞれの相互作用を通して自己の成長を目指す。						
到達目標						
1. 子どもの日常生活を理解し、健やかな成長発達への支援を考える。 2. 子ども(対象者)との相互作用を通して、個々の子ども(対象者)の理解を深める。 3. 子ども(対象者)の健康障害や医療が子どもと家族の生活におよぼす影響を理解する。 4. 健康障害をもつ子ども(対象者)や家族に必要なケアを表現できる。 5. 子ども(対象者)や家族を取り巻く人々(支援者)の役割を理解する。 6. 子どもや家族の看護を倫理的視点で考察し、必要な援助を考える。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「看護実践能力の基盤」を基に、「多様な健康のレベルと個別性に対応できる看護実践能力」に関連する。(DP3, DP6) *先修科目：E B N実習Ⅱ、小児看護学概論、小児看護援助論						
授業計画						
<p>【幼稚園・保育園実習】</p> <p>実習方法：各クラスの保育活動に参加し、子どもたちと積極的にコミュニケーションをとりながら、子どもや保育士の関わりを観察し、理解を深める。</p> <p>実習期間：2021年8月30日（月）～8月31日（火）</p> <p>実習施設：佐久幼稚園 佐久南幼稚園 小雀保育園</p> <p>【病棟実習、小児科外来・クリニック実習、特別支援学校】</p> <p>実習方法：病棟実習では、一人の子ども(対象者)を受け持ち看護過程を展開しながら、成長発達・健康レベルに応じた看護を指導を受けながら実践する。</p> <p>小児科外来・クリニックでは、外来受診する子ども・家族の看護課題に対し、指導を受けながら看護を実践する。</p> <p>特別支援学校では、児童生徒の学校生活を観察したり、指導を受けながら関わる。</p> <p>実習期間：2週間</p> <p>実習施設：佐久総合病院本院小児科外来 佐久中央医院 佐久医療センター小児科外来 三才山病院 3・5病棟 浅間総合病院小児科外来 東長野病院 のぞみA・B病棟 信州上田医療センター小児科外来 小諸養護学校</p> <p>※詳細は実習要項参</p>						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
実習オリエンテーションを聞き、各自が必要と考える事前学習をする。 実習中は日々の振りかえりを行い、教員の助言を受けて翌日の計画につなげる。						

テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
小児看護学概論・小児看護援助論で使用したテキスト 授業で配付した資料、その他、適宜提示します。
成績評価の方法・基準
実習要項に記載する方法・基準による。
課題に対するフィードバックの方法
実習中、口頭あるいは実習記録への適宜コメントにより指導する。また実習評価終了後、課題レポート・実習記録にコメントをつけて返却する。
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標を明確にして実習に臨んでください。 ・不明点等は速やかに教員と相談して解決しましょう。 ・感染症に罹患しないように、体調管理・感染予防行動をきちんととってください。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
総合病院の小児病棟や小児専門病院等での勤務経験のある教員が、その経験を活かして、実践に即した臨地実習指導をします（小林睦 橋本佳美 鈴木千衣 石坂俊也）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
母性看護学実習	402	3後	必	2単位 90時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○中田 覚子 NAKATA Satoko s-nakata●saku.ac.jp 5号館2階208 櫻井 綾香 SAKURAI Ayaka a-sakurai●saku.ac.jp 5号館2階207 湯本 敦子 YUMOTO Atsuko a-yumoto●saku.ac.jp 5号館3階301						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
実習期間中の学内日および実習終了後（その他の時間についてはメールで相談）						
授業の概要						
母性の特性と看護ケアの特殊性を理解し、適切に看護を展開するために必要な知識、技術、態度の統合を図る。妊娠、分娩、産褥期、新生児期にある母子と家族への援助方法を学ぶとともに、次代を育む家族機能と支援について学ぶ。						
到達目標						
1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族の身体的・心理的・社会的特徴と生理的变化について理解し、アセスメントできる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に必要な看護を科学的根拠に基づき計画、実施、評価できる。 3. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象とその家族に対する看護の実際から、看護者の姿勢・役割を考察できる。 4. 看護学生として適切かつ責任のある行動をとり、積極的に学ぶ姿勢を身につけることができる。 5. 母性看護学実習を通して、生命の尊さ・自己の親性観・自己の将来像について考察できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象と家族に対する看護実践を通じ、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」を身につける科目である。（DP3） ＊先修科目：EBN実習Ⅱ、母性看護学概論、母性看護援助論						
授業計画						
実習方法：以下の通りである ＜学内＞ 1. 実習オリエンテーション及び妊娠期・産褥期・新生児期に関する技術演習 2. シミュレーション演習（褥婦の全身状態の観察、授乳時の観察） 3. 視覚教材の視聴及び技術演習を通して、分娩期の看護および出生直後の新生児への看護を学ぶ 4. 妊娠期または産褥期にある対象とその家族をに対する健康教育の立案および実施 ＜施設＞ 1. 褥婦と新生児の一組を担当し、一連の看護過程を展開する 2. 妊婦健康診査の見学（一部実践）の見学を通して、妊娠期の看護を学ぶ 3. 保健指導（助産師外来、沐浴指導、退院指導 等）の見学を通して、看護者の姿勢を学ぶ 実習期間：2週間 実習施設：浅間総合病院 佐久医療センター 上田市立産婦人科病院 北信総合病院 ※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習① 身近な人の妊娠・出産・育児体験談のインタビュー ・事前学習② 実習用マイノートの作成（妊娠期カレンダー、産褥期・新生児期カレンダーの作成を含む） ・事前学習③ 基礎的な母性看護技術の修得に向けた自己練習 <p>※詳細は事前学習の手引き参照（母性看護援助論の初回講義時に説明予定）</p>
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
母性看護学概論・母性看護援助論で使用したテキストおよび講義資料
成績評価の方法・基準
母性看護学実習評価表に基づき評価する（母性看護学実習評価表は実習オリエンテーション時に配付予定）
課題に対するフィードバックの方法
実習期間内に随時個別指導を行う
担当教員からのメッセージ
<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護に関する看護技術の練習を十分に行い、基礎的看護技術を修得して実習に臨んでください。 ・健康管理に努め、健康上問題がある場合には早急に相談してください。 ・実習に関する諸連絡はmanabaで行います。必ず確認をしてください。 ・貴重なライフイベントの場面に関わらせて頂く実習となります。対象への感謝の気持ちを忘れず、積極的に学ぶ態度で実習に臨んでくれることを期待しています。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
<p>助産師として産科病棟に5年以上勤務経験のある教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行います。</p> <p>（中田覚子、櫻井綾香、湯本敦子、他）</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
在宅・地域看護学実習	415	3後	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○藤井千里	FUJII, Chisato	c-fujii●saku.ac.jp	1号館3階1323			
鶴岡章子	TSURUOKA, Shoko	s-tsuruoka●saku.ac.jp	5号館3階305			
佐藤美由紀	SATO, Miyuki	m-sato●saku.ac.jp	5号館3階304			
細谷たき子	HOSOYA, Takiko	t-hosoya●saku.ac.jp	5号館3階教員室			
川口桂嗣	KAWAGUCHI, Keiji	k-kawaguchi●saku.ac.jp	1号館1階1334			
嶋崎八恵子	SHIMAZAKI, Yaeko	y-shimazaki●saku.ac.jp	1号館1階1321			
他						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
学内日および実習終了後またはメール						
授業の概要						
療養者や障害者とその家族が、療養あるいは介護予防をしながら、在宅で希望する生活を継続するための健康支援の方法を、訪問看護ステーションと関連する保健医療福祉機関（施設）で実習する。在宅看護の対象の理解とヘルスアセスメントの基本知識と技術、効果的な看護を展開するための方法を、訪問看護師との同行訪問、同一事例への継続訪問を通して学ぶ。さらに、訪問看護師が病院や地域包括支援センターの保健師や看護師、多職種と連携してケアを提供し、あるいは地域ケアを充実させるために果たす役割について、ケアカンファレンス等への参加を通して理解する。						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族の生活面から健康課題を把握し、看護過程を展開できる。 2. 訪問看護師と同行し、在宅療養者とその家族に個別性のある看護援助ができる。 3. 在宅療養者の健康状態を維持するために、訪問看護師が、病院や地域の保健医療福祉の専門職と連携して行う看護活動を説明できる。 4. 地域で生活する人々の健康を維持し、生活を支える地域の保健活動やしぐみ、看護職（保健師・看護師）の役割を説明できる。 5. 療養者とその家族を支える在宅ケアの質を高める看護職（保健師・看護師）のあり方を説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
<p>「多様な健康レベルと個性に対応できる看護実践能力」を身につける科目である。（DP2）また「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題を捉える能力を養う」科目である（GP4）さらに他領域で学んだ看護技術を在宅に応用し看護過程を展開する</p> <p>＊先修科目：EBN実習Ⅱ、地域看護学概論、地域看護援助論Ⅰ</p>						
授業計画						
<p>実習方法：</p> <p><u>訪問看護ステーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護師に同行訪問し、様々な対象者への在宅看護の実践を学ぶ。 ・同一事例への継続訪問を通して看護過程を展開し、在宅における総合ケアの視点を明確に持ち、よりよい在宅ケアを推進させる看護の知識・技術・態度を養う。 <p><u>訪問診療部門</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療へ同行し、在宅ケアチームにおける多職種連携・協働の実践を体験する。 ・看護職および各専門職の役割を学び、多職種連携・協働のあり方について考える。 <p><u>高齢者保健福祉事業への参加</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を主な対象とする保健福祉事業に参加し、介護予防・生活支援の取り組みと社会資源について学ぶ。 ・地域全体で高齢者の生活を支える仕組みと、保健師・看護師の役割や多職種協働の仕方を学ぶ。 <p><u>地域包括支援センター</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの組織や機能、在宅ケアとの連携の実践を体験する。 ・地域の高齢者が健康で尊厳のある生活を送るための活動を理解し、保健師・看護師の役割と多職種協働について学ぶ。 						

<p>実習期間：3週間</p> <p>実習施設：上述の関連施設（佐久市、佐久市内関連施設、小諸市、佐久穂町、小海町、立科町）</p> <p>※詳細は実習要項参照</p>
<p>授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>関連科目の講義内容を復習するとともに、在宅・地域看護学実習の事前学習課題について十分に学修する。</p>
<p>テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等</p> <p>地域看護援助論Ⅰ、地域看護学概論、保健衛生学で使用したテキストおよび資料</p>
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>実習要項に記載する方法・基準</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p> <p>1. 臨地での個別指導 2. 学内カンファレンスでの集団指導 3. 実習記録およびレポートにコメントを記入</p>
<p>担当教員からのメッセージ</p> <p>この実習では、様々な健康状態やそれぞれの環境で生活する療養者とその家族に関わることで対象者を主体としたケアのあり方を学びましょう。また、在宅ケアを支えるケアシステムの理解と様々な保健医療福祉の場で活躍する看護職（保健師、看護師）と在宅ケアチームとの連携のあり方を、現場から積極的に学ぶ態度で実習に臨みましょう。</p>
<p>実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）</p> <p>行政保健師あるいは看護師として、市町村保健センター、保健所、総合病院、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター等での勤務経験をもつ教員が、その実務経験を活かした臨地実習指導を行う。</p> <p>（藤井千里、鶴岡章子、佐藤美由紀、細谷たき子、川口桂嗣、嶋崎八恵子）</p>

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業 形態	開講曜日 時限
地域看護学実習	416	4後	自 (保) 必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○佐藤美由紀 SATO Miyuki m-sato●saku.ac.jp 5号館3階304						
細谷たき子 HOSOYA Takiko t-hosoya●saku.ac.jp 5号館3階教員室						
川口桂嗣 KAWAGUCHI Keiji k-kawaguchi●saku.ac.jp 1号館3階1334						
中山松枝 NAKAYAMA Matue						
古畑洋子 HURUHATA Yoko						
峯村早苗 MINEMURA Sanae						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
学内日、実習終了後またはメール、manabaにて						
授業の概要						
地域全体の健康レベルの把握・分析の方法、地域の健康ニーズと資源の明確化及びそれに基づいて住民、医療、福祉、教育機関等と連携して行う事業の展開の方法と保健師の役割を実践的に学ぶ。保健師が保健所・児童相談所等の広域的・専門的な機関と市町村とで役割分担しつつ、連携して効果的に活動するための方法を理解する。さらに、地域看護管理について実践的に学ぶ。						
到達目標						
1. 広域のかつ専門的な保健福祉の専門機関としての保健所、精神保健福祉センター、児童相談所などが実施する保健福祉事業・活動と広域的な保健福祉システム、そこでの保健師の役割を説明できる。 2. 感染症、難病、災害などの健康危機の予防と対応など、専門的な対応が必要な健康課題について、保健所が国や市町村と連携して行う活動の内容と保健師の役割を説明できる。 3. 地域保健の根拠となる法律や制度を理解し、広域的な保健福祉計画などを読み、現状を知る。 4. 産業現場や学校における保健活動の特徴と、健康支援方法を理解する。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「国内外の地域特性と文化的多様性を理解し、健康課題をとらえる能力」を身につける授業科目であり、「多様な健康レベルと個別性に対応できる看護実践能力」「さまざまな領域の専門家と連携し協力できる能力」にも関連する。 (GP3, GP4, GP6) *先修科目：看護総合実習						
授業計画						
実習方法： 1) 保健所、児童相談所、精神保健福祉センターでの保健事業の参加・見学 2) 産業保健・学校保健の現場での実習・見学 3) 学校保健の現場での実習・見学 実習施設： 1) 佐久保健所、上田保健所、長野保健所、北信保健所、長野市保健所、長野県中央児童相談所 長野県精神保健福祉センター 2) ミネベアミツミ軽井沢工場、 3) 佐久市内小中学校 実習期間：8月30日～10月17日 ※詳細は実習要項参照						

授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間
テキストや授業資料等により実習において実施する事業や保健活動について調べる。実施後の評価及び復習。
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等
テキスト・参考文献：地域看護学概論、地域看護援助論Ⅱ・Ⅲ、保健衛生学、保健医療福祉行政論で使用したテキストや資料
成績評価の方法・基準
1. 実習における主体的な態度 35%、2. 実習記録・カンファレンス 50%、3. 課題レポート 15%
課題に対するフィードバックの方法
実習中、気づいたことや必要なことを都度助言する。また、実習記録はコメントを記載して返却する。
担当教員からのメッセージ
保健師科目履修者であり、地域看護援助論Ⅲを履修中であること。地域看護システム論、看護総合実習が履修済みであること。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
行政や結核研究所での保健師としての勤務経験を活かし、感染症、難病、精神保健等の保健活動、健康危機管理、広域的な保健福祉システム等の実習での学びを授業での知識と統合できるよう指導する。 （佐藤美由紀、細谷たき子、川口桂嗣、中山松枝、古畑洋子、峯村早苗）

【専門教育科目】

授業科目名	授業科目コード	配当年次時期	履修方法	単位数 時間数	授業形態	開講曜日 時限
看護総合実習	420	4前	必	3単位 135時間	実習	集中
担当教員（○印＝科目責任教員）						
○小林 睦 KOBAYASHI, Mutsumi 5号館2階201 他専任教員						
オフィスアワー／連絡先と連絡方法						
領域ごとのオリエンテーションでお知らせします。						
授業の概要						
EBN実習を含め、各領域の実習の集大成としての実習を行う。さまざまな状況下、さまざまな健康問題を持ち、健康レベルにある対象者について、今までの学習を応用して適切に、効果的に看護を展開する能力を養い、実践に必要な総合的実践能力を養う。						
到達目標						
1. 対象者の安全を保証するために、状況に応じた適切な看護上の判断を行い、指導の下に看護実践できる。 2. 看護チームの一員として、複数の対象者に対するケアの優先度を判断し、指導の下にケアを計画・実施できる。 3. 臨地の看護状況の特徴を把握し、指導の下に問題解決に向けた看護が実践できる。 4. 看護実践の場において、各専門職と連携・協働して指導の下に看護を展開することができる。 5. 対象者の健康生活を総合的に支援するチームの一員として、地域関係者と連携できる。						
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連						
「命の大切さを深く理解し、擁護する能力」と「看護実践能力の基盤」、「多様な健康のレベルと個性に対応できる看護実践能力」での学びをふまえ、「様々な領域の専門家と連携し、協働できる能力」を実践に生かしていく統合的な実習科目である。（DP1, DP3, DP6） ＊先修科目：成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、老年看護学実習、精神看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習、在宅・地域看護学実習 地域看護学を選択した場合：上記科目に加え、地域看護援助論Ⅱ・Ⅲ、地域看護システム論						
授業計画						
実習方法： 基礎総合看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、小児看護学、母性看護学、在宅看護学、地域看護学のいずれかの実践の場において、実習目標を総合的に達成する実習課題と実習計画を学生が主体的に設定して実習する。 具体的には、3年次2月の看護総合実習全体オリエンテーションで、各領域から提示される実習要項をもとに、希望領域でどのような実習を行いたいかを考え、第4希望までを所定の用紙に記入し期日までに提出する。学生の希望をもとに実習施設に関する配置等を決定し、4年次4月の前期履修ガイダンス時に各学生に実習領域を発表する。学生は配属になった領域担当教員と相談し、各自の実習計画に沿って主体的な学習をする。 但し、保健師国家試験受験資格取得要件科目履修者は、地域看護学（市町村における地域健康支援実習）とする。 実習期間：2021年6月28日～7月30日までの間で各領域が定める3週間 実習施設：各看護学実習施設及び関連施設 ※詳細は看護総合実習全体オリエンテーションで配付される各領域の実習要項を参照のこと。						
授業時間外学修（準備学習を含む）の具体的な内容及びそれに必要な時間						
既習科目及び実習についてふりかえり、必要な知識や看護技術について十分復習しておくこと。 実習する領域ごとに実習方法や実習期間が異なるので、事前に掲示される連絡事項や各領域の実習前オリエンテーションの内容には細心の注意をして実習準備をすること。						
テキスト及び参考書、参考文献・参考URL等						
テキスト：使用しない 参考文献：領域の専任教員が紹介する。						
成績評価の方法・基準						
実習要項に記載する方法・基準による。						

課題に対するフィードバックの方法
事前課題に関しては、領域ごとに実習開始前にオリエンテーションがあります。 実習中は、指導者・専任教員からの助言、実習記録やカンファレンスを通して伝えられます。
担当教員からのメッセージ
関心のあるテーマを選んで取り組む3週間の実習です。すでに学んだ知識や技術を統合して臨むことが求められるこの実習は、少人数のグループに分かれて実施します。看護に携わるプロフェッショナルとして社会に一步踏み出す前の実習として、担当教員に相談しながら、どのような実習にしたいか・何ができるか等、自分自身の課題を具体的に考え、目的と目標を明確にして臨みましょう。
実務経験のある教員等による授業科目（実務経験と当該授業科目との関連）
看護師としての臨地での実務経験のある教員が実習指導を担当します